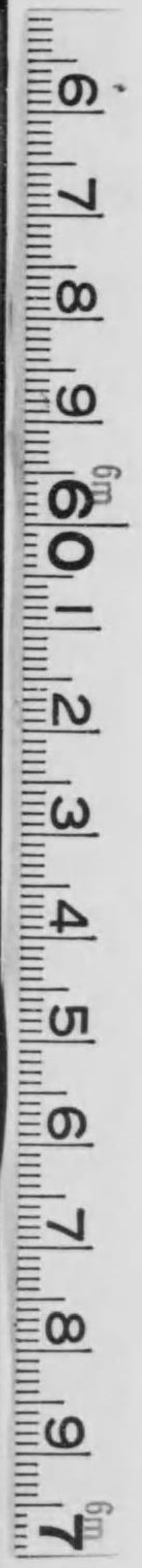


296
3



始



工F5N-5

290
2

水產講習所一覽

自大正十三年
至同十三年

水産講習所一覽

目次

第一章 沿革及組織	一
第一節 沿革概要	一
第二節 官制及事務規程	六
第一 水産講習所官制	六
第二 水産講習所處務規程	六
第三節 職員	八
第二章 講習	七
第一節 規則及規程	七
第一 水産講習所講習規則	七
第二 水産講習所講習規程	九
第二章 本科	九
第三章 遠洋漁業科	二九
第四章 研究科	三〇
第四章 別科	三〇
書式	三一

第三章 諸規程	三四
一 實習規程	三四
二 實習船規程	三四
三 寄宿舍規程	三七
第二節 講習功程	三七
第一 本科	三七
第二 遠洋漁業科	三七
第三 研究科	三六
第四 別科	三六
第三章 試驗及調査	三六
第一節 試驗及調査ニ關スル組織	三六
第一 水産講習所試驗規則	三六
第二 水産講習所種苗拂下規則	三六
第二節 各部署ノ概要	三六
第一 海洋調査部	三六
第二 試驗部	三六
一 漁撈試驗	三六
二 養殖試驗	三六
三 製造試驗	三六
四 化學試驗	三六

大正
13. 12. 1
寄贈

寄贈本

296-3

水産講習所一覽

第一章 沿革及組織

第一節 沿革概要

本所、明治二十年三月二十二日勅令第四十七號水産講習所官制ニ基ツキ創立セラレ専ラ水産ニ關スル講習及試験ヲ行フ

講習事業ハ本所創立ノ際水産傳習所ノ生徒ヲ引繼ケリ始メ大日本水産會ハ水産教育ノ必要ニ鑑ミ明治二十年水産傳習所ヲ起シ同二十六年農商務省ヨリ生徒養成ノ囑託ヲ受ケ修業年限ヲ三箇年ニ延長シ次テ文部省ヨリ水産科教員養成ヲ囑託セラレ教務ノ擴張ヲ行ヒシカ後本所ノ官設ト爲ルニ及ンテ遂ニ之ヲ閉所セリ

本所設立當時講習科ノ學程度ハ尋常中學第三學年修業以上ト爲シ修業年限ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テ漁撈、製造、養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケタルモ同三十三年講習科ヲ本科ト改稱スルニ及ヒ入學程度ヲ中學卒業以上ト爲シ漁撈、製造、養殖ノ三科中其一ヲ選ミテ入學セシムルコト爲シ同四十四年入學者資格ヲ中學卒業者、專門學校入學者檢定ニ合格シタル者及道府縣立水産學校卒業者等トシ又水産家及水産學校卒業生ノ優先入學ヲ許シ可成實業者ヲ教養スルノ方針ヲ取レリ此他現業科ヲ設ケテ現業ヲ講習セシメ(明治三十年)又水産教員(同三十五年)製鹽技術員(同三十八年)特殊技術員(同四十二年)ノ養成ヲ爲シ且本科卒業生ノ爲研究科ヲ設ケ、尙ホ本科漁撈科卒業生ノ爲メ同三十三年ニ遠洋漁業科ヲ設置セリ、卒業

沿革概要

一

目次

五 漁船機械試驗	五三
附一 編纂部	五三
二 試驗、鑑定及設計等ノ依頼	五三
第四章 本所敷地建物及諸設備	五三
第一節 本所敷地建物	五三
第二節 諸設備	五三
第一 船 艇	五三
第二 實習場實驗場及試驗地	五三
第五章 圖書及標本	五三
第一節 圖書及標本ニ關スル規程	五三
第一 圖書標本委員會規程	五三
第二 圖書保管規程	五三
第三 圖書借覽規程	五三
第二節 圖書及標本ノ現況	五三
第六章 在外研究生	六〇
第一節 在外研究生規程	六〇
第二節 戰時事變ノ際ニ於ケル文部省海外留學生等定員ニ關スル勅令	六二
第三節 在外研究生	六一
第七章 生徒	六二

第一節 在學生徒	六二
第一 生徒氏名	六二
第二 在學生徒府縣別	六七
第二節 卒業生	六九
第一 卒業生氏名	六九
第二 卒業生狀況	一〇七
附 錄	
一 職員移動	一一三
二 學友會	一一四
三 財團法人水産研究獎勵會	一一六
四 試驗報告及其他刊行物	一一八

二

者及現業科在學者ノ資格ニ關シテハ明治三十二年文部省ハ文官任用令第三條ニ依リ本所講習科ヲ官公立中學校ト同等以上ノ者ト認定シ同四十年遞信省ハ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乗組タル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニヨリ甲種二等運轉士、帆船甲種二等運轉士又ハ汽船甲種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコト又現業科中遠洋漁業專修ヲ卒リタル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ一箇年ヲ短縮シテ丙種運轉士乙種運轉士又ハ乙種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セリ、大正五年九月本所ノ規則及規程ヲ更訂シ從前ノ學期及學年ヲ變更シテ毎年四月ヲ以テ學年ノ始トナシ現業科ト稱シタルモノヲ別科ト改メ又從來ノ特殊技術員養成科ヲ廢シ單ニ必要ニ應シテ短期講習ヲ行フコトトセリ、從來本所本科生徒ハ漁撈科三十名製造科二十五名養殖科十五名合計七十五名募集シ來リシカ時代ノ要求ニ伴ヒ同八年度ニ於テ各科五名宛都合十五名ヲ増募スルコトトシ且教授ノ増員ヲモ必要トスルニ至リタルヲ以テ之カ増加ヲ爲セリ、又同年七月文部省告示第一九二號ヲ以テ本所本科卒業者ハ公私立實業學校教員タルコトヲ得ル者ト指定セラレタリ、最近長足ノ進歩ヲ爲セル本邦水産業ノ狀態ニ鑑ミ同十一年一月講習規則及同規程ヲ更訂シ本科ノ修業年限ヲ延長シテ四箇年トシ其入學資格ヲ變更シテ中學校第四學年修了者並ニ之ニ準スル者又ハ甲種水産學校卒業者並ニ之ニ準スル者ト爲シ更ニ學科課程ヲ改正シテ應用的技術ノ向上ト基礎的學力ノ充實トヲ圖レリ而シテ之カ爲メニハ經費職員ノ増加ヲ必要トセルヲ以テ大正十年度以降五箇年ニ亘リ之カ増加ヲ計レリ、同十二年七月講習規則及同規程ヲ更訂シ遠洋漁業科ノ修業年限ヲ二年ニ改メ又本科漁撈科學科課程ノ一部ヲ變更シ同科第四學年ニ於ケル授業ハ他學年ニ於テ之ヲ課シ同學年全部ヲ乘船實習ト爲セリ、同十二年七月陸軍省並文部省ハ本科第一學年ヲ修了シタル者ハ徵兵令第十三條第一項第二號ニ規定スル中學校ノ

二

學科程度ト同等以上ノ課程ヲ修了シタル者ト認定シ又本科在學者ニ對シ徵兵令第二十三條第一項ノ規定ニ依リ一年志願兵ノ入營ヲ滿二十五歳マテ延期スルコトヲ認定セリ、同十三年五月文部省ハ大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ明治三十三年以後ニ入學シタル本所本科卒業者ニ對シ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定セリ

試驗事業ハ最初ハ講習ノ傍一二製造ニ關スル試驗ヲ施行スルニ過キサリシモ明治三十七年試驗規程ノ制定ニ依リ水産生物、漁撈、養殖、化學、製造、漁船及機械ニ關スル事項ニ付調査及試驗研究ヲ爲スコトトナリ且定員經費共ニ之ヲ増加シ進シテ試驗鑑定ニ關スル當業者其他ノ依頼ニ應スルコトトシ爾來試驗事業ノ擴張ヲ圖リ大正三年三月處務細則ヲ改正スルニ方リ漁業基本調査部、漁撈試驗部、養殖試驗部、製造試驗部、化學試驗部、漁船機械試驗部ニ分チ又編纂部ヲ設ケ講習調査及試驗ニ關スル報告其ノ他ノ編纂ヲ行フコトトシ尙農商務省令ヲ以テ試驗規則及種苗拂下規則ヲ發布スルニ至レリ、同八年九月處務規程ヲ改正シ漁業基本調査部ヲ海洋調査部ト改メ其定員經費共ニ之ヲ増加シ同九年ニハ二箇年ノ繼續ヲ以テ漁船機械試驗ノ擴張ヲ行ヒ專任職員並經費ノ増加ヲ得、同十年ニ至リ養殖試驗ノ擴張ヲ行ヒ豊橋、木崎、二見、大長ノ四箇所ニ試驗場ヲ増設シ定員、經費、設備ノ増加ヲ計レリ

設備、養舍ハ明治三十年本所設立ノ當時ニ於テ舊水産傳習所ヨリ之ヲ引繼キテ充用シ同三十三年ニ至リ地ヲ深川區越中島ニトシテ工ヲ起シ同三十五年竣工セリ實習場、實驗場及試驗地ハ深川區冬木町養魚試驗池、神奈川縣小田原實習場、千葉縣館山實習場及同灣内高島臨海實驗場等アリ又船舶ハ明治三十四年快鷹丸(百四十噸)ヲ新造シ同三十九年同船ノ朝鮮迎日灣ニ於テ遭難スルニ及ヒ同四十一年雲鷹丸(四百四十四噸)

噸)ヲ新造シ同四十年隼丸(二十八噸)ヲ新造シテ生徒實習ニ供シタルカ漸次其ノ範圍ヲ擴張シテ漁場及海洋ノ調査研究竝ニ漁業試驗ニモ使用スルニ至レリ大正七年ニハ更ニ一隻天鷗丸(百六十一噸)ヲ新造シ專ラ海洋調査ニ使用スルコトトセリ、本所建築物ハ大正六年十月一日ノ風水害ニ依リ總テ多少ノ破損アリ殊ニ後方面ノ諸建築物ハ殆ント倒壊シタルヲ以テ同七八年ニ互リテ之レカ復舊ヲ竣功セリ次テ同九年十二月二十三日祝融ノ災ニ罹リ實驗室ノ一部、漁撈標本室及海洋調査部ヨリ成ル一棟ト生徒控室トヲ燒失セルヲ以テ其復舊工事ト共ニ同十年講習部ノ革進及漁船機械試驗養殖試驗事業ノ擴張ニ伴ヒ舊東京工業試驗所敷地ノ一部保管轉換ヲ受ケ之レト本所敷地内ニ互リ疊舎其他ノ増設ヲ圖レリ、猶本所以外ニ於テハ同十年講習部擴張ノ爲メ館山實習場、高島實驗場、小田原實習場等ニ改増築ヲ行ヒ、養殖試驗擴張ノ爲メニハ長野縣本崎湖、愛知縣豊橋市外、兵庫縣二見、廣島縣大長等ニ夫々養魚養貝試驗場ヲ設置シ深川區冬木町養魚試驗池ハ之ヲ廢止セリ、同十二年九月ノ大震火災ノ爲メ本所諸建物諸設備等大半烏有ニ歸セルカ此際ハ教務上重要ノ時期ニ屬シ一日モ學業ノ中斷ヲ許サ、ルヲ以テ應急處置トシテ府下豊多摩郡杉並村蠶業試驗場ノ一部ヲ其假疊舎ニ充テ、事務ヲ執ルコト、シ同十月十五日ヨリ爰ニ應急ノ授業ヲ開始セリ而シテ直チニ善後復舊ノ計畫ヲ立テ更ラニ應急ノ處置トシテ舊敷地ノ一部ニ約二千坪ノ假疊舎ヲ建設シ應急ノ設備ヲ整ヘ同十三年四月八日ヨリ授業ヲ開始シタリ又小田原、館山、高島等ニ於ケル本所實習場並實驗場ハ總テ多少ノ被害アリタルモ急速ニ復舊又ハ修繕ヲ爲シ共ニ完成ヲ告ケ講習及試驗ニ供用シ得ルニ至レリ

所長ハ本所設立當時ハ官制ニ依リ水產局長之ニ任シ別ニ監事ヲ置キテ事務ヲ執ラシメ水產局長藤田四郎、葦原清風、竹内正志、牧朴真相踵テ所長タリ明治三十六年官制改正ニ伴ヒ監事ヲ廢シ專任所長ヲ置クコト

トナリ前監事松原新之助所長ニ任シ同四十四年一月農商務技師下啓助之ニ代リ大正四年十二月水產局長松崎壽三所長心得ヲ命セラル同六年二月三日技師伊谷以知二郎之ニ代リ同十三年八月六日技師岡村金太郎之ニ代ル

第二節 官制及事務規程
第一 水産講習所官制

明治三十年三月二十二日
勅令第四十七號

(沿革)

明治三十一年一月勅令第二九八號、三十三年三月同第七二號、三十四年四月同第四二號、三十六年一月同第二三六號、四〇年四月同第一四七號、四一年一月同第二八五號、四二年三月同第七七號、四三年三月同第八四號、同年九月同第三五一號、大正二年六月同第二〇四號、七年四月同第一〇八號、八年四月同第一三六號、九年八月同第三三七號、一〇年五月同第二二〇號、一一年五月同第二四三號、同年一月同第五一〇號、一二年三月同第八八號、一三年二月同第二二號改正

第一條 水産講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水産ノ傳習及試験ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 所長 一人
- 技師專任 二十人
- 教授專任 十七人
- 技手專任 二十人

- 助教專任 九人
- 屬專任 十一人
- 第三條 所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 (削除)
- 第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス
- 第六條 教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル
- 第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス
- 第八條 助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク
- 第九條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第十條 (削除)

第二 水産講習所處務規程

明治三十七年一月二十三日
勅令第三三號

第一條 水産講習所ニ左ノ部課ヲ置ク

- 一 講習部
- 一 試験部
- 一 海洋調査部
- 一 教務課
- 一 庶務課

第二條 講習部ニ於テハ漁撈、製造及養殖ノ講習ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 試験部ニ於テハ漁撈、製造、養殖、水産化學、漁船及機械ノ試験ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 海洋調査部ニ於テハ海洋ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 生徒ノ入退學試験及卒業ニ關スル事項
- 二 生徒及寄宿舎ノ取締ニ關スル事項
- 三 其ノ他教務ニ關スル事項

第六條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 官印ノ保管ニ關スル事項
- 二 所員ノ進退身分ニ關スル事項
- 三 所内取締ニ關スル事項
- 四 文書ノ接受、發送及保管ニ關スル事項
- 五 豫算及決算並會計ニ關スル事項
- 六 官有財産及物品ニ關スル事項
- 七 圖書及標本ニ關スル事項
- 八 他部課ノ主掌ニ屬セサル事項

第七條 所長處務細則又ハ講習及試験ニ關スル規程ヲ設クルトキハ農商務大臣ニ報告スヘシ

第八條 所長講習生ノ募集人員ヲ定ムルトキハ農商務大臣ニ經伺スヘシ

第九條 所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ

第十條 所長ハ毎年事業ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第三節 職員

所長

技師

植物學

養殖論(鹹水養殖)、
動物學、同實驗

漁撈論(網具)

養殖試驗部主任

漁撈試驗部主任

海洋調查部員

養殖講習部主任
漁撈講習部主任
生徒取締主任

漁船機械試驗部主任

漁撈試驗部員

漁撈論(漁法)
養殖論(淡水養殖、
水質)養殖法實習

養殖試驗部員(在大長)

海洋調查部員

漁船論(西洋型)、製圖

漁船機械試驗部員

漁場論、海洋學、養殖
論(餌料)浮游生物學

海洋調查部員
養殖試驗部員

製造化學、化學實驗

航海術、運術、航
海及運用實習

物理學、同實驗

漁撈論(漁法)漁撈大意

漁船機械試驗部員
化學試驗部員

生徒取締
雲鷹丸船長

漁船機械試驗部員

漁撈試驗部員

漁船機械試驗部員

養殖試驗部員(在木崎)

養殖試驗部員(在豐橋)

養殖試驗部員(在大長)

教

動物學、同實驗、養
殖保護論

職員

漁撈試驗部員

(大正十三年九月末日現在)

理學博士 岡村金太郎

兼農商務技師
理學博士 岡村金太郎

兼農商務技師
理學博士 妹尾秀實

兼農商務技師
理學博士 川合角也

農商務技師 下田奎一

農商務技師 三善春雄

兼農商務技師
工特許局技師 星野三郎

兼農商務技師
工特許局技師 小瀬次郎

兼農商務技師
理學士 日暮忠

兼農商務技師
理學士 梶山英二

兼農商務技師
工農商務技師 堀江武夫

農商務技師 丸川久俊

農商務技師 田島達之輔

農商務技師 宮脇伊太郎

理學士 佐藤俊一

理學士 野元俊一

理學士 山本靜一

兼農商務技師 田內森三郎

兼農商務技師 鎌田武造

農商務技師 高山伊太郎

特許局技師 村山敏三

農商務技師 太田康治

農商務技師 柴田雅一

農商務技師 中野宗治

農商務技師 鴨脚七郎

農商務技師 松井佳一郎

兼農商務技師
理學士 天野廣吉

兼農商務技師
理學士 田子勝彌

土木學、測量術、同實習

養殖試驗部員

食品論、水產通論

製造試驗部員

生物化學

化學試驗部主任

化學

化學試驗部員

運用術、同實習

海洋調查部員

動物學、發生學、動物及發生實驗

養殖試驗部員
製造試驗部員

漁撈論(網具)漁獲物處理法

漁船機械試驗部員

法規

教務課長

植物學、同實驗

養殖試驗部員

教務課

有機化學、同實驗

化學試驗部員

食品論

製造試驗部主任

數學

漁船機械試驗部員

機械學

法規

機械學

法規

技手

食品論、製造法實習、漁獲物處理法

製造試驗部員

航海術、運用術、航海及運用實習

雲鷹丸一等運轉士

食品論、化學實驗

海洋調查部員

漁撈論(釣具)、同實習

化學試驗部員

製造化學、同實習

海洋調查部員

製造化學、同實習

漁撈試驗部員

製造化學、同實習

漁船機械試驗部員

製造化學、同實習

養殖試驗部員(在二見)

製造化學、同實習

海洋調查部員

製造化學、同實習

養殖試驗部員(在大長)

製造化學、同實習

養殖試驗部員(在豐橋)

製造化學、同實習

漁船機械試驗部員

製造化學、同實習

海洋調查部員

製造化學、同實習

海洋調查部員

職員

一〇

農商務技師 橘 英三部

兼農商務技師 小川 清一

農學博士 山 川 洵

農學博士 關 根 秀三郎

農學博士 山 本 久平

海軍豫備少佐 山 本 久平

理學士 寺 尾 新

農商務事務官 井 野 碩哉

兼農商務事務官 關 根 磯吉

法學士 山 中 鍊治

水產學士 東 道 太郎

理學士 大 谷 武夫

工學士 木 村 金太郎

農商務事務官 前 原 重秋

法學士 石 黑 武重

工學士 富 栞 建造

農商務技師 井 出 正孝

北川 政次郎

田 中 耕之助

日 比 義三

山 本 祥吉

長 棟 暉友

三 浦 定之助

深 山 義道

藤 田 正己

關 田 晴雄

神 谷 尚志

西 岡 丑三

大 島 信夫

丸 田 秀夫

稻 村 泰一

藤 井 信一

小 西 芳太郎

兼農商務技師

農商務技師

二

助

養殖試驗部員(在金澤)
海洋調査部員
養殖試驗部員(在木崎)

教務課
生徒取締

兼

屬

堀重藏
山下武雄
川村正雄

物理學

漁船機械試驗部員

教務課
生徒取締

兼

屬

三浦正
三宅豐
小石安一

食品論

化學試驗部員

生徒取締

鳥居強次

漁船論(日本型)運用術
實習、製圖

動物學實驗

生徒取締

篠山武次郎

食品論
(休職)

動物學實驗

生徒取締

海老名謙一
西牆朝祐
鈴木直辰

屬

庶務課會計掛主任

庶務課
庶務課

小澤嘉助
淵上保喜
石鹽甚二郎

囑

養殖試驗部員(在豐橋)
養殖試驗部員(在木崎)
海洋調査部員
海洋調査部員
養殖試驗部員(在大長)

講習部

水産經濟ニ關スル調査
漁場調査
無線電信ニ關スル事項
水産化學試験

教務課

雲鷹丸事務長 岩崎甚左衛門
圖書標本掛主任 中司正朔
兼 技手 能勢忠雄
兼 技手 川尻稔
庶務課文書掛 石塚源之進
兼 技手 中野清
兼 技手 森本敬義
井出重男

經濟
英語、獨逸語
數學、簿記
航海術、同實習
無機化學、同實驗

雲鷹丸機關長

英語
英作文

職員

理學士 羽原又吉
文學士 相原一郎
文學士 池上泰次郎
海軍大佐 岸榮太郎
農學士 松原九平
文學士 濱口文二
文學士 梅谷儀一
文學士 山内爲之輔
フクロル、オブ、
フィロソフイー
川邊喜三郎

一三

植物學、同實驗

植物色素試驗

雲鷹九一等機關士

理學士

恩田經介
飛田仁助
小濱清
金山重
大金龍三
大槻清三
今村喜市

航海術、運用術

英語

水産貿易

雲鷹九二等機關士

理學士

森潤三郎
深作安文
加藤武夫
北村銀平
後藤幸男
馬場信倫
原田定吉
岡田阿歌
岡田彌一郎
松尾靈彦
浦田淳造
小南清

修身

地質學

救急療法

細菌學實驗

氣象學、同實習

貝殼珊瑚彫刻

海洋學、湖沼學

動物學、同實驗

製造化學

圖案

細菌學

動物學同實驗、動物生理學

魚病調査

衛生ニ關スル事項

赤潮魚病其他細菌ニ關スル調査

生物調査

魚種改良試驗及魚病調査ニ關スル事項

館山實習場ニ於ケル衛生事項

小田原實習場ニ於ケル衛生事項

試験部

漁船々型試験

養殖餌料研究(在豊橋)

魚病研究及魚種改良試験

冷凍試験及物理ニ關スル事項

化學ニ關スル事項

水産應用機械ニ關スル試験及調査

電氣應用漁具試験

たらば蟹ノ生態ニ關スル調査研究

職員

東京帝國大學教授 岸上鎌吉
理學博士 岸上鎌吉
農商務事務官 黒田鴻五
法學士 黒田鴻五

秋山吉五郎
鈴木勝太郎
栗原祐吉

東京帝國大學教授 山本武藏
工學博士 山本武藏
理學博士 山田徳二郎
東京帝國大學教授 石川千代松
理學博士 石川千代松
東京帝國大學教授 長岡半太郎
農學博士 長岡半太郎
東京帝國大學教授 鈴木梅太郎
工學博士 鈴木梅太郎
東京帝國大學教授 加茂正雄
工學博士 加茂正雄
東京帝國大學教授 西健
理學博士 西健
理學士 中澤毅一

海洋調査部

海洋調査ニ關スル事項
漁業基本調査ニ關スル
事項、海洋學ニ關スル
研究事項
海洋調査ニ關スル事項
海洋調査ニ關スル事項
海洋調査部員

東京帝國大學教授 原 十 太
農學博士
東京帝國大學教授 寺 田 寅 彦
理學博士 岡 田 武 松
海軍大佐 葛 河 村 達 藏
西 清 重

第二章 講 習

第一節 規則及規程

第一 水産講習所講習規則

(沿革) 明治三十三年一月告示第七號、同三十七年四月同
第九〇號、同四十四年三月同第一九九號、大正二年
四月同第一〇三號、同二年七月同第二三三號、同
五年九月同第一七〇號、同一年一月告示第三一
號傳、規則廢止、大正一一年一月省令第一號講習
規則制定大正一二年七月同第一七號改正

第一條 水産講習所ハ水産ニ關スル學理及技術ヲ教
授シ兼テ徳性ノ涵養ニ努ム

第二條 水産講習所ニ本科、遠洋漁業科、研究科及
別科ヲ置ク

本科ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ分ツ

第三條 本科ニ於テハ漁撈、製造又ハ養殖ニ關シ各
必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關シ必要ナル學理

規則及規程

及技術ヲ習得セシム

研究科ニ於テハ既修學科目又ハ其ノ關係學科目ヲ
專攻セシム

別科ニ於テハ水産ニ關スル特殊ノ科目ヲ限リ必要
ナル學理及技術ヲ習得セシム其ノ科目ハ水産講習
所長之ヲ定ム

第四條 修業年限ハ本科ニ在リテハ四年、遠洋漁業
科ニ在リテハ二年、研究科ニ在リテハ三年以内、
別科ニ在リテハ一年トス但シ遠洋漁業科及別科ノ
修業年限ハ水産講習所長ニ於テ一年以内ヲ限リ之
ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 授業料ハ之ヲ徵收セス

第六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日
ニ終ル

第七條 水産講習所ノ各科ニ入學スル者ハ左ノ資格
ヲ具フルコトヲ要ス

一 本科ニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者

- (イ) 中學校第四學年ヲ備了シタル者
- (ロ) 高等學校尋常科ヲ修了シタル者
- (ハ) 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
- (ニ) 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
- (ホ) 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
- (ヘ) 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業生ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- (ト) 甲種水産學校ノ本科又ハ尋常小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限五年以上若ハ高等小學校卒業程度ヲ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校ノ水産科ヲ卒業シタル者
- 二 遠洋漁業科ニ在リテハ水産講習所本科ノ漁撈科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル者

- 三 研究科ニ在リテハ水産講習所本科ヲ卒業シタル者
 - 四 別科ニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者
 - (イ) 水産學校ノ本科若ハ別科又ハ府縣水産講習所ヲ卒業シタル者
 - (ロ) 水産學校以外ノ實業學校ノ本科ヲ卒業シタル者又ハ中學校第三學年ヲ修了シタル者
 - (ハ) 二年以上水産ノ業務ニ従事シタル者
 - (ニ) 其他前各號ニ準スヘキ者
- 第八條 本科ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書、遠洋漁業科ヲ修了シタル者ニハ修業證書、研究科ヲ修了シタル者ニハ專攻證書、別科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與ス
- 第九條 卒業生又ハ修了生ニシテ學術優等品行方正ナル者ニハ優等證書ヲ授與ス
- 第十條 本則、本則ニ基キテ發スル規程又ハ水産講習所長ノ發スル命令ニ違反シ生徒タル本分ニ背ク行爲アル者ハ之ヲ懲戒ニ附ス

第二 水産講習所講習規程

明治三十年四月

懲戒ハ戒飭、停學及退學トス

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除籍スルコトアルヘシ

- 一 數々遅刻、缺課又ハ缺席スル者
- 二 一月以上無届缺席スル者
- 三 成業ノ見込ナキ者

第十二條 本則施行ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ告示ス

附則

本則ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 各科ノ學科課程左ノ如シ

第一章 本科

一 學科課程

(沿革) 明治三十一年一月、同三十三年一月、同三十三年三月、同三十三年九月、同三十七年四月、同四十四年三月、同四十二年四月、同年六月、同五十五年九月、同年十二月、同十一年一月、告示第三一號講習規程廢止、大正十一年一月告示第三一號講習規程制定、大正一十二年七月同第一八二號改正

學年學期	時數		學科目	第一學期	第二學期	第三學期	夏季實習	第一學期	第二學期	第三學期	夏季實習	第四學年
	時	數										
第一學期	二	二	植物學	二	二	二	三	二	二	二	三	
第二學期	二	二	化學	二	二	二	三	二	二	二	三	
第三學期	二	二	物理學	二	二	二	三	二	二	二	三	
夏季實習	五	五	英語	五	五	五	五	五	五	五	五	
第一學期	五	五	修身	五	五	五	五	五	五	五	五	
第二學期	五	五	衛生學	五	五	五	五	五	五	五	五	
第三學期	五	五	農業	五	五	五	五	五	五	五	五	
夏季實習	五	五	水産學	五	五	五	五	五	五	五	五	
第一學期	五	五	水産學	五	五	五	五	五	五	五	五	
第二學期	五	五	水産學	五	五	五	五	五	五	五	五	
第三學期	五	五	水産學	五	五	五	五	五	五	五	五	
夏季實習	五	五	水産學	五	五	五	五	五	五	五	五	

合計	實習及實驗										養殖論													
	天然飼料	測量及製圖	化學	物理	細菌學	植物學	普通水產	動物學	普通水產	紅綠發生	計	簿記	製造大意	漁撈大意	水產通論	地質學	經濟水產	法規通論	湖沼及海洋學	氣象學	魚病	養殖論	淡水水	
三九	一四					三				六														
三九	一四					三				五														
三九	一四					三				六														
三九	一四					三				二六														
三九	一四					三				二六														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五														
三九	一四					三				二五			</											

期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三條 休業日左ノ如シ

- 一 日曜日
- 一 大祭祝日
- 一 記念日 三月二十二日
- 一 春季休業日 自四月七日 至同月十一日
- 一 夏季休業日 自七月十一日 至九月十五日
- 一 冬季休業日 自十二月二十五日 至一月七日

但シ春季、夏季又ハ冬季ノ休業日ニ於テハ實習ヲ課スルコトアルヘシ

三 入學、在學

第四條 入學期ハ學年ノ始トス

第五條 入學志願者ニ對シテハ學科試験及體格検査ヲ行フ

學科試験ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ左ノ學科ニ付之ヲ行フ

- 一 國語漢文
- 二 英語
- 三 數學
- 四 物理學
- 五 化學

第六條 入學試験ニ合格シタル者ハ其ノ成績ノ順位ニ依リ入學ヲ許可ス

第七條 入學試験ノ期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第八條 入學志願者ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ付志望學科ヲ指定シ其ノ順位ヲ定ムヘシ

入學ノ許可ヲ受ケタル後ニ於テハ他ノ科ニ轉スルコトヲ得ス但シ一學年以上在學ノ後轉科ヲ望ム者アルトキハ詮衡ノ上他ノ科ノ第一學年ニ編入スルコトアルヘシ

第九條 入學志願者ハ書式第一號ノ入學願書ニ入學試験料及左ノ各號ノ書類ヲ添ヘ之ヲ水産講習所長

ニ差出スヘシ

一 書式第二號ニ依ル履歷書

二 水産講習所講習規則第七條第一號ノ資格ヲ證スル書面又ハ其ノ資格ヲ取得スヘキ旨ヲ證スル當該學校長ノ證明書

三 六ヶ月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身脱帽ノ手札形寫眞、裏面ニ第一志望學科名、族籍氏名及生年月日ヲ自署スヘシ

第十條 入學試験料ハ金三圓トシ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼附シテ差出スヘシ

既納ノ入學試験料ハ之ヲ還付セス

第十一條 退學シタル者再入學ヲ請フトキハ詮議ノ上學年ノ始ニ於テ原級又ハ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

第十二條 入學ヲ許可セラレタル者ハ許可ノ日ヨリ

規則及規程

十日以内ニ保證人ト連署ノ上書式第三號ニ依ル在學證書ヲ差出スヘシ正當ノ事由ナクシテ其ノ手續ヲ遅延シタルトキハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 保證人ハ二人トシ内一人ハ入學者ノ父兄、親戚又ハ入學者ニ學資ヲ支給スル者、他ノ一人ハ東京市又ハ其ノ附近ニ在住スル丁年以上ノ男子タルコトヲ要ス

第十四條 保證人死亡シ又ハ保證人タル資格ヲ缺クニ至リタルトキハ遲滞ナク之ヲ改ムヘシ

保證人ニシテ其ノ責務ヲ盡ササルモノト認ムルトキハ之ヲ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 生徒ハ制服制帽ヲ着用スヘシ

四 缺席、休學、退學

第十六條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ缺席スル者ハ其ノ事由ヲ具シ通學生ハ保證人ノ連署ヲ以テ、寄宿舎生ハ生徒取締ノ證明ヲ經テ速ニ之ヲ届出ツヘシ

但シ疾病ニ因リ引續キ一週間以上缺席スルトキハ
届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十七條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ休學セムトスル
者ハ事由ヲ具シ尙疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書
ヲ添ヘ保證人ノ連署ヲ以テ其ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 缺席日數全學年ヲ通シテ九十日以上ニ亘
ル者ニ對シテハ其ノ學年間休學ヲ命スルコトアル
ヘシ

第十九條 休學者ハ次學年ノ始ヨリ原級ニ編入ス但
シ陸軍兵役ニ服スル者ニシテ服役滿期後直ニ就學
セムトスルモノハ其ノ學年ニ於テ原級ニ編入ス

第二十條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスル
者ハ事由ヲ具シ尙疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書
ヲ添ヘ保證人ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ

五 試驗、進級、卒業、

第二十一條 學科ニ付テハ一學期一回以上試驗ヲ行
フ

實驗實習、卒業試問及卒業論文ノ評點各五十點以
上、平均六十點以上ヲ得タル者ハ之ヲ卒業セシム
第二十六條 各學年ニ於テ學科又ハ實驗實習ニ付前
條ニ定ムル得點ヲ得サル者ハ之ヲ上級ニ假編入シ
其ノ年九月末日迄ニ其ノ學科若ハ實驗ニ付再試験
ヲ行ヒ又ハ實習ヲ補充セシメ其ノ評點各六十點以
上ヲ得タル者ハ之ヲ成規ニ進級セシメ然ラサルモ
ノハ之ヲ除籍ス

前項ノ規定ハ學年ノ成績前條ニ定ムル平均點ニ達
セサル者ニ付之ヲ準用ス但シ其ノ學科及實驗ノ再
試験又ハ實習ノ補充ハ得點六十點未滿ノモノニ付
之ヲ行フ

第四學年ノ成績前條ニ定ムル得點ニ達セサル者ニ
對シテハ其ノ卒業ヲ延期シ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二十七條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ試験ヲ受クル
コト能ハサル者ニ對シテハ其ノ事由ノ明瞭ナル場
合ニ限り追試験ヲ施行ス但シ當該學年中ノ他ノ學

實驗實習ニ付テハ其ノ成績、勤惰及報告書ニ依リ
其ノ評點ヲ附ス

第二十二條 最終ノ學年ニ於テハ學科試験ノ外卒業
試問ヲ行ヒ且製造科及養殖科ノ生徒ニハ卒業論文
ヲ提出セシム

第二十三條 評點ハ百點ヲ以テ滿點トス

第二十四條 各學年ニ於ケル各學科及各實驗實習ノ
得點ハ當該學年ニ於ケル各學期試験ノ當該評點ヲ
合計シ之ヲ平均シタルモノトス

前項ノ各得點ヲ合計平均シタルモノヲ以テ當該學
年ノ平均點トス但シ最終學年ニ於テハ各學科ノ當
該學年ノ得點ヲ合計平均シタルモノニ當該學年ニ
於ケル各實驗實習、卒業試問及卒業論文ノ各評點
ヲ合計平均シタルモノヲ以テ平均點トス

第二十五條 各學年ニ於テ各學科及各實驗實習ノ得
點各五十點以上、平均點六十點以上ヲ得タル者ハ
之ヲ進級セシメ最終學年ニ於テ各學科ノ得點並各

期ニ於テ評點ヲ附シタル學科又ハ實驗實習ニ付テ
ハ其ノ評點ヲ標準トシ勤惰ヲ參酌シテ認定點ヲ附
シ之ニ代フルコトアルヘシ

第二十八條 生徒ノ席次ハ前學年ニ於ケル總得點ニ
依リ卒業生ノ席次ハ各學年ニ於ケル總得點ヲ合計
シテ之ヲ定ム

第二章 遠洋漁業科

第二十九條 遠洋漁業科ノ學科課程ハ水産講習所長
之ヲ定ム

第三十條 遠洋漁業科ニ入學ノ許可ヲ受ケムトスル
者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ之ヲ水産講習所長ニ差出
スヘシ

第三十一條 疾病其ノ他ノ事故ニ依リ休學セムトス
ル者ハ期間ヲ定メテ其ノ許可ヲ受クヘシ
休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第三十二條 修業證書ハ修業ノ成績、勤惰、報告書
及漁撈日誌ヲ考査シ所定ノ課程ヲ修了シタルモノ

ト認ムルトキ之ヲ授與ス但シ必要アルトキハ試験ヲ經タル上之ヲ授與ス

第三十三條 第一章ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外遠洋漁業科ニ付之ヲ準用ス

第三章 研究科

第三十四條 研究科生徒ハ教官ノ指導ヲ受ケ水産講習所又ハ他ノ場所ニ於テ研究ニ從事スヘシ

第三十五條 研究科ニ入學ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ願書ヲ水産講習所長ニ差出スヘシ

第三十六條 専攻證書ハ研究事項ニ付提出シタル論文ヲ考查シ其ノ研究ヲ修了シタルモノト認ムルトキ之ヲ授與ス

第三十七條 第一章及第三十一條ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外研究科ニ付之ヲ準用ス

第四章 別科

第三十八條 別科ノ學科課程ハ水産講習所長之ヲ定ム

學試験ニ關スル規定ハ大正十一年三月施行スヘキ入學試験ヨリ之ヲ施行ス

水産講習所傳習規則及水産講習所傳習規程ハ之ヲ廢止ス

本規程施行ノ際現ニ在學中ノ生徒ニ付テハ仍水産講習所傳習規則及水産講習所傳習規程ニ依ル但シ本規程施行ノ際現ニ第一學年ニ在學中ノ生徒ニ限リ其ノ卒業ニ至ルマテ學年試験ニ合格セサル爲編入スヘキ原級ハ本規程ニ依ル各第一學年、第二學年又ハ第三學年トス

第二十六條ノ規定ハ本規程施行ノ際現ニ在學中ノ生徒ニ付テモ亦其ノ選擇ニ依リ之ヲ適用スルコトヲ得

書式

○第一號

入學願書

規則及規程

第三十九條 別科ニ入學ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ書式第四號ニ依ル願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ水産講習所長ニ差出スヘシ

- 一 書式第二號ニ依ル履歷書
- 二 水産講習所講習規則第七條第四號ノ資格ヲ證スル證明書
- 三 書式第五號ニ依ル體格檢查書
- 四 六ヶ月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身脫帽ノ手札形寫眞、裏面ニ族籍氏名及生年月日ヲ自署スヘシ

第四十條 修了證書ハ修業ノ成績及勤惰ヲ考查シ所定ノ課程ヲ修了シタルモノト認ムルトキ之ヲ授與ス

第四十一條 第一章ノ規定ハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外別科ニ付之ヲ準用ス

附則

本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ入

志望學科

受験地

私儀水産講習所本科へ入學致度左記書類相添へ此段相願候也

年月日 何 某印

左記

- 一 履歷書
- 一 水産講習所講習規程第九條第二號ニ依ル證明書
- 一 寫眞

○第二號

履歷書

本籍族稱
現住所
家業 (戶主ノ家業ヲ記ス)
氏名 (氏名ノ右側ニ假名ヲ附スヘシ)

出生年月日

學

兵

職

賞

右之通相違無之候也

年月日

何

某印

○第三號

收入
印紙
(參錢)

在學證書

私儀今般某科へ入學許可相成候ニ付テハ規則規程等固ク遵守シ專心勉勵可致ハ勿論中途退學致ス間敷候仍テ在學證書如斯候也

年月日

何

某印

本籍族稱
家業、戸主トノ關係
現住所

年月日

何

某印

水産講習所長殿

左記

一履歷書

一水産講習所講習規程第三十九條第二號ニ依ル證明書

一體格検査書

一寫眞

○第五號

體格検査書

族籍、戸主トノ關係

何

某印

何年何月何日生

一體格(甲、乙、丙)

最モ強健ナル者ヲ甲トシ之ニ亞ク者ヲ乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄弱ナル者ハ著シキ病歴ヲ有スル者ヲ丙トス

一體質(強健、稍弱、弱)特別ナル事項ハ其ノ條件ヲ記ス

一身長(何尺寸分)

規則及規程

三二

右某儀今般入學許可相成候ニ付テハ同人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申候也

本籍族稱

職業、學生トノ關係(學生ノ父兄、親戚又ハ學費支給人タル關係ヲ記スヘシ)

現住所

保證人 何

某印

何年何月何日生

本籍族稱

職業、學生トノ關係

現住所

保證人 何

某印

何年何月何日生

水産講習所長殿

○第四號

入學願書

私儀水産講習所別科へ入學致度左記書類相添へ此段相願候也

一體重(何貫匁)

一胸圍(何尺寸分)常時、充盈、空虚及其ノ差

一視力(何々)

一聽力(尋常)

一神經系

一呼吸器

一血行器

一皮膚其他

一脊柱、一齒牙 一痘 一言語

一既往、現在ノ疾病又ハ畸形

右検査候處相違無之候也

検査年月日

現住所

醫師 何

某印

何年何月何日生

醫師 何

某印

水産講習所入學試業料ニ關スル件

大正六年二月二十六日農商務省令第四號

三三

水産講習所入學試業料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ
前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼付シ消印ヲ爲サスシテ差出スヘシ
水産講習所長ハ其ノ收受スヘキモノナルヲ認メタル後願書ノ紙面
ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ捺捺スヘシ但志願者ニ於テ自己ノ便宜
上消印ヲ爲スハ之ヲ妨ケス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三 諸 規 程

一 實習規程

明治三十年四月

(沿革) 明治三十二年三月、大正二年六月改正

- 第一條 實習ハ本所及實習船又ハ本所指定ノ場川若ハ船舶ニ於テ從事セシム
- 第二條 實習ノ事項及期限ハ學科課程ニ準據シ之ヲ定ム
- 第三條 實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ其往復ノ旅費ヲ補助ス但シ本所實習場及試験地並ニ本所及實習場試験地ヨリ鐵道十六哩海里十海里以内ニ出張スル者及遠洋漁業科生徒ニハ旅費ヲ支給セス
- 第四條 實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受クヘシ
- 第五條 各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組員ニ對スル通達其他ノ實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任セシム
- 第六條 實習中ハ規定ノ實習服ヲ着用スヘシ

乗組生徒取締其ノ他船務ニ從事ス

臨時乗組ヲ命セラレタル教官ハ特別ノ場合ヲ除ク外前項後段ノ事務ニ從事スル限リニアラス

第七條 運轉士ハ船長ノ命ヲ承ケ運用術ノ實習、船内風紀ノ取締其ノ他ノ船務ニ從事ス

運轉士補ハ船長ノ命ヲ承ケ運轉士ノ職務ヲ補助ス

第八條 機關長ハ船長ノ命ヲ承ケ機關術ノ實習其ノ他ノ船務ニ從事ス

機關士ハ船長ノ命ヲ承ケ機關長ノ職ヲ補助ス

第九條 事務長ハ船長ノ命ヲ承ケ文書帳簿其ノ他經理及衛生ニ關スル事項ヲ擔當ス

第十條 職員ハ每實習期ノ終ニ各々其擔當課業ニ對スル生徒ノ實習評點表ヲ作成シ之ヲ船長ニ提出スヘシ

第三章 實 習

第十一條 實習期間ヲ三期トシ各四箇月ヲ以テ一期トス但シ場合ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第十二條 實習科目左ノ如シ但シ場合ニ依リ變更又ハ増減スルコトアルヘシ

一 漁撈法

出漁、漁具使用法、漁群偵察、漁法、漁艇ノ運用、漁獲物處理法、漁具作製及修理、漁具保存、漁業ノ地方慣習制度及經濟調査、漁獲物ノ種類及性質調査、漁具漁船ノ種類及構造調査

二 航海術

規則及規程

三四

第七條 實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ擔當教官ニ差出スヘシ

第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セムトスルモノアルトキハ其事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ受領スルヲ得ス

二 實習船規程

明治四十三年七月

(沿革) 明治四十三年一月及二月改正

第一章 總 則

第一條 實習船ハ本所生徒ヲシテ漁撈、航海、運用及機關ニ關スル學術並ニ技術ヲ實習セシムルヲ以テ目的トス

第二章 職 員

第二條 實習船ニ左ノ職員ヲ置ク但シ場合ニ依リ變更スルコトアルヘシ

一 船 長

二 教 官

三 運轉士運轉士補

四 機關長 機關士

五 事 務 長

第三條 船長ハ實習、風紀、衛生、其ノ他全般ノ船務ヲ總轄ス

第四條 船長ハ每實習期ノ終ニ於テ其ノ實習報告書別表書式ノ考課表及衛生狀態調査書ヲ添ヘ所長ニ提出スヘシ但シ實習報告書ハ其ノ實習期中便宜數回ニ分割シテ提出スルコトヲ得

第五條 船長ハ所長ノ決裁ヲ經テ實習船内規ヲ定メ又ハ之ヲ改廢スルコトヲ得

第六條 教官ハ船長ノ命ヲ受ケ各々其ノ擔當課業ノ實習ニ任シ且ツ

推測、實測、羅盤差測定、羅盤修正、經緯儀誤差測定、氣象觀測、潮時算法

三 運用術

操帆、操舵、適帆、荒天航法、應急修理、船體船具保存法、技業、信號法、運轉法、衝突豫防法、非常召集、消防配置、當直勤務、守備法、諸圓材取扱、糧食貯藏品積載法、出入港手續

四 機關術

汽機及汽爐取扱及管理法、冷藏機取扱及管理法

第十三條 碇泊中ハ船長ノ見込ヲ以テ研究ノ爲生徒ヲシテ當該地方ノ水産狀況ヲ調査又ハ視察セシムルコトヲ得

前項ノ調査又ハ視察ヲ終リタルトキハ生徒ヲシテ各其ノ報告ヲ提出セシムルコトアルヘシ報告書ハ其ノ實習期ノ終ニ船長ノ提出スヘキ實習報告書ニ添付スヘシ

第十三條ノ二 船長ハ一實習航海期間内ニ於テ實習上必要ト認ムル場合ハ生徒ヲシテ交番ニ他ノ漁船ニ便乗セシムルコトヲ得但シ此場合ニ在リテハ交番人員數、便乗船ノ種類、船名及其所有主ニツキ直チニ所長ニ報告スヘシ

第十四條 實習成績ノ評點ハ各實習期ノ終ニ運用術及航海術ニアリテハ實習日誌並ニ臨時試業ノ評點ノ合約點其ノ他ノ課業ニ在リテハ擔當教官ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

第十五條 各職員ハ豫メ協議ノ上其擔當課業ニ付順序ヲ定メ尙天候其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ適宜課業スヘシ

三五

第四章 風紀衛生及上陸

- 第十六條 風紀衛生及上陸ニ關シテハ本規程ニ定メアルモノノ外船長定ムルトコロノ内規ニ依リ之ヲ行フ
- 第十七條 船長ハ船務ニ差支ナク且ツ衛生上其ノ他ノ故障ナキヲ認メタルトキハ相當ノ時間職員生徒ノ上陸ヲ許可スルコトヲ得
- 第十八條 上陸ヲ許可スヘキ生徒ノ員數ハ通常ノ場合ニ在リテハ其ノ半數ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第十九條 船内ニ於ケル運動遊戯ハ健康ヲ増進シ士氣ヲ鼓舞シ嗜好ヲ高尚ナラシムルニ足ルト認ムルモノノ外之ヲ許可スルコトヲ得ス
- 第二十條 事務長ハ衛生日誌ヲ調製シ且ツ毎月一回生徒ノ衛生状態ヲ調査シ之ヲ船長ニ報告スヘシ
- 第二十一條 職員生徒カ疾病傷寒ニ罹リタルトキハ船長ハ所長ニ經伺シテ相當ノ期間特ニ公暇又ハ下船療養ヲ許可スルコトヲ得但シ生徒ニツキテハ經伺ノ限リニアラス
- 第二十二條 職員生徒上陸中疾病傷寒ニ罹リ定刻ニ歸船シ能ハサルトキハ直チニ醫師診斷書ヲ添ヘ船長ニ届出ツヘシ
- 第二十三條 船長ハ生徒ノ品行方正ニシテ實習ノ成績良好ナルモノノ限リ碇泊中一定ノ期間特別公暇ヲ與フルコトヲ得
- 第二十四條 船長ハ本則及諸規則心得等ニ背戾シタル生徒ニ對シ懲戒ヲ加フルコトヲ得

戒ヲ加フルコトヲ得

- 第二十五條 懲戒ハ上陸禁止及加役ノ二種トス
- 上陸禁止ハ七日以内トシ碇泊日數ニ於テ之ヲ算ス加役ハ七日以内トシ常務時間外一日二時間以内役務ニ服セシム
- 第二十六條 生徒ニシテ犯則度ヲ重キ又ハ重大ナル不都合ノ所爲アリタルトキハ船長ハ所長ニ其處分ヲ申請スヘシ

格		體		賞		罰		課		業		績		成		業		課		評	
身長	體重	體質	第 期 末	上 船 ノ 際	日 實 習 日 數	日 在 船 日 數	全 實 習 日 數	月 下 船 日 數	月 上 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數	年 船 日 數
尺 寸	百 斤	百 斤	百 斤	百 斤	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間	日 間
平均	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計	合計

三 寄宿舎規程

(沿革) 明治三十三年三月大正一三年四月改正

- 第一條 寄宿舎生ハ生徒取締ノ監督ヲ受クヘシ
- 第二條 寄宿舎生ハ本規程ニ基キ規律衛生及食事等ニ關スル規約ヲ設ク所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ
- 第三條 本規程及ヒ規約ノ實踐ヲ期スルタメ寄宿舎ニ委員及室長若干名ヲ置ク
- 前項ノ委員ハ寄宿舎生中各科各學年等數ヲ室長ハ各室ニ於テ之ヲ互選シ所長ニ届出ツヘシ
- 第四條 寄宿舎ハ毎年夏期休業中ハ之レヲ閉ツルモノトス但シ閉舎期間ハ時宜ニヨリ之レヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第五條 寄宿舎生ハ定期或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ
- 前項人員點檢時刻ハ規約ニ於テ之レヲ定メシム
- 第六條 寄宿舎生ニシテ時限外ニ外出セントスルモノハ許可ヲ受ク

規則及規程

第二節 講習功程

第一本 科

前項外出時限ハ規約ヲ以テ之レヲ定メシム

第七條 外泊又ハ時限内ニ歸舎シ得サルモノハ其事由ヲ詳記シ前者ハ保證人連署ヲ以テ後者ハ委員ノ連署ヲ以テ届出ツヘシ

第八條 入舎又ハ退舎ヲ爲サントスルモノハ三日以前ニ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第九條 物品ノ毀損若クハ亡失シタルトキハ其情況ニヨリ之ヲ修補又ハ賠償セシム

第十條 寄宿舎舍費及食費ハ時價ニヨリ之ヲ定ム

前項ノ舍費及食費ハ毎月五日迄ニ納付スヘシ

第十一條 寄宿舎生ニシテ本規程又ハ規約ニ違背シ其他寄宿舎生タル本分ヲ守ラサルモノハ其情狀ニヨリ退舎ヲ命ス

第二 遠洋漁業科

在學ノ生徒ハ二十名ニシテ本科ノ教程ハ學年ノ始ニ於テ學科課程表ニ基キ一學年間ニ授クヘキ各學科ノ時數ヲ豫定シ教授事項ノ要目ヲ配當シテ之ヲ定メ之ニ依テ教授ヲ爲セリ

關スル技術ヲ練習セシム

第三 研究科

在學ノ生徒ハ漁撈科一名養殖科一名計二名ニシテ各自專攻ノ題目ニ就テ教官指導ノ下ニ其研究ヲ爲シ或ハ關係學科ノ聽講ヲ爲サシム

第四 別科

水産工藝專修生徒ハ目下五名ニシテ昨十二年度ヨリ愛知縣豊橋市外ナル本所々屬ノ養魚試驗場ニ於テ養成スル淡水養魚專修生徒ハ現在八名ナリ

第三章 試験及調査

第一節 試験及調査ニ關スル組織

本所ハ一般水産業ノ發達ヲ圖ル爲メ大正三年三月本所處務細則ヲ定メ海洋調査部、漁撈、養殖、製造、化學及漁船機械ノ五試験部ヲ設ケ該各事項ニ付試験及調査ヲ爲シ且ツ本所ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ一般ノ依頼ニ應スル爲メ試験規則ヲ設ケ又種苗配付

ヲナス爲メ種苗拂下規則ヲ設ケタリ其規則左ノ如シ

第一 水産講習所試験規則

大正三年三月農商務省令第五號

第一條 水産講習所ハ海洋調査、漁撈、養殖、製造、化學、漁船及機械ニ關スル事項ニ付試験、鑑定、分析、檢定及設計ノ依頼ヲ受ケタルトキハ主管ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ之ニ應スルコトヲ得

第二條 前條ノ規程ニ依リ依頼ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ依頼事項及目的ヲ明カナラシムヘキ詳細ナル説明書類並必要ノ圖面及現品ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ニ依リ水産製造品等ノ鑑定又ハ分析ノ依頼ヲ爲サムトスル者ノ差出スヘキ現品ハ左記ノ區別ニ依ルヘシ但シ必要ノ場合ニハ更ニ相當ノ數量ヲ差出サシムルコトアルヘシ

製造ニ關スル事項

罐詰類	鑑定	普通成分	一成分毎ニ	三箇以上
鹽藏乾鰾類	分析	形大ナルモノ 形小ナルモノ	三箇以上	三箇以上
節類	鑑定	普通成分	一成分毎ニ	二尾
越巖斯類	分析	普通成分	一成分毎ニ	二尾
肉類	分析	特別成分	一成分毎ニ	一尾
肥料	分析	普通成分	一成分毎ニ	一尾
脂肪油及蠟	分析	特別成分	一成分毎ニ	一尾
食用油	分析	普通成分	一成分毎ニ	一尾
食用肝油	分析	特別成分	一成分毎ニ	一尾
皮革	檢定	檢定	一合又ハ二合以上	一合又ハ二合以上
食用藻類	鑑定	檢定	一合又ハ二合以上	一合又ハ二合以上
寒天及其原藻	鑑定	製品	五本又ハ十枚以上	五本又ハ十枚以上
糊料及其原藻	鑑定	製品	十枚又ハ二十枚以上	十枚又ハ二十枚以上
沃度、沃度灰及其原藻	分析	沃度及灰	一合以上	一合以上

規則及規定

罐詰用鐵葉	鑑定	分析	二枚以上
硫酸紙其他罐內被物	鑑定	紙類其他ノモノ	二枚以上
漁具材料ニ關スル事項	分析	同	同
網地	鑑定	網地	一間以上
網絲	鑑定	網絲	十間以上
網子	鑑定	網子	十間以上
浮子	鑑定	浮子	五箇以上
釣鈎	鑑定	釣鈎	十本以上
塗料	分析	一貫匁ヲ染メ得ヘキ材料	百匁以上
養殖ニ屬スル事項	分析	二合以上	二合以上
餌料	分析	一升五合以上	一升五合以上
水質	分析	三升以上	三升以上
土質	分析	五百匁以上	五百匁以上
前項ニ掲ケサル事項ニ關シテハ前項ニ準シ適當ノ數量ヲ差出スヘシ			
第三條 水産講習所試験又ハ鑑定ノ必要ナシト認ムルトキハ其ノ依頼ニ應セス			
第四條 差出シタル現品ハ依頼ニ應セサル場合又ハ			

第二 水産講習所種苗拂下規則

大正三年三月農商務省令第六號

- 出願ノ際依頼者ニ於テ豫メ返付ヲ申出テ其ノ承認ヲ得タル場合ノ外之ヲ返付セス
- 第五條 本規則ニ依リ依頼ヲ受ケタル事項ニ關シ必要アル場合ニ於テハ依頼者ヲシテ旅費ヲ負擔セシメ又ハ器具機械原料消耗品又ハ人夫等ヲ提供セシムルコトアルヘシ
- 附 則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 明治四十三年農商務省告示第四十三號水産講習所試験規程及同年農商務省告示第六百六十三號試験又ハ鑑定依頼者心得ハ之ヲ廢止ス
- 書 式
- | | |
|---------------------|----|
| 試驗(調査、鑑定、分析、檢定、設計)願 | 何々 |
| 一 事項 | 何々 |
| 一 添附書類 | 何通 |
| 一 現 品 | 何々 |
- 前記事項即試驗(調査、鑑定、分析、檢定、設計)依頼致度別紙説明書類(及現品)相添へ此段相願候包
- 年 月 日 住 所 依頼人 何 某印
- 水産講習所長氏名殿
- 第一條 水産動植物種苗ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ第一號様式ニ依ル願書ニ養殖ノ場所、面積及設備等ニ關スル設計書ヲ添へ水産講習所長ニ差出スヘシ
- 第二條 拂下クヘキ種苗ノ種類、數量及價格ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第三條 種苗ノ拂下ヲ受ケタルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル
- 一 地方水産試験場、水産講習所、學校、水産組合、漁業組合、産業組合
 - 二 道、府、縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體
 - 三 一年以上養殖事業ニ従事シ相當ノ成績ヲ舉ケタルモム
- 前項ニ該當セサル者ト雖水産講習所長ニ於テ適當ト認メタル者ニ對シテハ拂下ヲ爲スコトアルヘシ
- 第四條 水産講習所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ水

産動植物ノ養殖試驗ヲ爲ス者ニ對シ無償ニテ種苗ヲ下付スルコトヲ得

- 第一條ノ規程ハ前項ニ依リ種苗ノ下付ヲ受ケムトスル者ニ之ヲ準用ス
- 第五條 種苗拂下ノ許可ノ通知アリタルトキハ出願人ハ水産講習所長ノ指定シタル期限迄ニ其ノ價格ヲ納付スヘシ但シ郵便ニ依ルトキハ書留郵便ニ依リ之ヲ爲スヘシ
- 第六條 出願人種苗ノ送附ヲ受ケタルトキハ第二號様式ノ領收證ヲ差出スヘシ
- 第七條 種苗ノ送付ニ要スル荷造費、運賃及其ノ送付中ニ生シタル種苗ノ斃死、損傷等ノ損害ハ出願者ノ負擔トス
- 第八條 種苗ノ拂下又ハ下付ヲ受ケタル者ハ水産講習所長ノ指定シタル種苗ノ發育狀況等ニ關スル事項ヲ水産講習所長ニ報告スヘシ
- 第一號様式

規則及規程

種苗拂下願	何尾(粒)
一 何々	何々

右養殖致度候ニ付拂下相成度御所種苗拂下規則ニ依リ此段相願候也

年 月 日 何縣何郡何町(村) 漁業組合理事(出願人資格) 何 某印

水産講習所長氏名殿

(受領者出願スルコト能ハサルトキハ種苗届先、取扱聯名及取扱運送店名ヲ附記スヘシ)

第二號様式

種苗領收書	何尾(粒)
一 何々	何々

右領收候也

年 月 日 何縣何郡何町(村) 何 某印

水産講習所長氏名殿

第二節 各部事業ノ概要

(自大正十一年十一月二日
至同十三年五月末日)

第一 海洋調査部

明治四十二年以降水産局ニ於テ漁業基本調査ト稱シ海洋ノ調査ニ從事シタリシカ大正三年四月此事業ヲ本所ニ移シ大正七年豫算ヲ得テ海洋調査部ト改稱シ專用調査船天鷗丸ヲ建造シテ之ニ從事セリ。大正九年十二月不幸火災ニ罹リ其標本器具及ヒ資料ノ大半ヲ烏有ニ歸シタリシカ鋭意復舊ニ努メ大正十一年六月復舊工事竣功セルヲ以テ新築ノ廳舎ニ移リタリ。大正十二年九月大震災ニ遭遇シタルモ幸ニシテ類焼ヲ免レ蒙リタル損害輕微ニシテ、業務ノ遂行上支障ヲ來シタルコト至テ尠シ。然ルニ調査船天鷗丸ハ腐蝕菌ノ胃ス所トナリ、其航海不可能ノ状態ニ至リタルヲ以テ代船ヲ要求シ大正十三年度ニ豫算ヲ得テ新船ノ建造ニ着手セリ。

四二

海洋ノ調査

大正十年度迄ニ於テ天鷗丸ノ行ヒタル本邦沿岸ノ普遍的横斷觀測ト地方連絡觀測トノ成績ニ依リ本邦近海ノ四季ノ状態ヲ明ニスルヲ得タリ因テ大正十一年以降ニアリテハ從來連絡シ來レル觀測調査ノ外本邦沿海ヲ五海區ニ分チ、各海區ニ就キ細密ナル調査ヲ施行スルコトトシ、其第一期トシテ千葉縣野島崎ヨリ青森縣尻笈崎ニ亘ル東北海區ノ調査ニ從事中ナリ。

一、激震地方ニ於ケル海洋ト漁業トノ調査

大正十二年九月ヨリ十一月ニ亘ル期間ニ於テ天鷗丸ヲ出動セシメ、相模灣及外房沿海ノ海洋ト漁業トノ變化ヲ調査シ別ニ隼丸ヲ派シテ東京灣ノ變化ヲ實查シ、其成果ニ就テハ當時逸早ク報告スル所アリタリ

二、沖合ノ調査

シテ調査シツ、アリ。

五、生物ノ調査

浮游生物ノ調査材料ハ火災後新ニ各府縣ト連絡シテ之カ採集ヲ行ヒ整理ニ努メツツアリ。重要魚族ノ生態的調査ニ就テハ鹿兒島、石川、富山、其他ニ調査員ヲ派シテ調査セシメタリ。

六、協議會

大正十二年一月二十五日ヨリ三十日迄六日間第五回海洋調査主任官協議會ヲ本所ニ開催セリ、大正十二年度ニアリテハ震災ノ爲メ之ヲ見合セリ

七、報告

本所及ヒ地方關係官廳ニテ施行シタル調査材料ハ之ヲ綜合編纂シテ毎月海洋圖ヲ印刷シ、大正十三年五月ヲ以テ第五十七號ニ達シ、毎三ヶ月ニ海洋調査要報ヲ發刊シ大正十三年三月迄ニテ其第二十

天鷗丸ハ大正十一年十一月、十二年一、二月、五月、六月、七、八月、十三年五月ノ五回ニ亘リ東北海區ノ觀測ニ從事シ七、八月ニ在リテハ其沿岸ノ細密的調査ヲ行ヒタリ。尙地方水産關係官廳ニ於テ施行セル調査ノ材料ヲ綜合シ、且ツ所員ヲ各地ニ派シ海洋状態ト漁況トノ關係ヲ實查セシメタリ。又暖流々過ノ變化消長ヲ調査センカ爲メ對馬水道及ヒ野島崎八丈島間ニアリテハ十二年以降毎月其表面觀測ヲ實施スルコトトセリ。

三、沿岸調査

沖合ノ海洋状態ト沿岸海水ノ變化トノ關係ヲ調査スル爲メ引續キ地方水産關係官廳、燈臺及測候所等ニ委囑シテ定地觀測ヲ施行セリ

四、内灣調査

高島ヲ根據トシテ引續キ東京灣内ノ調査ヲナセリ瀬戸内海其他各府縣ニ屬スルモノハ其報告ヲ綜合

規則及規程

四三

三報ヲ頒布セリ。

激震地方ニ於ケル海洋ト漁業ト題シテ其一ニ東京灣其二ニ相模灣及外房沿海ノ調査成績ヲ收録セリ其他大正十二年前半年ニ於ケル東北海洋ノ異常低溫ニ就テハ當時謄寫ヲ以テ關係各官廳ニ速報スル所アリタリ

第二 試驗部

一 漁撈試驗

一 漁法試驗

發動機船巾着網片手廻漁法試驗、大正五年度以降ノ繼續事業ニシテ大正十二年度ニ於テモ夏季館山灣ニ於テ發動機船七號艇ヲ以テ之ヲ行ヒ「ターントーブル」後部横轉子ノ機動方法ヲ講シタルニ其成績愈良好ナリシテ以テ大正十三年度ニ於テハ更ニ「ターントーブル」ノ機動方法及ヒ大正十二年度潜水網形實驗ノ結果ニ鑑ミ漁網ヲ改造シテ試驗

ヲ續行セントス

二 漁撈基本試驗

(イ)網糸ノ腐敗試驗。前年ニ繼續シテ水温水質ト網糸腐敗トノ關係ヲ繼續試驗セシモ十二年九月一日ノ震災ニ依リ記錄材料共ニ燒失セシタメ更ニ繼續試驗ヲナシ尙坊間販賣ノ染料ニツキ効果不明ノモノニ對シ其効力ノ程度ヲ試驗スル豫定ナリ

(ロ)網糸ノ撓及抗張力試驗。本試驗モ前年ニ繼續試驗セシモ十二年九月一日ノ震災ノタメ記錄、材料、設備共ニ燒失セシヲ以テ引續キ試驗ノ豫定ナリ。

(ハ)漁具漁法ニ關スル物理的試驗。前年度ニ繼續シテ魚ノ抵抗、手繰網並ニ巾着網ノ水中形狀ノ變化ニ就キ試驗セシモ完了スルニ至ラザリシテ以テ猶ホ引續キ試驗セントス

三、漁場探見調査

前年ニ引續キ雲鷹丸ヲ以テ大正十一年十二月ヨリ十二年三月迄小笠原附近ヨリ支那海ニ出船調査セリ。

二 養殖試驗

一、生物調査

(イ)蝦蟹類調査。蝦蟹類一般ニツキ其種類分布並ニ蕃殖狀態ノ研究中ナルカ伊豆産ノ蟹ノ一新種ヲ檢出セリ

(ロ)甲狀腺ノ魚體ニ及ホス影響ノ研究。金魚ニツキ前年度ニ引續キテ内部器官ニ對スル影響ヲ研究セリ

(ハ)めだかノ遺傳研究。めだかノ諸品種間ノ交配ニツイテハ從來ノ研究者間ニ説ヲ異ニスル點アレトモ、之レ主トシテ飼育上光線ノ多少ニ關スルモノナルコト、低溫ハ或品種ノ特徴ヲ滅却セシムルモノナルコトヲ確メタリ

規期及規程

(ニ)生物學的食品鑑定試驗。本年度ハ半途ニシテ之ヲ中止セリ

(ホ)介類發生並ニ習性研究。板浦牡蛎發生並ニ習性ニ就キ研究中ナリ

二、淡水養殖試驗

(イ)温水性魚類養殖試驗。本試驗ハ大正十年度ヨリ愛知縣渥美郡牟呂吉田村(豊橋市外)ニ試驗池ヲ設ケ専ラ種苗ノ改良、養成、餌料ノ効力、保存法並ニ養魚池水質等ニツキ試驗並ニ研究ヲ行ヘリ而シテ目下尙ホ繼續試驗中ナリ

(ロ)冷水性魚類養殖試驗。本試驗ハ大正十年度ヨリ長野縣北安曇郡平村字海ノ口(木崎湖畔)ニ池ヲ新設シ鱒族魚類ノ卵ノ人工孵化、池中飼育試驗並ニ餌料ノ研究及ヒ木崎、青木湖ノ天然餌料調査並ニ鱒族ノ移殖試驗ヲ行ヒ目下繼續中ナリ

三、鹹水養殖試驗

(イ) まがき養殖改良試験。本邦在來ノ養殖方法ヲ改良シ、歐米產ノ如ク其形狀大サ並ニ肉身ノ充實ヲ均一ニシ個數ヲ單位トシテ販賣シ得ル優良牡蠣ヲ作り一ハ生牡蠣ノ儘米國西部沿岸ニ輸出シテ同國養殖家ノ需要ニ應ジ、一ハ内國ニ於ケル養殖業發展ノ指導タランコトヲ期シ大正七年初メテ豫算ヲ得テ試験ニ着手シタリ。

成績品ハ既ニ屢々米國「シヤトル」、桑港、布哇へ試賣シタルニ僅カニ約一割ノ斃死率ヲ以テ到着スルコトヲ確メタリ、仍テ六年度ヨリ經濟的試験ニ着手シ「シヤトル」へ輸出シタル累年輸出數量左ノ如シ

年次	輸出生牡蠣數量
大正六年度	七〇、〇〇〇個
七年度	三〇〇、〇〇〇個
八年度	二五〇、〇〇〇個
九年度	一一〇、〇〇〇個

範圍ヲ確知スルハ牡蠣ノ養殖並ニ移殖等ニ際シ最モ必要ナルヲ以テ新タニ電氣應用水温調節機械ヲ考案シ目下試験中ナリ。

(ハ) まがき肉身充實ニ關スル試験。養殖試験中牡蠣ノ肉身ヲ均一ニ肥滿セシムルハ最モ重要事項ニ屬ス、肉身肥滿ノ素因ヲ爲スモノ多々アレトモ就中餌料ノ豐富ナルヲ最トス。依テ餌料中最モ重要ナル硅藻ノ種類ヲ査定シ尙其數量ノ測定ヲナシ、更ニ人工培養法ニヨリ餌料ヲ増殖セシムルタメ目下試験繼續中ナリ

(ニ) 養殖場ノ底質並ニ水質ニ關スル試験。養殖場ノ底質、水温、比重並ニ潮水ノ疎通等何レモ牡蠣ノ附著、生長ニツキ重要ナル關係ヲ有スルヲ以テ此等養殖上基礎的研究ノ繼續中ナリ

(ホ) 蛤蜊等二枚貝養殖試験。千葉縣東葛飾郡水産會ノ願出ニヨリ同郡浦安町地先ニ於テ左ノ重要試験事項ニヨリ實施試験中ナリ

規則及規程

四六

大正十、十一年度ハ米國ニ於ケル財界不況ノ影響ニヨリ多量ノ輸出ヲ休止シ唯少量ノ種貝ヲ汽船内華氏三五度ヲ保持スル冷蔵庫ニ積込ミ輸送試験ヲナシタルニ日數十八日間ヲ經過セルモ其結果ハ前例ニ無キ好績ヲ示シ容器箱中二乃至九パーセントノ斃死貝ヲ認メタルニ過キササル新記録ヲ得從來至難ナル事業トセラレ居タル問題ニ一光明ヲ開キタルモノナリ、爾來米國養殖家ノ注意ヲ喚起シ邦產牡蠣ノ輸入ヲ希望スルモノ増加ノ趨勢ニ達セリ。本試験ノ結果試驗地金澤地方ハ養殖業漸次發達シ今ヤ金澤牡蠣ノ名稱ニ於テ年額拾數萬圓ニ達スルニ至レリ。尙續イテ採苗並ニ成長ノ方法ニ就キ改良ヲ加ヘ試験中ニ屬ス

(ロ) 牡蠣卵ノ孵化發生ト水温ニ關スル試験。種々異リタル水温中ニ於テまがきの卵ヲ人工ニテ受精セシメ、孵化發生ニ如何ナル温度カ最モ好適ナリヤ又孵化發生ニ適セサル最低最高ノ水温ノ

- (一) 蛤蜊等養殖種苗ノ蒔付ケ適量試験
- (二) 同上養殖貝ノ成長度試験
- (三) 養殖場ニ於ケル水質底質並ニ餌料ニ關スル試験

(ハ) 蕃殖保護試験。濫獲ノ爲メ不毛ニ屬シタル磯礁ニ人力ヲ加ヘ魚介藻類ノ蕃殖ヲ謀ル目的ヲ以テ千葉縣下高島實驗場ニ於テ試験シ其成績ハ本所試験報告第一四卷第二冊及第一五卷第四冊ニ之ヲ公刊シタリ尙不明ノ點アルヲ以テ引續キ試験中ナリ

(ト) 板浦牡蠣ノ養殖試験。大正九年度ヨリ豫算ヲ得テ兵庫縣加古郡東二見村ニ試驗場ヲ開設シ十年度ヨリ愈採苗試験ヲ開始セシカ稚貝ノ附著成長佳良ニシテ目下飼育試験中ナリ

四、魚病ノ研究

本研究ニ就テハ大正十年度以來豊橋及ヒ木崎試驗場ニ於テ各種魚病ニツキ調査研究中ナリ

四七

五、藻類養殖試験

(イ)海苔孢子附著ニ關スル試験。本試験ハ築場地盤ヲ攪拌シテ孢子ヲ浮出セシメ其附著發芽ヲ促成セントスルモノ及ヒ海苔孢子ノ種類ヲ試験セリ

(ロ)かぢめ成長試験。略ホ試験ヲ了セリ

(ハ)おごのり蕃殖試験。十一年度ヨリ千葉縣木更津町地先ニ於テおごのり蕃殖試験ヲ行ヒ孢子成熟ノ時期其發芽期及附著材料等ヲ試験セリ

六、養殖土木試験

大正十二年度ニハ本所及ヒ木崎試験場ニ於テ電流ヲ應用シ發電用水路ニ魚類ノ侵入スルヲ防ク試験ヲ行ヘリ

三 製造試験

(イ)鮮魚冷凍試験

最近勃興セル冷凍事業ハ應用益々廣汎ニ亘リツツ

ニ加ヘテ分解作用ヲ促進セシメ得ヘシ

尙ホ又主原料ヲ陸産物ニ採リ之ニ魚類ノ臟腑ヲ加ヘ醗熟分解ヲ行フコトモ一種ノ長所アルカ如ク思惟シ得ルニ至レリ此等方法ハ次年度ニ繼續シ豫備的試験トシテ之ヲ施行スヘシ

(ハ)調味食品製造試験

醗造試験ノ成績漸次明瞭トナルニ隨ヒ水産食品ノ製造ハ嘗ニ生鮮原料ヲ用フルニ止マラス他方ニハ先ツ之ヲ鹽藏品ノ如キ「半製品」トナシテ醗熟分解セシメ茲ニ發生セル嗜好價値ヲ利用スヘク醗熟物ヲ其儘若シタハ之ニ他ノ種々ナル原料ヲ配合シ在來品ト異ナル諸種ノ調味食品ニ製造スルヲ有利トスルノ事實豫想セララルニ至レリ今回行ヒタルモノハ右觀念ニ立脚セル應用ノ第一着手ニシテ即チ醗熟ニヨリテ得タル分解物ニ「トマトバルブ」蔬菜等ヲ加ヘテ之ヲ「ソース」ニ製造セリ本試験ハ尙ホ水陸産物ノ「半製品」ヲ原料トスル各種嗜好食品ノ

試験及調査

アリテ本邦ノ諸事情ニ適應セル各種ノ場合ト方法トヲ考究スル必要アリ因テ前年來ノ試験ヲ繼續シ空氣凍結法、鹹水凍結法、普通冷藏法及氷藏法ニテ貯藏セル諸種ノ魚類並ニ他ノ水産物ヲ夫々外觀、風味、肉組織ノ狀態成分變化ノ上ヨリ比較研究シ實際上ノ應用ニ便セシメタリ又凍結鯉ヲ以テ鯉節ヲ製造スル試験ハ前年ノモノヨリ一層優良ナルモノヲ得ルニ至レリ

(ロ)醗造並ニ魚腸利用試験

水産物ヲ原料トスル醗造品ノ製造ハ從來殆ト望ミナキモノノ如ク一般ニ思惟セラレタリシモ豫備試驗ノ結果ニヨリ漸次希望多キ曙光ニ導カルルニ至レリ即チ魚體內ニ存スル酵素及耐鹽菌ノ作用ヲ利用シテ醗熟ヲ行ハントスルモノニシテ右概念ヲ應用セハ特殊原料ナラサル一般魚類モ醗造ノ可能性ヲ認メ得ラルヘキカ如シ而シテ實際ノ手段トシテハ自ラノ有スル臟腑若クハ他ノ魚類ノ臟腑ヲ故ラ

製造ニ其歩ヲ進マシムヘキモノニシテ既ニ本所ノ方法ニ依リ民間ニ於テハ或ル種調味食品ノ製造ヲ開始セルモノアリ

(ニ)鱈加工試験

漁獲ノ豐饒ナル割合ニ鮮魚トシテノ需要之ニ伴ハサル鱈ノ加工方法ヲ改善スル一手段トシテ本試験ヲ行ヘリ即チ米國「スタツダード」會社製魚肉揉碎機械ヲ以テ鱈肉ヲ纖維狀ニ揉碎シ新用途ヲ開拓セントスルモノニシテ製品ノ利用ニ就テハ今尙ホ研究中ニ屬セリ、該機ノ能力ハ十時間約壹噸ノ鱈肉ヲ揉碎スルニ足リ乾燥程度ハ製品ノ品質ニ至大ノ關係ヲ有スルモノニシテ含水量三〇%位ノモノ最好結果ヲ呈スル如ク認メ得ラレタリ

(ホ)鮭燻製試験

露領勘察加産ノ鹽鮭ヲ原料トシテ鮭燻製試験ヲ行ヘリ右試験ノ成績有望ナリシニ依リ本所ノ方法ニ倣ヒテ該事業ヲ開始セルモノアリ之ト關聯シ内地

ニ於テ煉製類ノ新販路ヲ開拓シ得ラルヘキ見込生
スルニ至レリ

(ハ)鹽藏試験

曩ニ施行シタル鹽藏試験ノ趣旨ヲ繼承シ本試験ヲ
開始セリ而シテ理論的研究ニ關シテハ化學試験部
ト聯絡ヲ取り應用的研究ニ就テハ寒冷ヲ利用スル
コト並ニ加壓度ヲ利用スル方法ニ關シテ試験ヲ行
ヘリ其結果或ル程度ノ加壓並ニ寒冷ノ利用ハ優良
ナル製品ヲ得ルニ必要ナル條件タルヲ知ルニ至レ
リ

(ト)鯛高尚煮試験

前年施行セル支那向罐詰試験ヲ繼承シ之ヲ改良セ
ルモノニシテ右調味法ヲ鯛蛤等ノ貝類ニ應用シ好
成績ヲ收メツツアリ木品ハ之ヲ高尚煮ト命名シ當
業者ニ於テモ本法ニ依リ製造ヲ企畫スルモノアリ

(チ)焙燒試験

前年ニ引キ續キ試験ヲ行ヘリ適當ナル焙燒機ニ關

シテハ目下其考案中ニ在リ

(リ)乾燥試験

前年ニ引續キ「アドソール」ヲ利用スル乾燥試験ヲ
行ヘリ本試験ハ理化學研究所トノ聯絡試験ニ屬シ
漁船機械試験部ト共同シテ試験セリ

(ヌ)脱脂試験

前年ニ引續キ豫備試験ヲ行ヘリ尙ホ次年度ニ於テ
各種ノ方法ヲ試験セントス

(ル)海產動物油燃料試験

前年ニ繼續シ各種ノ海產動物油ヲ聚メ此等ヲ内燃
機關ノ燃料トシテ試用セリ即チ前記ノ油ヲ其儘若
シクハ之ニ多少ノ鑛油ヲ加ヘ燃料トスル方法ニシ
テ民間ニ於テハ既ニ實際ニ之ヲ使用スルモノアル
ニ至レリ尙ホ魚油ヲ分解シ之ヲ燃料ニ供スル研究
ハ後段ノ分解試験ト併セ其試験ヲ續行シツツアリ

(ヲ)海產動物油分解試験

本試験ハ海產動物油ヲ分解シ之ニ含有スル各種ノ

脂肪酸殊ニ「オレイン」酸ヲ採集シ其用途ヲ開拓セ

ントスルモノニシテ目下其豫備試験中ニ屬セリ

(ワ)海產動物油ノ低温硬化試験

本試験ハ海產動物油ヲ低温ニテ硬化シ其用途ノ開
拓ヲ謀ラントスルモノニシテ豫備的試験ヲ施行シ
タリ

(カ)海產動物油ノ檢定

各種ノ海產動物油ニツキ其性狀ノ檢定ヲ行ヘリ

(ヨ)鞣革及製膠試験

海獸皮ノ鞣製並ニ染色法ニ就テ研究シ製膠ニ關シ
テハ膠液ノ澄清法ニ就テ試験ヲ行ヘリ

四 化學試験

(イ)「プロタミン」ノ研究

右ハ研究第二報第三報ヲ以テ報告セル如ク本邦產
魚類ノ數種ヨリ新シキ「プロタミン」ヲ分離シ其ノ
組成ヲ定メ新種ト斷定シテ夫々名稱ヲ附セリ

試験及調査

(ロ)「ニユークレイツク」酸ノ研究

「ニユークレイツク」酸ノ研究第一報ノ繼續ニシテ
其ノ構造ニ關スルモノヲ第二報トシテ出セリ

(ハ)鯨ノ内臓ノ研究

鯨ノ内臓中副腎腺ヨリ夫々「アドレナリン」「イ
ンシュリン」ヲ分離シタルモ中途震災ノ爲充分ナ
ル材料ヲ得ス今尙繼續研究中ナリ

(ニ)水產動物ノ雌雄肉蛋白質組成ノ比較

前年度ヨリ繼續シ甲殼類、魚類(小笠原産)其他ニ
ツキ分析ヲナセリ

(ホ)肉蛋白質ノ營養價ニ關スル試験

先年來施行セル問題ニシテますトあさり及はまぐ
りノ比較及ヒビシクサルモンノ肉ニツキ營養價値
ヲ試験セリ

(ヘ)調味化合物ノ研究

該研究ノ第一歩トシテ「ヒスチデン」ヲ大量ニ得
シ爲其分離方法ニツキ研究シ次テ有機酸及アミノ

酸トノ鹽類ノ合成ヲナセシ呈味ノ如何ヲ檢セリ

(ト)魚油中ノ「ビタミン」ニ關スル試驗

鰻及紅鯨油ニツキ試驗ヲナセリ

(チ)食鹽中ニ含有スル夾雜成分ノ魚肉ニ及ホス關係
右ハ食鹽中ニ含有スル夾雜成分カ其含有量ノ多少
ニヨリ魚肉鹽藏ノ場合ニ鹽ノ滲透分ニ如何ナル關
係アルヤ又魚肉ノ成分ニ如何ナル變化ヲ來スヤニ
付テ試驗セリ

右ハ大正十一年ヨリ十二年度ニ亘リ試驗セシモ
ノナルモ其成績ハ昨年ノ震災ニ於テ全部燒失セ
リ

(リ)魚類内臟ノ消化酸素ニ關スル研究

魚類ノ幽門垂ヨリ強大ナル蛋白酸素ヲ分離シ其性
質ノ一部ヲ研究發表シ且ツ之レカ消化劑トシテ應
用シ得ルコトヲ確メタリ

(ヌ)魚肉ノ自家消化ニ關スル研究

魚肉ノ自家消化ニ關スル研究ノ一部ヲ第一報トシ

テ報告セリ

(ル)魚肉ノ成分ト其變化ニ就テ

魚肉及其肉汁中ノ成分ニ就キ試驗シテ魚類ノ肉質
變化並ニ蛋白質分解生成物ノ調味の價値ヲ略ホ知
ルコトヲ得タリ其結果トシテ魚肉汁ヲ利用セル調
味料及鯉節類ノ主成分ヲ含有スル結晶狀調味料ノ
製法ヲ案出シ、之レヲ實際的ニ施行セシメツツア
リ、又久シキ懸案タリシ各地産鯉節類ノ良否ノ差
異ノ生スル原因ヲモ明カニシ之ヲ本所試驗報告ヲ
以テ公示セリ

(ヲ)貝染色及蝕刻ニ關スル試驗

アワビ、夜光貝ノ色素染色ニ關スル試驗ヲ行ヒ且
ツ各種貝類ノ蝕刻及其應用ニ就テ試驗シ見本ヲ作
成シ其成績ニ就テ彫刻科生徒ニ實習セシメタリ

(ワ)白珊瑚染色ノ試驗

白珊瑚ノ桃色染色試驗ニ就テ果シテ可能性アルヤ
否ヤ試驗セル結果アル種ノ藥品ハ容易ニ珊瑚ノ中

心迄透徹セシメ得ヘキ事實アルヲ見出シ今後ノ試
驗ニ對シ可能性アル有力ナル實證トナレリ

(カ)貝類及骨類ノ漂白試驗

貝類骨類ノ如キ動物質材料ノ漂白試驗ヲ行ヒ特ニ
千歳貝ニ彫刻セル人物ノ顔面等ノ斑點ノ除去及濃
色珊瑚ヲ淡色トナス方法ヲ得タリ

(ヨ)魚肉漂白及保存試驗

魚肉ノ漂白ヲ必要トスルモノニ就テ簡易ナル化學
的加工方法ノ實際的應用ノ可能ナル方法ニ就テ種
々試驗シ過酸化水素等ヲ使用シ蒲鉾乾魚等ノ加工
ニ應用スルノ有利ナル見込ヲ生セリ

(タ)コレラ菌耐寒試驗

コレラ菌ハ之レヲ攝氏零下二十五度ニ保ツコトニ
十日間ナルモ生活力ヲ保有スルコトヲ見タリ

五 漁船機械試驗

(イ)巾着網用ウキンチ試驗

試驗及調査

大正八年度ヨリ同十年度ニ亘リ試驗ヲ行ヒタル結
果ニ基キ大正十一年度ニ於テ大サ及ヒ重量ヲ減少
シタルモノヲ設計シ試驗ヲ行ヒタルカ成績極メテ
良好ナリ

(ロ)酸性白土ヲ使用スル乾燥試驗

大正十一年度理化學研究所發表ニ係ル防濕乾燥劑
酸性白土ヲ用ヒタル魚類乾燥機ニテ鰻乾燥試驗ヲ
行ヒタルカ成績良好ナリ

(ハ)動搖記錄器試驗

大正十二年簡易ナル方法ヲ以テ漁船ノ動搖ヲ自
記スル裝置ヲ考案シ實地試驗ヲ行ヒタル結果良好
ナリ、本年度ニ於テ此種ノ器械トシテ最モ完全ナ
ル「スペリー」式ト比較試驗シテ本器ノ完成ヲ期セ
ントス

(ニ)絶緣材料試驗

冷蔵庫絶緣材料ノ絶緣價値ハ從來外國ニ於ケル試
驗ノ結果ヲ用ヒタリ本所ハ新規ノ試驗裝置ヲ考案

シ本年度ニ於テ現在一般ニ使用セル材料ニ就キテ
本試験ヲ行ハントズ

附

一 編纂部

大正十二年度及同十三年度ニ於テ編纂出版シタル試
驗報告ハ第十九卷第一、二、三、四、五、六、七冊ニシテ
其細目ハ卷末ニ記載セリ又海洋調査要報第十八報乃
至第二十三報。激震地ニ於ケル海洋ト漁業其一、其
二、及國際水産統計資料ヲ發刊セリ

二 試験鑑定及設計等ノ依頼

本所試験規則ニ依リ大正十二年九月以來取扱ヒタル
件數左ノ如シ

種	類	自大正十二年九月 至同十三年五月件數
船用電燈裝置試驗	一	一
漁網染料試驗	一	一
防腐劑クームヒン試験	一	一

計

備考、大正十一年十一月乃至十二年九月ノ間ニ於
ケル事項多少アリシモ記錄燒失ノ爲メ不詳
ニ付本項中ニハ記載ヲ見合シタリ

第四章 本所敷地建物及諸設備

第一節 本所敷地建物

創設以來新築増築又ハ改築等幾多ノ變遷ヲ經テ大正十二年度ニハ敷
地一萬七千八百六十六坪建坪五千六百六十餘坪ニ達シ本館、(教室、事務室、
講堂、物理教室、物理教室、同實驗室、製圖室、準基室)、養殖研究室
(實驗實習及教室) 漁撈及製造部並ニ別科教室(漁撈部室、同實習室、
製圖室、製造部室、彫刻室) 製造實習場(沃度、油鹽製革、罐詰及汽罐
室)、細菌學實驗實習室、動物實驗室、冷藏庫、圖書及標本室、漁船船
型試驗用大水槽、船型製作室、物理試驗室、漁船機械試驗部、化學試
驗部化學實驗室、海洋調査部、機械實驗室、生徒控室、艇庫、柔道擊
劍道場、寄宿舎等ノ諸棟ヨリナリシガ同年九月一日ノ大震大火ノ災害
ニ罹リ完備セル諸建物ノ内四千六百十餘坪ハ烏有二歸シ教室(物理
教室、同實驗室、準基室、製圖室) 化學試驗部、海洋調査部、冷藏庫、機
械實驗室、等ノ諸棟五百五十餘坪ヲ殘セリ、之レカ應急トシテ本年
三月迄殘存建物ノ内改築等ヲ要スルモノヲ除キ二百五十餘坪ヲ修葺
シ教室及實驗實習室、事務室並ニ寄宿舎等一千八百餘坪ヲ新築セリ、
本復舊ニ就テハ目下調査設計中、

第二節 諸設備

第一 船 艇

一 雲 鷹 丸

本船ハ鋼製二層重甲板三橋「バーク」型帆船ニシテ總噸數四百四十四
噸ニアリ船尾樓及船首樓ヲ有シ三聯成表面冷汽機ノ補助機關ヲ備
ヘ汽力平均速力八浬ナリ

本船ハ明治四十一年五月大阪鐵工所ニ於テ建造ニ著手シ同四十二年
二月進水シ三月試運轉チナシ五月東京ニ廻航シ同月三十日ヨリ生徒
ノ實習ニ供セリ其構造大要ハ本船ノ船尾樓ハ士官室、士官會食室、
配膳室及無線電信室ヨリ成リ學生室ハ四室ニシテ共ニ第二甲板上汽
罐室隔壁ノ兩側ニ在リ各室ヲ通シテ四十人ヲ容ルヘク其前部ニ學生
會食室兼讀書室アリ其隣室ニ船内罐詰製造裝置アリ船首樓内ニハ蒸
汽揚鑄機ヲ側ヘ其兩舷ニ水夫長室生徒及水夫ノ浴室便所等アリ、
第二甲板船首部ノ支水隔壁ノ後部ハ水夫室ニシテ二十二入ヲ容ル
ヘシ機關室ニハ三聯表面冷汽機一臺ト長九呎六吋徑十呎ノ主汽罐一
箇並ニ無線電信用諸室及ヒ給内其他ノ燈火用トシテ發電機二臺ヲ備
フ又汽機室内ニハ五噸蒸發機及「三百ケロン」蒸溜器ヲ備ヘテ海水
ヨリ所用ノ淡水ヲ製スルノ用ニ供シ汽罐室ノ前部内側ハ石炭庫ニシ
テ其容積約百噸ナリ汽機室上部ニ蒸氣操舵機アリテ「フライイング
リッパ」上ニ於テ操舵スルコトヲ得又船首部ニ探海燈ヲ備フ船艙ハ
機關室前部ニアリ其一部ニ漁獲物ヨリ採取セル油約二十二噸ヲ貯フ

敷地建物及諸設置

二 隼 丸

本船ハ「ケツチ」型帆船ニシテ東京石川島造船所ニ於テ明治四十年四
月建造ニ著手シ同年十月竣工セリ長五十二呎七五幅十三呎八五深六
呎〇五總噸數二十八噸一ニアリ補助機關トシテ四十馬力石油發動機
ヲ有ス本船ハ生徒實習並ニ海洋ノ研究及漁業試驗ノ用ニ供セリ

三 天 鷲 丸

海洋調査船天鷲丸ハ大正七年六月中旬東京月島造船所ニ於テ起工シ
同年十二月下旬進水シ、同八年二月竣工セリ補助機關トシテ二百四
十馬力ノ石油發動機ヲ備フル第二級木造船ニシテ低船首樓付一層甲
板ヲ有シ二橋「スケナー」型ノ船體ニシテ帆裝スルモノトス其構造及
設備ノ大要ハ本船ノ船尾甲板上ニハ調査室、操舵室兼海圖室、炊事室
及浴室等ヲ設ケ同甲板上ヲ高級船員室ニ、船首甲板上ヲ下級船員
室ニ充テ中央部ヲ機關室、船庫等ニ區別シ船庫ハ更ニ氷藏室魚艙及
船具倉漁具室ニ區分セリ各室内ハ採光通風ヲ十分ナラシムルノミナ
ラス機關室内ニ發電機ヲ備ヘテ是等室内ノ點燈用ニ供シ且ツ海洋調
査用ノ測深機及延繩捲揚機其他ノ運轉ニ要スル配電裝置ヲナス、
體主要寸法、全長一〇八呎三吋、吃水線ニ於ケル長サ九八呎九吋、木

船検査規程ニヨル長サ、九四呎六吋幅二五呎六吋深サ一〇呎四吋總噸數一六一噸、速力九節四分三ナリ機關主要寸法、型式「ニサイクル、ホットバルブ」直立式石油發動機、氣筒數四、廻轉數二六五、純馬力二四〇アリ其他ノ設備ハ發電用トシテ五馬力ノ石油發動機及二馬力ノ「モーター」ヲ備ヘ測深機ハ「ケルビン氏」電氣動力附測深機及手巻キ「ルーカス」氏測深機ヲ備フ甲板上室ノ大部分ヲ占ムル實驗室ニハ探水器、寒暖計、プランクトン採集網、採泥機等其他海洋調査ニ要スル各方面ノ實驗用具一切ノ設備アリ大正十一年度ニ於テ更ニ無線電信ノ設備ヲナセリ其他漁具ハ底引網、延繩、流網等ノ各種類ヲ備ヘ漁場並ニ魚族ノ探檢研究ニ便シタリ、然リト雖不幸船體ハ腐蝕菌ノ侵ス所トナリ種々方法ヲ講シ之カ防止ニ努メタリシモ殆ント效果ナキヲ以テ遂ニ本年度ニ於テ廢船トナシ其代船トシテ新ニ豫算ヲ得鋼鐵製約二百噸三百五十馬力テイセル機關付汽船ノ建造ニ着手セリ。

第二 實習場、實驗場及試驗地

一 館山實習場

館山實習場ハ實習船ノ繫泊及出入ニ便ナル千葉縣安房郡館山ニ設ケ一般漁具、船具等ヲ備ヘ流撈實習、氣象觀測及漁具ノ製作、設計修理等ノ實習ニ供ス本實習場ハ敷地、建物共從來借入レ使用セシモノナリシモ大正十一年度ニ於テ之ヲ買收シ尙別ニ實習室及寄宿舎等ノ新營ヲナシタリ。

二 小田原實習場

小田原製造實習場ハ神奈川縣小田原町ニ設ケ明治三十四年四月起工シ同年八月竣工セル所ニシテ一定ノ期間生徒ヲシテ製造ノ技術練習ノ傍ラ自ラ經濟ヲ擔當シ企業ノ實際ニ練熟セシムル所トス。大正六年ニ至リ自働織機ヲ設置シ猶亦同十年度講習部擴張ニ伴ヒ製織工場及事務室ノ増設ヲナセリ、次テ大正十二年九月一日ノ大震災ニ依リ教官室七坪五合ヲ除ク外全部倒壊シタルニヨリ直チニ復舊工事ニ着手シ十三年三月ニ至リ之レカ完成ヲ見タリ。

三 高島實驗場

千葉縣館山高島試驗場ハ鹹水産物ニ就キテ其生理、發生、蕃殖ノ方法、人工孵化等ノ實驗ヲナサシメ以テ其一斑ニ通セシムルヲ主トシ又海洋ノ調査、浮游生物研究、氣象觀測等ニ從事セシム而シテ此等ノ目的ヲ達センカ爲メニ孵化室活洲試驗室ヲ設ケ又氣象觀測室及寄宿舎ヲ附設セリ、孵化室ハ桁行五間梁間三間ノ石造平家建ニシテ内部ヲ「タタキ」トシ小形ノ「アグアラム」ヲ設ケテ魚貝類ノ習性其他ヲ研究スルノ便ニ供フ活洲ハ孵化室ノ西側ニ突出セル岩角ノ一部ヲ掘鑿シテ造リタルモノニシテ二個ヨリ成リ内一個ハ長サ四十八尺幅十五尺深サ十二尺他一個ハ長サ三十尺幅十二尺深サ九尺ニシテ幅二尺ノ隧道ヲ設ケテ海水ノ循環ニ便ナラシメタリ。實驗室ハ桁行十間梁間四間半ノ木造平家建ニシテ内部ヲ二二分チ水槽ヲ設置シ海魚卵ノ孵化試驗用其他各種生物ノ研究ニ資セリ。氣象觀測室ハ二階建トシ總坪數十一坪ノ木造トス各種ノ觀測器械ヲ設備シテ實習及觀測ノ用ニ供シ海況ノ變化ト呼吸シテ其ノ水族ノ習性ニ及ホス關係ヲ研究セントスルノ用ニ供セリ。

寄宿舎ハ總建坪五十六坪二合五勺ノ木造二階建ニシテ階上チ自修兼寢室ニ充テ階下チ事務室食堂トセリ元來同島ハ周圍約三町ノ官有禁伐林ニシテ寄宿舎ニ充ツヘキ人家ナキニヨリ此設備ヲ必要トセルナリ尙大正十一年度ニ於テ物置及便所ノ新營ヲナセリ。

四 木崎養魚試驗場

長野縣北安曇郡平村木崎湖畔ニ冷水性魚類養殖試驗ノ爲メ實驗室、孵化室、宿舎及養魚池等ヲ大正十一年度ニ於テ設置セリ。

五 豊橋養魚試驗場

愛知縣滌美郡東豊田及神野新田ニ淡水魚養殖試驗並ニ生徒實習ノ爲メ大正十一年度ニ於テ設置セリ。

六 大長養魚試驗場

廣島縣豊田郡大長村ニ海魚養殖試驗ノ爲メ大正十一年度ニ於テ設置セリ。

七 二見養貝試驗場

兵庫縣加古郡二見村東二見ニ主トシテ板浦牡蠣養殖試驗ノ爲メ大正十一年度ニ於テ設置セリ。

八 五井海苔牡蠣養殖試驗地

敷地建物及諸設備

九 金澤養蠶試驗場

明治四十年以來千葉縣市原郡五井町地先海面十町歩ヲ區劃シあさくさのり養殖ノ試驗地トセリ又大正七年ニ於テ同地々先海面ニ牡蠣養殖試驗地ヲ設ケタリ。

一〇 丸沼外二沼養殖試驗地

明治四十五年二月群馬縣利根郡片品村千明賢治所有山林内丸沼、笈沼、大尻池ノ三池ニ於テ冷水性魚類ノ養殖試驗地ヲ設ケ孵化場ヲ設備セシメ十和田湖産姫鱒、北海道産鱒及北米産紅鱒ノ孵化ヲ行ヘリ以上列記シタル本所並ニ實習場、實驗場及試驗地ノ敷地建物ノ坪數左表ノ如シ。

水産講習所敷地及建物坪數比較表

總坪數	敷地		建物
	所有地	借入地	
三五、三九八	一四、一〇七	二一、二九一	三、七八一
一六、七三三	一、七三三	一五、〇〇〇	二、四〇〇
二、九六〇	—	—	二、八八〇

小田原實習場	1,100,000	3,300,000
水崎養魚試驗場	5,000,000	1,350,000
豊橋養魚試驗場	7,400,000	1,875,000
二見養魚試驗場	1,160,000	640,375
高島實驗場	190,000	180,900
五井養殖試驗地	7,610,000	18,000
金澤養鱒試驗場	315,000	11,000
大長養魚試驗場	119,000	1,000
	1,666,500	139,750

第五章 圖書及標本

第一節 圖書及標本ニ關スル規程

第一 圖書標本委員會規程

明治四十五年四月二十三日

- 第一條 圖書標本委員會ハ左ノ事項ヲ審議ス
 - 一 圖書標本ニ關スル規則ノ制定及改廢ニ關スル件
 - 二 圖書標本ニ關シ所長ヨリ諮問ノ件
- 第二條 委員會ハ圖書標本委員ヲ以テ組織ス
- 第三條 委員ハ各科、課及教務掛職員ノ内各一名ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ所長之命シ委員長ハ委員中ノ首席者ヨリ所長之命ス
- 第四條 委員長ハ圖書標本委員會ノ議長トナリ其事務ヲ處理ス
- 第五條 圖書及標本主任ハ委員會ニ列席ス委員長ハ必要アリト認ム

- 第十一條 圖書斷破シテ使用ニ堪ヘサルモノハ庶務掛ヘ引續キ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十二條 他官廳ヨリ借入タル圖書ハ圖書掛ニ保管シ職員ニ貸付スル場合ハ圖書借覽規程ニ從フ

第三 圖書借覽規程

明治三十年六月

- 第一條 (沿革) 明治三十二年三月、同三八年八月改正
圖書ハ本所職員及囑託員ニ限リ借覽ヲ許ス
但シ職員囑託員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム
- 第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名、部門、番號、冊數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺印ノ上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル規定ノ借用證ヲ圖書取扱主任ニ差出スヘシ
- 第三條 圖書借用期限ハ通常三十日トス尙ホ繼續セントスルトキハ各部長又ハ各科、掛主任ノ承認ヲ得タル上圖書掛ヘ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承諾及檢閱ヲ受ケヘシ
- 第四條 平常各部又ハ各科掛ニ備置クヘキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ證書ヲ差出シ六箇月ヲ一期トシ借用スルコトヲ得
- 第五條 前條圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サス
但シ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス
- 第六條 補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部、科、掛備付ケノ圖書ヲ返納セシムルコトアルヘシ

圖書標本

五八

- ルトキハ其ノ他ノ本所職員ヲ列席センムルコトヲ得
- 第六條 委員會ノ決議ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス
- 列席職員ハ決議ノ數ニ加ハララス

第二 圖書保管規程

明治三十年六月

- (沿革) 明治三十二年三月、同三八年八月改正
- 第一條 本所ノ圖書ハ圖書掛圖書取扱主任ニ於テ之ヲ保管ス
- 第二條 圖書ハ各部門ヲ別チ番號ヲ附シ點檢ノ便ニ供スヘシ
- 第三條 圖書原簿ヲ製シ之ニ書名編著者名部門番號冊數ヲ記載スヘシ
- 第四條 圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スヘシ
- 第五條 圖書ハ毎年一回若ハ二回原簿ト對照シ之カ點檢ヲ爲スヘシ
- 第六條 點檢ノ際ハ圖書ノ補綴又ハ曝涼ヲ爲スヘシ
- 第七條 寄贈ニ係ル圖書ハ目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモノトヲ定メ且謝狀ヲ送ルヘキモノハ其手續ヲ爲スヘシ
- 第八條 雜誌及報告書類ニシテ保存ヲ要スルモノハ圖書同一ニ保管スヘシ
- 第九條 各科掛ニ平常備ヘ置クヘキ圖書ハ部長又ハ主任ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ
- 第十條 前條備付ノ圖書ハ時々取扱主任ノ點檢ヲ受ケヘシ
- 第七條 貴重ノ圖書辭書類ハ閱覽室外ニ携出ヲ許サス
但シ閱覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 他廳ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ稟議ノ上許否ヲ定ムヘシ
- 第九條 他廳ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ所長ヘ稟議ノ上借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ證書ヲ返戻スヘシ
- 第十一條 借用ノ圖書汚損又ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ若クハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ
- 第十二條 借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果ササル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サス

第二節 圖書及標本ノ現況

本所々藏ノ圖書ハ大正十二年九月一日ノ大震大火ノ爲メ大部分ヲ燒失セリ然レトモ海洋調査部、水産化學試驗部及本所々屬ノ各試驗場靈應丸、天鷲丸ニ存在セシモノ並ニ大正十二年九月以降購求セシモノ及寄贈ヲ受ケシモノヲ合スレハ其現在數左ノ如シ

外國書	一、三四五部	一、九八六冊
內國書	八五九部	一、二八〇冊
內國書	一、〇四〇部	一、四五一冊

五九

歐 文 雜 誌

六五種

和 文 新 聞 及 雜 誌

一四種

掛 圖

六四枚

本所職員ノ研究調査ニ係ル論文報告ハ隨時刊行シテ之ヲ水産講習所
試験報告ト題シ大正十二年度ニ於テ第十九卷ヲ刊行シ(卷末刊行圖
書目錄參照)尙海洋調査要報第十八、十九、二十、二十一、二十二、二
十三報ヲ刊行セリ)

標本ハ大正十二年九月一日大震大火災ノ爲メ全部ヲ燒失セリ

第六章 在外研究生

第一節 在外研究生規程

明治四十年十月二十五日
勅令第三二九九號

第一條 水産講習所在外研究生ハ外國ニ於テ水産ニ
關シ須要ナル學術技藝ヲ研究セシムル爲メ水産講習
所ヲ卒業シタル者又ハ水産講習所ノ技術官若ハ教
官中ニ就キ農商務大臣之ヲ命ス

第二條 水産講習所在外研究生ノ研究スヘキ事項研
究地及在外期間等ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第三條 水産講習所在外研究生ニハ農商務大臣ノ定
ムル所ニヨリ一年金千八百圓以内ノ手當ヲ支給ス

但シ各地巡歴研究ノ必要アルトキ其ノ他特別ノ事
由アルトキハ相當ノ手當ヲ増給スルコトヲ得

第四條 水産講習所在外研究生ニハ判任官ニ準シ旅
費及支度料ヲ支給ス

前條但書ノ場合ニ於テ在官者ナルトキハ手當ヲ増
給セス其ノ官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得旅費
及支度料ノ支給方法ハ外國旅費規則ニ依ル

第五條 在官者ニシテ研究生ヲ命セラレタル者ハ本
邦出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄定員外ニ置キ本官ノ俸
給ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ特ニ俸給三分ノ一以
内ヲ支給スルコトヲ得

第六條 水産講習所在外研究生ハ歸朝ノ日ヨリ其ノ
在外期間ニ倍ニ相當スル期間農商務大臣ノ指定ス
ル職務ニ従事スル義務ヲ有ス

第七條 水産講習所在外研究生ニシテ農商務大臣ノ

命令ニ違反シ又ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ農
商務大臣ハ其ノ支給シタル手當旅費及支度料ノ全
部又ハ一部ヲ償還セシム水産講習所在外研究生タ
リシ者ニシテ歸朝後前條ノ義務ヲ盡ササルトキハ
亦同シ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二節 戰時事變ノ際ニ於ケル

文部省海外留學生等定
員ニ關スル勅令

大正三年十月七日
勅令第二百三十號

研 究 事 項

獨逸國ニ於ケル水産養殖法ノ研究
奧國及伊國ニ於ケル淡水水魚養殖研究
英國及諾威國ニ於テ漁撈法ノ研究
佛國ニ於テ水産食用品製造法ノ研究
英國ニ於テ水産食用品製造法ノ研究

在 外 研 究 生

派 遣 期 間 官 名 氏 名

自明治四〇、一一、二二 技手 日 暮 忠
自明治四二、一一、三〇 技手 小 瀬 次 郎
自明治四四、一一、三〇 技手 小 野 辰 次 郎
自明治四四、八、三一 技手 小 野 辰 次 郎

第三節 在外研究生

在外研究生規程ニ依リ海外ニ派遣シタル者左ノ如シ

在官者ニシテ文部省外國留學生又ハ水産講習所在外
研究生ヲ命セラレタルモノ戰時事變ノ爲メ留學國ニ在
留スルコト能ハスシテ歸朝シタルトキ又ハ本邦ヲ出
發スルコト能ハサル場合ニ於テ定員ヲ超過スルトキ
ハ其ノ留學殘期間又ハ留學期間ニ相當スル期間之ヲ
定員外ニ置クコトヲ得

前項ノ規程ニ依リ定員外ニ置キタル者ハ本務ニ従事
セシメ學術技藝ヲ研究セシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニハ豫算ノ範圍内ニ於テ俸給ノ全部ヲ
支給ス

第二學年(二十七名)

伊藤育三 靜岡 五十嵐源治 福島
大塚德太郎 佐賀 富永靜彦 長崎
渡邊正雄 熊本 龍野二郎 福岡
田村辰馬 熊本 根本五郎 千葉
根本哲夫 福島 永井政司 靜岡
中村吉明 神奈川 村上龜次郎 富山
梅澤正吾 愛知

第一學年(三十名)

飯田三郎 山口 濱野增太郎 福岡
岩澤平治 新潟 橋詰友太郎 埼玉
大沼豐吉 宮城 大石義秋 香川
葛西巖 香川 多賀宗將 東京
高草木雅雄 群馬 田中房之助 京都
那須潔 群馬 村上靜夫 東京
野崎伸太郎 埼玉 山下竹次 福岡
松本良香 長崎 枝村張夫 山口
寺門彬 東京 淺田象二郎 兵庫
佐藤七郎 福島 佐野淨平 山梨

養殖科(五十五名)

木村敬三 愛媛 木下貞一 大阪
水谷康正 愛知 清野文二 宮城
久松義男 兵庫
伊藤一郎 長野 岩橋量一 熊本
稻葉傳三郎 大阪 富山哲夫 長崎
川上雅之 廣島 田中小治郎 德島
上野鐵五郎 山形 日下部臺次郎 神奈川
矢板開一 栃木 山内謙大 分
古川順一郎 愛媛 福田隆道 岡山
福迫徹郎 東京 國分善一 東京
後明喜好 新潟
第二學年(十九名)
諫早隆夫 東京 畑中主計 福井
新野弘 北海道 小川千秋 大分
奥野志雄 大阪 川崎吾八 佐賀
高須賀賴夫 愛媛 永川保雄 福岡
山本宜夫 愛知 藤原與助 巖手

第一學年(二十二名)

藤田正廣 島 小林武千 葉
衛藤六藏 兵庫 遠藤雄吉 鳥取
相墨春夫 新潟 天野政之 愛知
酒井銀次郎 東京 瀨田廣吉 埼玉
鈴木清藏 埼玉
稻並芳幸 東京 石島涉 茨城
額田年岡 山 大坪真幸 東京
谷崎正生 福岡 高橋直利 岡山
高橋清三郎 山形 立野新光 巖手
竹中良雄 兵庫 中井甚二 島根
中村捷群 馬 內橋 潔 兵庫
倉本三郎 東京 久納勝太郎 岐阜
楠本俊夫 和歌山 藤田四郎 山口
小森武雄 東京 相坂恒三 巖手
荒木英郎 東京 重松正俊 佐賀
廣瀬篤郎 福島

遠洋漁業科(十名)

道府縣種別	東海區										北海					
	和歌山	三重	愛知	靜岡	神奈川	東京	千葉	茨城	福島	宮城	青森	鳥取	京都	福井	山梨	石川
漁業科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
製造科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
養殖科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
遠洋漁業科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
科研究	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
科別	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
總計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

第二 在學生徒府縣別

生徒

六七

第三學年
 瀬田 稔 佐賀
 新野 二郎 宮城
 堤 正 夫 靜岡
 飯田 喜一 東京
 田中 友三 東京
 大石 宰平 靜岡
 間 武男 茨城

第二學年
 里内 晋 東京
 安原 良男 山形
 春木 初夫 三重
 仁平 宣威 茨城

第一學年
 動物組織ノ研究
 漁業ノ組織及ヒ經濟
 田中 友三 東京
 久保 要香 川

三 研究科(二名)
 四 別科(十三名)
 水産工藝專修(五名)

第二學年
 竹内 弘次 神奈川
 野村 廣吉 宮城

第一學年
 船木 勝治 新潟
 戸田 秀之 東京
 小川 太三郎 東京
 相澤 彌生 群馬
 寺田 孫兵衛 靜岡
 岩崎 松三郎 宮城
 村松 讓 靜岡
 吉岡 正三 重
 河合 一次 愛知
 小庭 太郎 岡山
 吉川 義人 熊本

淡水養魚專修(八名)

六六

實業
三井物産株式會社
朝鮮全羅南道水産試驗場技師
福井縣産業技師

○明治三十二年四月卒業 (十五名)

農商務技師
葛原冷蔵株式會社
島根縣技師
北海道技師
實業
臺灣總督府秘書官
福井縣水産會技師
實業(製網業)
愛知縣知多郡役所
朝鮮平安道廳技師

內田治三郎 山口
村田乙三郎 東京
福田久橋 長崎
木村廣三郎 石川
庄司與一郎 石川
菅谷毅 茨城
石野敬之 千葉
大庭弘雅 福岡
大谷正猛 高知
高橋潤二 岡山
山下節治 長崎
矢野新吉郎 熊本
松崎彌一 鹿兒島
古田正知 岐阜
小林音八 新潟
坂本庄太郎 佐賀
佐々木孝太郎 廣島
宮下知一 東京
下國沖助 北海道
樋口律太郎 長崎
森田忠三 秋田

○明治三十三年四月卒業 (十二名)

熊本縣技師
北海道水産試驗場技師(室蘭駐在所)
代議士
實業
實業
三重縣立志摩水産學校長
實業
宮城縣立水産學校長
燒津水産學校長
在米國
實業
長崎縣水産試驗場技師
朝鮮江原道水産試驗場技師
福岡縣水産試驗場技師
農商務技師

吉永費八郎 長崎
田中仁吉 島根
田谷英 石川
津田美津彦 福岡
中村嘉壽 鹿兒島
久保澤董 青森
松田林 宮崎
小金丸増次郎 福岡
小島才一 神奈川
小木原元吉 鹿兒島
森藏助 鹿兒島
須田正治 山形
石川伸治 石川
本間平八 山形
長內泰助 岩手
大川辰藏 兵庫
松尾秀夫 長崎
前田春水 宮城
荒卯忠 福島
喜多山昇來 愛媛
額田喜一 香川

秋田縣水産試驗場技師

實業
長野縣北松浦郡水産組合
ひむろ組
○明治三十六年七月卒業 (七名)

小島省告 石川
佐藤正孝 山形
日高靖 宮崎
元木淑人 徳島
稻見彌一郎 北海道
岩田雄 京都
内田四郎七 福岡
黒木圓太 福岡
山田廣次 福岡
宮田光 福岡
關根磯吉 東京
堀邊定安 新潟
渡邊理一 愛知
渡邊多記 東京
田中榮定 茨城
中島昌二 長崎
中島秀男 廣島
長井貫香 新潟
山岸留之助 北海道
小松重利 高知

○明治三十八年七月卒業 (十三名)

美代清信 鹿兒島
杉江謙治 石川
伊藤期 愛知
岩本千代馬 高知
林田甚八 長崎
堀江英一 廣島
川口録一 岐阜
川添友志 鹿兒島
南部寬 福岡
村上素 宮崎
上枝平五郎 香川
久保雷之助 愛媛
山根左中 島根
水間春吉 徳島
登坂高三 山形
和田美穂 宮崎
鎌田武造 青森
笠松彌一 東京
河野光三 山口
田中登三 三重

○明治三十九年七月卒業 (十二名)

在墨國
水産講習所技師兼農商務技師
第一ラミ紡績株式會社
鹿兒島縣技師

卒業者

七二

山形縣技師
朝鮮濟州郡技師
靜岡縣水產試驗場技師
山陽工作所
愛知縣水產試驗場技師
○明治四十年七月卒業 (十五名)
小笠原水產株式會社
實業
青森縣技師
教員
農商務技師
福岡縣產業技師
實業(大數額)
實業
日本水產株式會社
早稻研究會
葛原冷蔵株式會社
岩手縣水產試驗場技師
同年九月卒業 (三名)
朝鮮總督府水產試驗場技師

× 中村源一郎 鹿兒島
○ 奧津興美 群馬
山田純太郎 東京
橋川章 宮城
榎本彈正 香川
杉浦保吉 埼玉
○ 芳賀奈七郎 岩手
秦半兵衛 東京
東郷保一 宮城
小川幸之進 岡山
長田景真 鹿兒島
川島信一 廣島
× 村山吉助 岐阜
村岡貫一 山形
野間口兼美 山口
國司浩助 鹿兒島
熊田頭四郎 山口
小崎彰 石川
安達誠三 廣島
木津和秀男 廣島
長友寬 宮崎

○明治四十一年十月卒業 (十七名)
朝鮮總督府技師
實業
葛原冷蔵株式會社
新潟縣水產試驗場技師
× 柳悅多 東京
○ 秋山實 千葉
石井悌治 茨城
馬場駒雄 岡山
新宅定一 廣島
× 飛山信治 新潟
渡邊康介 愛知
河村常一 廣島
金子常太郎 岩手
吉田義男 長崎
高山伊太郎 大分
竹內仲治 長野
村上寅一 愛媛
植木憲吉 兵庫
福野久松 石川
天野壯助 愛知
木下信資 鳥取
宮脇伊太郎 鹿兒島
× 溝上二郎 兵庫
○ 奧村伊三郎 滋賀
金刺琢磨 香川
橫田壯 福島

神戶縣立水產學校教諭
農商務技師白鷗丸船長
青森縣水產試驗場技師
北海道廳技師
實業
水產講習所技師
○同年九月卒業 (十二名)
關東州水產試驗場技師
富山縣水產講習所技師
農商務技師
日魯漁業株式會社
鳥根縣水產試驗場技師
實業
北海道技師
下關漁網船具株式會社
北海道水產試驗場技師
水產講習所技師(天鷗丸船長)
北海道廳立小樽水產學校教諭
○明治四十三年七月卒業 (十五名)
伊吹群作 福井
濱田五六 廣島
新國逸夫 新潟
細川可也 栃木

○明治四十二年七月卒業 (九名)
鹿兒島縣水產會技師
日本鐵工株式會社
福島縣技師

○明治四十四年七月卒業 (十七名)
實業
神奈川縣水產試驗場技師
東京市魚市場事務所
山口縣水產試驗場技師

○同年八月卒業 (六名)
林兼漁業株式會社取締役支配人
實業
實業
實業
實業
實業
日本トロール株式會社
實業

○明治四十四年七月卒業 (十七名)
石原重郎 熊本
布目孜 熊川
大塚三平 茨城
高橋照文 千葉

○同年九月卒業 (十二名)
岩本清太郎 鳥取
市川峰吉 三重
飯尾公壽 福岡
○ 與儀喜宜 沖繩
谷本坂嘉 岡山
後藤節藏 大分
古閑義康 熊本
新井藤一郎 茨城
○ 齋藤齊 茨城
○ 養田靜夫 鹿兒島
白井勝三郎 茨城
日比義三 岐阜
伊吹群作 福井
濱田五六 廣島
新國逸夫 新潟
細川可也 栃木

○同年九月卒業 (十二名)
吉田定次郎 鹿兒島
武富榮一 佐賀
辻志郎 栃木
明山保次郎 兵庫
木下辰雄 熊本
三浦定之助 山形
岩本清太郎 鳥取
市川峰吉 三重
飯尾公壽 福岡
○ 與儀喜宜 沖繩
谷本坂嘉 岡山
後藤節藏 大分
古閑義康 熊本
新井藤一郎 茨城
○ 齋藤齊 茨城
○ 養田靜夫 鹿兒島
白井勝三郎 茨城
日比義三 岐阜
伊吹群作 福井
濱田五六 廣島
新國逸夫 新潟
細川可也 栃木

○同年九月卒業 (十二名)
吉田定次郎 鹿兒島
武富榮一 佐賀
辻志郎 栃木
明山保次郎 兵庫
木下辰雄 熊本
三浦定之助 山形
岩本清太郎 鳥取
市川峰吉 三重
飯尾公壽 福岡
○ 與儀喜宜 沖繩
谷本坂嘉 岡山
後藤節藏 大分
古閑義康 熊本
新井藤一郎 茨城
○ 齋藤齊 茨城
○ 養田靜夫 鹿兒島
白井勝三郎 茨城
日比義三 岐阜
伊吹群作 福井
濱田五六 廣島
新國逸夫 新潟
細川可也 栃木

○同年九月卒業 (十二名)
吉田定次郎 鹿兒島
武富榮一 佐賀
辻志郎 栃木
明山保次郎 兵庫
木下辰雄 熊本
三浦定之助 山形
岩本清太郎 鳥取
市川峰吉 三重
飯尾公壽 福岡
○ 與儀喜宜 沖繩
谷本坂嘉 岡山
後藤節藏 大分
古閑義康 熊本
新井藤一郎 茨城
○ 齋藤齊 茨城
○ 養田靜夫 鹿兒島
白井勝三郎 茨城
日比義三 岐阜
伊吹群作 福井
濱田五六 廣島
新國逸夫 新潟
細川可也 栃木

卒業者

香川縣技手

○同年十月卒業 (二名)

日魯漁業株式會社

○同年十一月卒業 (二名)

朝鮮總督府技手

○大正四年七月卒業 (十七名)

實業

日魯漁業株式會社

長崎縣技手

農商務技手

函館漁網船具株式會社

實業

青森縣水產試驗場技手

三重縣技手

日東製氷株式會社(下關出張所)

實業

青森縣水產試驗場技手

愛媛縣水產試驗場技手

新潟縣水產試驗場技手

朝鮮總督府技手

東京府廳

岸田十雄

沼野鉦吉

中村吉治

重田瑞穂

石崎實三郎

岡本正一

渡邊六造

龜田精一

吉田秀一

田代正治

津田守規

中山琢三

栗田要吉

山田盛雄

山本德

合原一

小松和勝

旭章

齋藤陽三

白石賢三郎

朝鮮成鏡南道水產會

○同年九月卒業 (十名)

日魯漁業株式會社

在米國

北海道浦川支廳技手

實業(大連)

福島縣水產試驗場技手

石川縣水產試驗場技手

熊本縣廳

茨城縣水產試驗場技手

農商務技手

○同年十月卒業 (一名)

三重縣立志摩水產學校

熊本縣產業技手

○大正五年七月卒業 (九名)

實業(在セレス)

靜岡縣水產試驗場技手

臺灣總督府技手

實業

七六

李炫國

家坂孝平

高橋千里

浦山精一

山下彦次郎

山井隆亮

峰村辰三

森村共正

桃田利惣

仙波平馬

進平

三宅好美

村上正男

淵山貞

岡島清

尾藤信正

金村正巳

雁部松三郎

谷村登吉

朝鮮

新潟

長崎

靜岡

兵庫

栃木

石川

長崎

新潟

栃木

福岡

岩手

愛媛

長崎

廣島

熊本

山形

宮城

高知

佐賀縣水產試驗場技手

長崎縣技手

朝鮮全羅南道木浦水產試驗場技手

岩手縣立水產學校技手

○同年九月卒月 (三名)

千葉縣技手

東京市公設市場

○同年十一月卒業 (二名)

實業

橫濱稅關監視

○同年十二月卒業 (二名)

北海道技手

臺灣高雄州技手

○大正六年三月卒業 (十七名)

東京府技手

堤內地漁業株式會社

德島縣水產試驗場技手

高知縣技手

宮城縣立水產學校技手

廣島縣水產試驗場技手

實業

根岸勝彌

秋山俊一

北野退藏

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

須貝實

實業

○同年十一月卒業 (二名)

千葉縣立安房水產學校技手

明治漁業株式會社

熊本縣水產試驗場技手

樺太廳技手

朝鮮總督府水產試驗場技手

○同年五月卒業 (四名)

南洋廳技手

島根縣水產試驗場技手

千葉縣水產試驗場技手

○同年四月卒業 (三名)

朝鮮總督府鐵道監理課

宮城縣水產講習所技手

東京市市場協會魚菜係

實業

巖手縣技手

角輪組

臺灣臺北廳技手

京都水產講習所技師

東京府市場協會魚菜係

宮城縣水產講習所技手

朝鮮總督府鐵道監理課

○同年四月卒業 (三名)

千葉縣水產試驗場技手

島根縣水產試驗場技手

南洋廳技手

○同年五月卒業 (四名)

朝鮮總督府水產試驗場技手

樺太廳技手

熊本縣水產試驗場技手

明治漁業株式會社

千葉縣水產講習所技手

○同年九月卒業 (一名)

千葉縣立安房水產學校技手

○同年十一月卒業 (二名)

實業

○同年十一月卒業 (二名)

實業

○同年十一月卒業 (二名)

實業

○同年十一月卒業 (二名)

實業

○同年十一月卒業 (二名)

實業

○同年十一月卒業 (二名)

實業

○同年十一月卒業 (二名)

實業

○同年十一月卒業 (二名)

實業

○同年十一月卒業 (二名)

實業

○同年十一月卒業 (二名)

實業

七六

李炫國

家坂孝平

高橋千里

浦山精一

山下彦次郎

山井隆亮

峰村辰三

森村共正

桃田利惣

仙波平馬

進平

三宅好美

村上正男

淵山貞

岡島清

尾藤信正

金村正巳

雁部松三郎

谷村登吉

朝鮮

新潟

長崎

靜岡

兵庫

栃木

石川

長崎

新潟

栃木

福岡

岩手

愛媛

長崎

廣島

熊本

山形

宮城

高知

那須明雄

甘利集基

天野郡治

澤池一雄

佐々木武雄

人見秀四郎

平山繁

菅三郎

金泳煥

堀井恒次郎

鎌田積

日置德太郎

今岡源一

飯野良佐

大津清

青木京一郎

近藤止三

岩尾正人

山下彌三左衛門

鹿兒島

三重

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

卒業者

七七

○大正七年三月卒業 (十七名)

佐賀縣屬 山形縣技手 樺太水産試験場技手 明治漁業株式會社 農商務技手 宮城縣技手 實業 關東州水産試験場技手(大連) 日魯漁業株式會社 新潟縣立能生水産學校教諭 愛媛縣水産試験場技手 日魯漁業株式會社 神奈川縣川邊大敷漁場 實業 山口縣水産試験場技手 高知縣水産試験場技手 新潟縣水産試験場技手 臺灣總督府技手 德島縣水産試験場技手

○大正八年三月卒業 (二十三名)

井上常吉 佐賀 葛原冷蔵株式會社 靜岡縣技手 神田貞治 山形 長崎縣水産試験場技手 谷島馬太郎 大阪 沖繩縣立水産學校教諭 高橋幸三郎 宮城 兵庫縣水産試験場技手 副田德平 佐賀 日魯漁業株式會社 十川正夫 德島 實業 中谷熊楠 和歌山 實業 山口嘉四郎 兵庫 京都帝國大學經濟學部學生 伏本政樹 廣島 新潟縣西蒲原郡技手 小笠原秀雄 群馬 樺太合同產業會社 經沼英吉 栃木 實業 海老塚健一 神奈川 實業 佐藤清治 宮城 北洋漁業株式會社 酒卷義司 千葉 實業 菊池忠造 宮城 實業 鹽澤虎馬雄 山梨 水産講習所助教兼屬 久野好 福岡 水産講習所囑託 友廣年 岡山 愛知縣水産試験場技手 大熊保道 山口 日魯漁業株式會社 大分縣水産試験場技手 伊賀敏郎 兵庫 水産講習所助教 朝鮮總督府水産試験場技手

○大正九年三月卒業 (二十一名)

茨城縣技手 角輪組 愛媛縣南宇和郡技手 日魯漁業株式會社 朝鮮統營水産講習所技手 福井縣水産試験場技手 日魯漁業株式會社 富山縣水産試験場技手 東京市魚市場事務所 在外 宮崎縣臼杵郡技手 共同水産株式會社 高知縣水産試験場技手 日魯漁業株式會社 實業 實業 角輪組 京都帝國大學學生

石田稔威雄 群馬 靜岡縣稻取實業補習學校 飯塚喜一 東京 船本縣水産試験場技手 馬場秋二 福岡 小笠原水産試験場 太田久隆 群馬 石川縣水産試験場 花島年安 福岡 日南水産株式會社 高橋亮吉 東京 愛知縣水産試験場技手 永井福三郎 岡山 明治漁業株式會社 中田賢吉 長野 薩哈陸軍政部技手 中目協 宮城 富山縣水産講習所技師 確井秋雄 靜岡 樺太合同產業株式會社 野口乾 福島 實業 國井林 栃木 實業 久保慶男 長野 千葉縣水産試験場技手 後藤藤 岡山 葛原冷蔵株式會社 小島信司 新潟 南千住魚市場 赤星家雄 大分 葛原冷蔵株式會社 佐藤正夫 大分 葛原冷蔵株式會社 北島正 長崎 葛原冷蔵株式會社 白石平七 福岡 富山縣產業技手 瀨田稔 佐賀 高知縣水産試験場技手 申鴻雨 朝鮮

井垣喜作 兵庫 原田直人 東京 伴善居 福井 濱邊清藏 鹿兒島 本間豊 茨城 大村三樹之助 兵庫 岡屋慶光 山口 岡本大助 熊本 川原七郎 鹿兒島 橫井太郎 愛知 谷田穎巖 高知 實田穎作 福島 中江富三 大阪 野本市次郎 愛知 黑田德次郎 北海道 工藤辰雄 靜岡 矢部武三 新潟 山口虎雄 佐賀 山口保三郎 茨城 古谷代吉 福岡 岸川由太郎 佐賀 瀨口浩司 群馬 三浦政美 山形

○大正十年三月卒業 (二十七名)

七九

七八

遠洋漁業科在學
高知縣津呂補習學校
日南水產株式會社

○大正十一年三月卒業 (二十二名)

實業
角輪組
福井縣立小濱水道學校教諭
兵役
秋田郡水産試験場技手
水産局
香川縣水産試験場技手
鹿兒島縣水産試験場技手
堤內地漁業株式會社
遠洋漁業科在學
葛原冷蔵株式會社
靜岡縣田方郡役所技手
和歌山縣水産試験場技手
水産局
明治漁業株式會社
國際汽船株式會社
明治漁業株式會社

新野二郎 宮城
廣瀬恒美 高知
日高久彌 宮崎
鈴木操 福島

遠洋漁業科在學
水産講習所助手(館山實習場)
岡山縣水産試験場技手

○同年四月卒業 (一名)

宮城縣仙臺市水産會
○同年八月卒業 (一名)

○大正十二年三月卒業 (十七名)

花木哲之助 愛知
長谷川金衛 新潟
奥田憲太郎 鳥取
奧津三郎 神奈川
渡邊東雄 宮城
加藤利夫 大分
甲藤健夫 高知
金子武吉 埼玉
吉澤晴一 埼玉
武井政雄 北海道
堤正夫 靜岡
永田德太郎 兵庫
山田千代夫 和歌山
松島平次郎 三重
小林世紀 新潟
近藤綱一 愛知
近藤道之助 東京
海老原忍 千葉

宮城縣本吉郡水産會
兵役
明治漁業株式會社
神奈川縣水産試験場技手
兵役
兵役
水産講習所助手
葛原冷蔵株式會社
兵役

八〇
安達新 茨城
里内 菅 東京
櫻井輝 千葉
木村宗太郎 福井
池邊謙三 熊本
吳毅 支那
長谷川正一 愛知
星野豐 千葉
外岡元雄 滋賀
橫山一 廣島
高本等 京都
辻村秀一 京都
中村國一 東京
村瀨二郎 東京
松岡嘉三郎 熊本
松浦信雄 東京
松本利一 大阪
酒井森三郎 大阪
眞後外見 新潟
檜山鐵造 茨城

兵役
兵役
兵役

○大正十三年二月卒業 (一名)

○大正十三年三月卒業 (二十五名)

實業
遠洋漁業科在學
兵役
遠洋漁業科在學
小笠原水産株式會社
日魯漁業株式會社
遠洋漁業科在學
兵役
○大敷網漁場
兵役
兵役
茅ヶ崎大敷網漁場
葛原冷蔵株式會社
靜岡縣志田郡技手
千葉縣水産試験場
研究科在學
遠洋漁業科在學
遠洋漁業科在學

菅原三期 秋田
杉孝政 兵庫
鈴木德三 宮城
後藤林英 新潟
石原政男 福岡
春木初夫 三重
四川定一 栃木
仁平宣威 茨城
本田三郎 茨城
利行正雄 東京
大石宰平 靜岡
大庭重行 靜岡
岡部泰藏 神奈川
岡田仁弘 德島
吉澤正三 富山
田中道知 靜岡
立石政巖 熊本
村井政雄 東京
村岡壽期 福島
久保要 香川
安原良男 山形
岡中武男 茨城

茨城縣廳商工課
日魯漁業株式會社
水産講習所助手
秋田縣水産試験場
京都府水産講習所
魚河岸尾松商店

(一) 製造科 (五百十六名)

○明治三十一年四月卒業 (三十四名)

三井物産株式會社(門司)
朝鮮全羅北道廳技師
水産講習所技師
臺灣臺南北門嶼專賣局技師

牧正爾 栃木
荒木寬 新潟
朝日向昇平 茨城
坂田義澄 熊本
御園生武雄 山口
水野金市 秋田
鈴木喜三郎 茨城
今井次郎 神奈川
長谷川作次 石川
濱元四良太郎 富山
二宮常八 香川
四保 熊本
堀江銀之助 東京
本郷益雄 東京
小野辰次郎 東京
大津吉之介 茨城
岡本賢一 大分
吉川尙方 東京
吉田三俊 大阪
高松勝重 三重

卒業
者

(舊姓關根)

朝鮮總督府技手(成鏡道水産試験場長) 田所清雄 茨城

熊本縣水産試験場長 中四英男 三重

東京府農工銀行營業課長代理(舊名和太郎) 大和由七 東京

德島縣水産試験場長 山本廣三 大分

(舊姓佐藤)

實業 牧野左馬三 大分

東京府技師 前田庄五郎 兵庫

北海道根室五星織詰會社技師 藤村守一 高知

鹿兒島縣立商船水産學校教諭 古賀駿輔 福岡

北海道水産試験場技師(稚内支部) 駒澤幸一 石川

宮崎縣水産組合技師 北川克郎 高知

實業 木原方吉 佐賀

實業 宮木周市 山口

實業 白石拙郎 島根

實業(肝油製造) 篠崎順三 鹿兒島

實業 平野友安 千葉

千葉縣水産會技師 關原東太 千葉

○明治三十二年四月卒業(二十二名)

○明治三十三年四月卒業(十五名)

八二

井關正行 和歌山

市橋丁九 東京

西堀良造 北海道

富盛恒 千葉

○(舊姓誠一) 小川清一 佐賀

大木盛三郎 東京

○(舊姓小倉) 辻好司 石川

久市恒介 山口

府中喜八郎 石川

府波健藏 石川

小石季一 秋田

小岩井治世 青森

藍野一男 千葉

佐々木繁太郎 香川

北野宇佐吉 德島

肝付兼昌 鹿兒島

光増健三郎 佐賀

宮島伊望 千葉

○(舊姓勝藏) 廣瀬谷源七 宮城

廣月松右衛門 島根

專賣局技師(專賣局事業部在勤)

船橋晋吉 神奈川

○明治三十五年四月卒業(三名)

小見山富市 熊本

朝比奈雪 靜岡

○(舊姓中野) 岩城宣郎 靜岡

田淵速吉 德島

久保田信治 兵庫

○明治三十六年七月卒業(十三名)

石原重良 山形

岩本正孝 長野

渡邊安忠 大分

○(舊姓野田) 吉川秀之 石川

田島百人 熊本

宗熊 大分

○(舊姓與吉) 内村可一 德島

松尾靈彦 愛知

淺井謙吉 東京

○(舊名嘉吉) 酒井憲次郎 三重

菊池健 岩手

宮内友吉 鹿兒島

志村彦藏 山形

○(舊名嘉吉) 畑田熊次郎 岩手

日本勸業銀行静岡支店長 一宮弘人 長崎

宮崎縣產業技師 伊藤哲太郎 茨城

山口縣產業技師山口縣水産組合幹事(舊姓渡邊) 濱田直作 富山

宜那水産株式會社 金高喜一郎 千葉

實業(木材並倉庫業) 吉田虎藏 德島

久木田勝馬 山口

久谷歡一郎 島根

○阿部 榎 宮城

○齊藤七郎 千葉

○水野幸次郎 愛知

○鹽田愛隣 千葉

○(舊姓大西) 鈴木珍平 岩手

實業 池田熊之助 鹿兒島

實業(漁業) 千葉幸三郎 東京

實業 小野寺利吉 宮城

實業 中井國太郎 愛媛

實業 野元俊一 鹿兒島

實業 松原榮 兵庫

實業 新潟縣水産會技師

水産講習所技師

滋洲製粉株式會社事務取締役

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

八三

實業(在上海)

大阪鐵詰検査所

大北漁業株式會社

陸軍技手(字品陸軍糧秣廠在勤)

實業

青森縣水產試驗場

大北漁業株式會社

福岡縣水產試驗場技手

特許局技手

日魯漁業株式會社技師

水產講習所技手

實業(確詰試力業)

實業

○明治四十三年七月卒業

東京府技手(小笠原島廳)

若林忠雄

田中瓦平

谷口直太郎

高瀬重之

田代寬範

武晴宜

永井良

中山盛繼

山路政一

岩田久家

福井守一

小林丈太郎

小山甲三

有賀篠夫

北島格一

北川政次郎

木村松太郎

三木源吉

菅原元一郎

岩手

兵庫

日魯漁業株式會社

○明治四十四年七月卒業

東京

長崎

山形

八六

内藤俊一

中野常徳

中山留八

太田貞太郎

九條良叙

矢野實

山本祥吉

前澤織衛

淵崎顯三

有坂利一

青田春藏

鈴木儀八

張英

張英

加隈良介

村上次郎

布施達治

海老澤光治

菅宮清吉

支那

支那

支那

支那

支那

支那

飯澤發

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

卒業者

實業

蘆河漁業株式會社技師

北海道水產試驗場技師

東和油房技師長(在青島)

田中製革場技師

富山縣水產講習所技師

實業(食料品業)

新潟縣理事官(地方課長)

實業(漁網染料製造業)

實業

農商務技師

農商務技師

水產講習所技手

水產講習所技手

水產講習所技手

水產講習所技手

水產講習所技手

日魯漁業株式會社技師

日魯漁業株式會社技師

日魯漁業株式會社技師

池山光藏

德永盛雄

吉田敬雄

谷村重忠

武木源四郎

津田弘一

根岸林造

内田孝雄

内田林治

内田林治

牛島實

安井章一

山添兵造

古田榮作

小柳石男

江副元三

齊藤雙樓

佐藤善右衛門

深山義道

伍正名

胡澤泰

伊藤孝夫

外山源吾

横尾藤作

三重

熊本

熊本

熊本

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

岡山

樺太合同産業株式會社支配人

大倉組(函館)

○明治四十五年七月卒業

新潟縣水產學校教諭

農商務技師

和歌山縣水產試驗場技手

宮崎縣技師

實業

高知縣水產試驗場長

福島縣水產試驗場技手

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

實業

獲野演一

佐田作郎

池田良作

伴誠一

大橋哲郎

大内義男

川端豐松

川口久四郎

河村兵三

中村悌二

中村悌二

深澤三郎

島添眞一

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

關根

兵庫

宮崎

山形

東京

靜岡

福島

兵庫

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

三重

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

八七

八七

八七

八七

八七

八七

八七

八七

八七

八七

八七

八七

實業

○大正二年七月卒業 (二十四名)

葛原冷蔵株式會社
北海道水産試驗場技手
青森縣立水産學校教諭
水産講習所助教
新潟縣立能生水産學校教諭
三越吳服店食料品部
新潟縣水産試驗場技手
三陸冷蔵株式會社
臺灣海産株式會社
鈴木工場研究部技師
北海道産産業主事補兼技手
東北帝國大學助手
陸軍技手(宇品陸軍糧秣廠)
茨城縣水産試驗場技手

鈴木武

市島徹太郎
飯岡忠重
本田鹿人
島居強次
萩原茂
大槻房吉
小野彌一
小野太亮
神住潔光
內藤謹三郎
中村信治
中村信治
黒田元治
山本泉
松生義勝
藤本尙一
近藤辰雄
後藤覺壽
寺門弘隆
源義一
森源

實業

○大正三年七月卒業 (十四名)

東亞製網株式會社
臺灣製維株式會社支配人
高岡商業學校教諭
愛媛縣北宇和郡水産會技師
市賣局技手
フンザー食品株式會社
島根縣水産試驗場技手
實業
日魯漁業株式會社
大阪市立工業研究所
實業
○大正四年七月卒業 (十三名)

八八

伊藤眞三
池尻文郎
西島直太郎
渡邊富藏
吉田實
吉村善一
中村鐵太
內海直國
小野信之助
前田石之助
小和田金吉
荒川龍
北野漸
三少澤福定
岩松三郎
入田秋治
富田四郎
吉永一隆

三重縣水産試驗場技手

實業
實業
鈴木味の素工場
愛媛縣技師
岩手縣立水産學校
開進組(精演)
星製藥株式會社
日魯漁業株式會社技師
星製藥株式會社

田山來介
津幡文八郎
宇田繁
熊澤楠吉
佐藤秀雄
菊山武雄
弓削謙
鈴木証三
李商編
中島吉十郎
中須辰二
柳谷善吉
美川秀信
水口元
清水淳三
岩淵修平
秦義輔
太田正一
内田一郎
松島敏之
福田作次郎
宜保友厚

○同年九月卒業 (一名)
志村良英
× 澁谷亮
× 寺西爲信
○同年十月卒業 (五名)
原三太
吉澤久藏
田邊五郎
山田永雄
平塚顯樞

青森
山口
高知
福島
愛媛
茨城
愛知
朝鮮
佐賀
石川
北海道
熊本
神奈川
宮城
福井
石川
宮城
香川
沖繩

實業

○大正五年七月卒業 (九名)

朝鮮總督府水産試驗場技手
農食品工業所
專賣局技手(臺灣)
日東製氷株式會社(東京)
在米國

日魯漁業株式會社
三井物産株式會社(東京)
高知縣水産試驗場技手
實業
日魯漁業株式會社
株式會社竹中雜詰所
宇和島畜産株式會社專務取締役兼技師長

○大正六年三月卒業 (十四名)
生田廉
岡野滿津次郎
加藤清一郎
金谷二郎
梶原孝治
野村康雄
增田秀治郎
福住吉慶
小林小一郎
甲賀正一
阿部松太郎
佐野貞三

山口
德島
富山
群馬
兵庫
東京
靜岡
東京
新潟
靜岡
愛媛
福島

卒業者

實業

○同年六月卒業 (二名)

東洋製糖株式會社(大阪)

○大正七年三月卒業 (二十名)

合資會社坂上商店

日魯漁業株式會社

朝鮮殖産銀行

在米國

尼安本店營業部

長崎縣水産試驗場

在米國

專賣局技手(神戸)

柏原製油株式會社

熊本縣水産試驗場技手

灘萬商店(大阪)

鈴木商店(京城)

星製糖株式會社

葛原冷蔵株式會社

山口縣水産試驗場技手

東洋拓殖株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

○大正八年三月卒業 (十六名)

專賣局技手

三井物産株式會社

函館詰檢所

日魯漁業株式會社

日魯漁業株式會社

京都帝國大學經濟學部學生

鈴木商店(根室)

星製糖株式會社

日魯漁業株式會社

專賣局中央試驗場技手

葛原冷蔵株式會社

朝鮮總督府技手

○同年四月卒業 (二名)

葛原冷蔵株式會社

○大正九年三月卒業 (二十三名)

水産講習所助教

東洋製糖株式會社

大北漁業株式會社

九〇

石川成人

原武雄

西善磐

宮崎善吾

大久保嘉壽彦

吉川市次

田邊武雄

中谷正雄

村井午之助

宇津美修藏

楠綱四郎

淺野一哉

眞田幸次

島田次郎

森川庄次郎

李重漢

古川武毅

川口武男

實業

○同年六月卒業 (二名)

東洋製糖株式會社(大阪)

○大正七年三月卒業 (二十名)

合資會社坂上商店

日魯漁業株式會社

朝鮮殖産銀行

在米國

尼安本店營業部

長崎縣水産試驗場

在米國

專賣局技手(神戸)

柏原製油株式會社

熊本縣水産試驗場技手

灘萬商店(大阪)

鈴木商店(京城)

星製糖株式會社

葛原冷蔵株式會社

山口縣水産試驗場技手

東洋拓殖株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

山陽皮革株式會社

實業

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

卒業者

川本壽雄

高橋重治

高橋武州

田坂次文

內田康次

中川勤

栗原傳四郎

築下武雄

山下益太郎

山本益太郎

間庭秀文

小泉喜代治

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

廣島

朝鮮新義州税關署技手

日本飲食料新聞

廣島縣水産試驗場技手

靜岡縣水産試驗場技手

鹿兒島縣水産試驗場

神奈川縣水産試驗場

葛原冷蔵株式會社

田中製糖所

京都帝國大學農科大學農林經濟科學生

○大正十一年三月卒業 (二十四名)

水産講習所助手

東洋製糖株式會社(東京工場)

愛知縣產業技手

神奈川縣水産講習所

葛原冷蔵株式會社

葛原冷蔵株式會社

葛原冷蔵株式會社

葛原冷蔵株式會社

葛原冷蔵株式會社

葛原冷蔵株式會社

葛原冷蔵株式會社

葛原冷蔵株式會社

葛原冷蔵株式會社

葛原冷蔵株式會社

岩本正一

井波義雄

原孝吉

原孝吉

原孝吉

原孝吉

原孝吉

原孝吉

原孝吉

原孝吉

原孝吉

原孝吉

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

宮城

鳥取縣產業技手(西伯郡)
 明治食料株式會社(橫濱)
 實業
 長崎縣水產會
 實業
 宣城縣立水產學校
 日本竹輪製造株式會社
 濱口謹詰製造所技師
 大分縣水產試驗場技手
 葛原冷蔵株式會社
 福岡縣專賣支局
 大阪謹詰検査所
 天津河北直隸水產學校教諭
 ○大正十二年三月卒業(二十六名)
 日東製水株式會社(東京)
 沖繩縣立水產學校教諭
 葛原冷蔵株式會社
 兵役
 星製菓株式會社
 中島商店
 松坂屋吳服店(名古屋)
 明治漁業株式會社
 日魯漁業株式會社
 農商務省商務局

倉恒正賢 鳥取 葛原冷蔵株式會社
 矢住清亮 熊本 橫濱元濱町古屋商店
 前波季子 福井 神奈川縣高座郡水產會
 松澤定五郎 千葉 臺灣製糖株式會社(高雄)
 益田泰一 福岡 東洋製糖株式會社
 增田 駿 水產講習所助手
 古賀保一 埼玉 野村衛平商店
 齋藤孝治 千葉 ひろし組
 齊木利得 東京 兵役
 木村金藏 埼玉 星製菓食品工場
 宮良當宴 沖繩 東洋製糖株式會社
 日高 照 宮崎 兵役
 張元 支那 朝鮮黃海道廳勸業課
 水產局
 稻生正直 愛知 東洋製糖株式會社
 井上 耐 岩手縣產業技手(下閉伊郡)
 ○大正十三年三月卒業(三十二名)
 今堀孝人 北海道 小樽北海製糖株式會社
 池邊康彌 東京 柳河興産株式會社
 石塚森男 神奈川 實業
 甘日出要之進 廣島
 西山 廉 八木漁業部
 土井武夫 愛知 日魯漁業株式會社
 大久保金三 群馬 水產講習所助手
 和田 貢 千葉

九二
 米井俊雄 大阪
 吉澤昇 神奈川
 玉木松之進 山口
 尊田寬一 佐賀
 梅本香二 愛知
 山口豐樹 茨城
 松尾雅朗 福岡
 松田悅郎 長野
 增田 興 靜岡
 秋野光次 山形
 酒井達雄 茨城
 宮崎文四 廣島
 白川明則 長崎
 篠原正規 石川
 毛利重之 東京
 杉田豐藏 靜岡
 伊藤敏三 山口
 橋爪英士 福岡
 鳥居正明 東京
 大園 要 茨城
 小川悅也 東京
 岡田郁之助 神奈川
 小谷和夫 兵庫

東洋製糖株式會社(東京)
 東洋製糖株式會社(大阪)
 釜山税關
 越吳服店
 葛原冷蔵株式會社(東京)
 江原道水產試驗場技手
 兵役
 大阪野田屋食料店
 日魯漁業株式會社(函館)
 兵役
 葛原冷蔵株式會社(氣仙沼)
 宮城縣水產講習所技手
 水產講習所助手
 星製菓株式會社
 京都濱口謹詰製造所
 日本魚糧株式會社
 大阪祭原商店
 根室確水謹詰製造所
 星製菓株式會社食品部
 橫濱謹詰検査所
 京都帝國大學農學部學生

小澤 俊雄 神奈川
 數野傳次郎 香川
 神田政也 鹿兒島
 田中泉太郎 長野
 田村辨一 山口
 宗田將雄 福岡
 中村正記 宮城
 栗林丈夫 兵庫
 山田貞二郎 新潟
 丸地廣男 愛知
 正木大四郎 千葉
 福本茂 京都
 藤田周吉 京都
 小林茂雄 靜岡
 木庭至德 熊本
 遠藤正英 東京
 安藤 豐 香川
 淺野昇一 德島
 朝倉要三 神奈川
 秋月 壽 岡山
 三原寅雄 京都
 宮坂丑弘 長崎
 清水俊雄 愛媛
 清水 貢 愛知

九三
 杉原裕二 滋賀
 (二百二十九名)
 (舊姓冬木)
 磯崎德次郎 千葉
 西島新藏 山口
 大石芳三 佐賀
 吉川 諄 埼玉
 高橋重太郎 岩手
 長島幸吉 千葉
 藤田政勝 兵庫
 淺井長三郎 福岡
 坂井安三郎 佐賀
 (五名)
 川端重五郎 三重
 壁谷可也 東京
 内山龜五郎 福岡
 山本開作 神奈川
 須田 詔 東京
 (八名)
 伊藤俊治 千葉
 今野虎吉 福島
 石田五一郎 山口
 (舊名茂十郎)
 緒方惟孝 大分

卒業生

實業
香川縣水産試験場長
小野佐久雄 東京
秋山永次 東京
櫻田廣吉 秋田
肥後了一 鹿兒島
實業(上海)
○明治三十九年七月卒業 (二名)
平木治 福岡
萩原實治 兵庫
鐘ヶ江東作 佐賀

實業
○明治三十四年四月卒業 (三名)
片倉健吉 東京
長島八郎 神奈川
須田義二郎 山形
農商務技師
帝室林野管理局事務官補
○同年九月卒業 (一名)
德久三種 山口
谷口利三郎 廣島
西村茂生 山口
實業
○明治四十一年七月卒業 (七名)
金子政之助 東京
河合盾丸 愛知
八幡光造 山形
柳本斗夫 德島
藤城存知 廣島
阿部圭 福岡
須賀原善太郎 群馬

實業
○明治三十六年七月卒業 (四名)
河合殿 愛知
山下平造 兵庫
山本由一 東京
○越田徳次郎 石川
○丸川久俊 島根
椎原廣男 鹿兒島
○明治三十八年七月卒業 (三名)
西山伊六 佐賀
東道太郎 東京
農商務技師
○明治三十七年七月卒業 (二名)
○越田徳次郎 石川
熊本縣產業技師(葦北郡)
○明治四十二年七月卒業 (七名)
加藤保 愛媛
武田直 宮城
倉上政幹 埼玉
藤森三郎 長野
青木越雄 滋賀
目崎守義 埼玉

實業
○明治四十三年七月卒業 (五名)
菅俣吉之助 東京
早坂良次 山形
山田政滿 福井
小林雄次 廣島
三宅仙吉 東京
三木保次郎 兵庫
井田助作 新潟
河村加四郎 廣島
神谷尙志 東京
田中林三 大阪
塚越靜吉 群馬
中野宗治 長崎
○(舊姓川上) 松野助吉 東京
○(舊姓中村) 小林尙次 靜岡
島村滿彦 高知
下郷誠一 愛知
鈴木拙郎 三重
○明治四十五年七月卒業 (十七名)
川村久治郎 福井
笠村確 福木
吉田潔 福岡
千葉縣產業技師
山形縣技師
岡山縣水産試験場技師
肥後水産株式會社專務
廣島縣水産試験場長
富山縣水産講習所技師
臺灣總督府技師
朝鮮總督府技師
岡山縣水産試験場長
日本殖産株式會社技師
○大正二年七月卒業 (十名)
田中修次郎 東京
高橋宗作 山形
中山勝 熊本
中澤貞雄 長野
村松鼎 愛知
鬼塚正治 鹿兒島
牧野謙二 靜岡
前田九平 兵庫
小林彦四郎 福木
小金丸汎愛 福岡
阿曾文雄 千葉
姉帶定助 岩手
北村強彦 熊本
春藤一市 岡山
片岡虎之助 山形
川尻稔 三重
米田保 福岡
田中正男 東京
中村正明 埼玉
中島顯一 大阪
中井信隆 和歌山
松崎冬次 東京
荒野謙三 東京

實業
○明治四十四年七月卒業 (十一名)
井田助作 新潟
河村加四郎 廣島
神谷尙志 東京
田中林三 大阪
塚越靜吉 群馬
中野宗治 長崎
○(舊姓川上) 松野助吉 東京
○(舊姓中村) 小林尙次 靜岡
島村滿彦 高知
下郷誠一 愛知
鈴木拙郎 三重
○明治四十五年七月卒業 (十七名)
川村久治郎 福井
笠村確 福木
吉田潔 福岡

實業
○明治四十五年七月卒業 (十七名)
川村久治郎 福井
笠村確 福木
吉田潔 福岡
高知縣眞珠養殖會社
實業
○明治四十五年七月卒業 (十七名)
川村久治郎 福井
笠村確 福木
吉田潔 福岡
高知縣眞珠養殖會社
實業
○明治四十五年七月卒業 (十七名)
川村久治郎 福井
笠村確 福木
吉田潔 福岡
高知縣眞珠養殖會社

實業
○明治四十五年七月卒業 (十七名)
川村久治郎 福井
笠村確 福木
吉田潔 福岡
高知縣眞珠養殖會社
實業
○明治四十五年七月卒業 (十七名)
川村久治郎 福井
笠村確 福木
吉田潔 福岡
高知縣眞珠養殖會社

卒業業者

○同年十月卒業 (一名)
水産講習所嘱託

○大正三年七月卒業 (十三名)

實業
岐阜縣水産會技師
茨城縣水産試驗場技師
葛原冷蔵株式會社
長崎縣水産試驗場技師
水産講習所屬兼技師
伊豫真珠株式會社重役
岡山縣水産試驗場技師
內務省社會局嘱託
水産講習所技師
實業
○大正四年七月卒業 (十四名)
和歌山縣水産試驗場技師
山口縣技師
三重縣產業技師
廣島縣水産試驗場技師
長野縣產業技師

×住道潔水

岡田彌一郎

熊本縣水産試驗場技師
福井縣立小濱水産學校教諭
水産講習所技師
在米

九六

(舊姓長田)

手塚正男

小池正保

幸田伴次郎

佐藤玄三郎

坂本寅市

和氣友之助

三木信幸

日比谷爲造

劉彭

澤田進

石森武男

本間幸次郎

笠井繁治

藤本政男

越田秀包

江熊哲翁

澁谷光時

堀川虎三

沼田健助

×○

(舊姓三野)

和氣友之助

三木信幸

日比谷爲造

劉彭

澤田進

石森武男

本間幸次郎

笠井繁治

藤本政男

越田秀包

江熊哲翁

澁谷光時

堀川虎三

沼田健助

沼田健助

大分

和歌山

東京

山形

大分

石川

兵庫

山梨

宮城

北海道

東京

東京

神奈川

支那

支那

支那

支那

支那

支那

支那

水産講習所助手
熊本縣技師
三重縣水産試驗場技師
實業
水産講習所技師
三重縣立水産學校教諭
○大正七年三月卒業 (五名)
朝鮮黃海道技師
宮城縣水産試驗場技師
臺北州技師

○大正八年三月卒業 (十名)
鹿兒島縣立商船水産學校教諭
水産講習所技師(大長)
水産講習所技師(豐橋)
京都府水産講習所技師
長崎縣水産試驗場技師
青森縣產業技師
埼玉縣產業技師
巖手縣水産試驗場技師
東京府下大森森夕崎養魚場

卒業者

鷹司信敬

丹治經治

松本友雄

福島慶造

小西芳太郎

越石俊雄

今野壽三郎

青山鉦吉

原武信

吉武寅實

小園龍次

宮崎敏正

鈴木秀策

濱名龜助

西岡丑三

大島信夫

落合清

加藤喜八郎

建部豪

青木三雄

明石博次

秋谷庸

東京

福島

愛媛

宮城

東京

新瀉

山形

東京

福岡

山口

佐賀

熊本

靜岡

福島

佐賀

東京

東京

東京

石川

兵庫

神奈川

京都

千葉

愛知縣水産試驗場技師
○大正九年三月卒業 (八名)
佐賀縣技師
沖繩縣立水産學校教諭
伊豫真珠株式會社
鳥取縣水産試驗場技師
滋賀縣水産試驗場技師
福島縣水産試驗場技師
ひむろ組
水産講習所助教

○同年四月卒業 (一名)
高知縣水産試驗場技師
○大正十年三月卒業 (十一名)
東京府產業技師
群馬縣產業技師
水産講習所助手(木崎)
北海道水産試驗場技師
石川縣水産試驗場技師
研究科在學

東京府產業技師
群馬縣產業技師
水産講習所屬兼技師
熊本縣水産試驗場技師
支那吳淞水産學校教諭

齋藤光雄

巖谷那珂彦

永井正

永坂勝次

浦津繁太郎

上野惇五

小林忠太

江島靜次

海老名謙一

牧健三

五十嵐俊藏

石川龜好

川村正雄

梶田與之亮

高島啓次

田中友三

山田一男

八尋武良次

森本敬義

陳謀

陳謀

陳謀

陳謀

陳謀

陳謀

陳謀

陳謀

陳謀

陳謀

陳謀

陳謀

九七

○大正十一年三月卒業 (十一名)

岡山縣水産試験場技手
水産講習所助手
東北帝國大學理學部學生
宮崎縣水産試験場技手
島根縣水産試験場技手
佐賀縣水産試験場技手
水産講習所助手(豐橋)
山口縣水産試験場技手
水産講習所助手(二見)
水産講習所助手
水産講習所助手

○大正十二年三月卒業 (十五名)

岐阜縣水産會技手
宮城縣立水産學校教諭
茨城縣產業技手
實業
宮城縣水産試験場技手
東北帝國大學理學部學生
東北帝國大學理學部學生
水産講習所助手(高島)
千葉縣水産試験場技手

○大正十三年三月卒業 (二十二名)

井上良治 德島 滋賀縣水産試験場技手
川名武 千葉 水産講習所助手(二見)
高槻俊一 廣島 愛媛縣產業技手
南山豐 福岡
向山豐之進 山梨 實業
野田文綱 熊本 兵役
熊田朝男 栃木 水産講習所助手
福田亮三 和歌山 大垣市外水産増殖試験場
小見山樹 京都 兵役
酒井楸 東京 水産講習所助手
比留間 東京 愛媛縣產業技手
井澤潤次 新潟 下ノ一色淺海利用研究所
石井省一郎 靜岡 廣島縣水産試験場技手
原邦明 鳥取 北里傳染病研究所
士井久之 靜岡 魚介養殖株式會社(大師河原)
島飼敬義 千葉 水産講習所助手
小野寺元雄 宮城 鹿兒島縣水産試験場
川本信之 東京 樺太サザン軍政部
吉田裕 東京 水産講習所助手
田邊貞夫 神奈川 兵役
田中華太郎 神奈川 東北帝國大學理學部學生
內藤新吾 千葉 神奈川縣水産試験場技手

二 遠洋漁業科 (百一名)

東北帝國大學理學部學生
高知縣水産試験場技手

○水野復一郎 東京 德島縣水産試験場技手
宮崎廣三 長野

杉浦秋一 愛知

明治三十三年五月卒業(二名) 明治三十七年五月卒業(二名)
黑田九萬男 東京 小金丸増太郎 福岡
明治三十四年七月卒業(二名) 同年十一月卒業(一名)
南摩 紀廣 東京 戸田 牛平 靜岡
藤田勘太郎 島根 明治三十八年一月卒業(二名)
同年八月卒業(一名) 前田 春水 東京
木村廣三郎 石川 同年三月卒業(一名)
明治三十五年三月卒業(三名) 松尾 秀夫 長崎
高原剛太郎 福岡 同年十月卒業(一名)
志村 次郎 東京 佐藤 正孝 山形
同年七月卒業(三名) 明治三十九年四月卒業(二名)
石野 敬之 千葉 田中 仁吉 島根
松崎 彌市 鹿兒島 同年十一月卒業(一名)
森 茂樹 鹿兒島 黒木 圓太 福岡
明治三十六年一月卒業(二名) 明治四十年十一月卒業(三名)
高橋 潤二 岡山 寛 多記 茨城
同年十月卒業(一名) 美代 清信 鹿兒島
下田 圭一 廣島 明治四十一年八月卒業(一名)

山本 靜一 愛媛
 同年十月卒業(二名)
 大塚 三平 茨城
 御厨保太郎 長崎
 大正四年六月卒業(一名)
 古閑 義康 熊本
 同年十二月卒業(五名)
 飯田興兵衛 東京
 葛城 忠男 石川
 岡分 友海 鹿兒島
 莊司 勇 山形
 島田 喜一 靜岡
 大正五年四月卒業(二名)

中川 甚藏 東京
 三輪 源造 岡山
 同年七月卒業(六名)
 高柳繁太郎 群馬
 塚崎 謙吉 秋田
 山口慶四郎 群馬
 馬場 福壽 福島
 松尾我何人 長野
 久富 元 長崎
 同年十一月卒業(二名)
 柳井 捨吉 東京
 同年十二月卒業(二名)
 岡本 重治 東京

大正六年一月卒業(二名)
 桐木 富次 和歌山
 林 準二 東京
 同年四月卒業(一名)
 本田 光吉 愛媛
 同年六月卒業(一名)
 永福 虎 鹿兒島
 同年八月卒業(三名)
 大村 道一 兵庫
 大石 秀雄 靜岡
 山本 清内 山形
 大正七年五月卒業(一名)
 中村 吉次 長野

同年十月卒業(一名)
 仙波 平馬 栃木
 同年十二月卒業(二名)
 森村 共正 石川
 日下部彦次郎 兵庫
 大正八年五月卒業(一名)
 佐々木政之助 宮城
 大正九年三月卒業(二名)
 關口壽之助 東京
 和田 秀政 東京
 同年十二月卒業(一名)
 人見秀四郎 東京
 大正十年一月卒業(一名)

家坂 孝平 新潟
 同年八月卒業(一名)
 庵原 順一 兵庫
 同年十一月卒業(二名)
 池田 信也 廣島
 小濱 氏清 鹿兒島
 大正十一年十二月卒業(一名)
 大垣 光平 栃木
 大正十二年二月卒業(二名)
 谷口 武三 岐阜
 田原 精夫 東京
 大正十二年三月卒業(一名)
 吉田 春吉 東京

三 研究科 (四十二名)

(一) 漁撈科
 明治三十七年三月卒業(一名) 大正三年七月卒業(一名)
 日高 靖 宮崎 熊田頭四郎 栃木
 明治四十年三月卒業(一名) 大正四年七月卒業(一名)
 吉永貴八郎 長崎 鈴木 敏三 福岡
 明治四十四年六月卒業(一名) 大正五年五月卒業(二名)
 渡邊 理一 東京 齋藤 陽三 東京
 同年七月卒業(一名) 李 炫 國 朝鮮

武富 榮一 佐賀 大正六年三月卒業(一名)
 德永 外治 石川 大正七年一月卒業(一名)
 石崎實三郎 愛媛 大正九年七月卒業(一名)
 服部愛之助 大阪 大正十一年十二月卒業(二名)
 梅浦 健吉 東京 明治四十四年七月卒業(一名)
 同年七月卒業(三名) 堀 朝雄 東京

大正十二年二月卒業(二名)
 福野 久松 石川 明治四十五年三月卒業(一名)
 矢野 實 富山 大正二年五月卒業(一名)
 深山 義道 千葉 明治四十四年三月卒業(一名)
 同年六月卒業(一名) 内田 孝雄 東京
 同年七月卒業(三名)

谷村 重忠 岡山 弓削 讓 茨城
 山添 兵造 兵庫 同年十月卒業(一名)
 關根 豐 埼玉 近藤 辰雄 新潟
 大正四年七月卒業(二名) 大正六年四月卒業(一名)
 荻原 茂 長野 清水 淳三 神奈川
 深澤 三郎 山梨 同年九月卒業(一名)
 大正五年三月卒業(一名) 秦 義輔 福井
 李 商 韓 朝鮮 大正七年一月卒業(一名)
 同年七月卒業(一名) 小林 敏行 東京

(二) 養殖科
 明治三十七年十一月卒業(一名)
 今野 虎吉 福島 明治三十九年十月卒業(二名)
 丸川 久俊 島根 大正四年六月卒業(一名)
 中井 信隆 和歌山 大正五年十月卒業(一名)
 三木 信幸 徳島 同年七月卒業(一名)
 松井 佳一 山口

同年十一月卒業(二名)
 岡田彌一郎 東京 片岡虎之助 山形
 大正六年四月卒業(一名) 中島頼一郎 大阪
 同年五月卒業(一名) 佐藤玄三郎 東京
 同年七月卒業(一名) 松井 佳一 山口

同年九月卒業(一名)
 藤本 政男 兵庫 大正七年十一月卒業(一名)
 鷹司 信敬 東京 大正十一年十二月卒業(一名)
 吉田 直道 長野

四 別科 (現業科ヲ含ム) (二百七十九名)

(一) 漁撈科 (六十名)
 明治三十三年三月修業
 巾着網漁業専修(五名)
 戸田 圓次 高知
 土井 常吉 新潟
 ×大橋 直吉 靜岡
 紙子 次作 石川
 多屋勢四郎 和歌山
 明治三十九年十月修業
 遠洋漁業専修(五名)
 池田 兼吉 千葉 同年十月修業

×石井 次郎 千葉
 濱田 進 鹿兒島
 渡邊 梅吉 千葉
 津島 徳松 千葉
 明治四十年九月修業
 鯉漁業流網及延繩漁業 (五名)
 岩崎吉兵衛 靜岡
 田崎 次郎 茨城
 増田鬼一郎 靜岡
 有原初三郎 靜岡
 見原 萬吉 靜岡 同年十月修業

延繩及流網漁業(四名)
 津田 萬治 千葉
 上原 丈助 千葉
 平田辰五郎 千葉
 鈴木萬之助 千葉
 同年十二月修業
 鱈漁業 (二名)
 伊藤猪之助 福岡
 小田 積美 東京
 明治四十一年四月修業
 遠洋漁業専修 (六名)
 如中 彦助 愛知

西川村三郎 徳島
 田中由三郎 東京
 竹内治郎吉 三重
 柳生 政藏 愛知
 笹田 歌吉 東京
 同年六月修業
 捕鯨専修 (八名)
 岩村 孫作 長崎
 向井 三吉 和歌山
 上原由之助 靜岡
 倉光 三郎 青森
 山岸留之助 北海道 明治四十二年一月修業

小坂 定治 長崎
 島 可淳 神奈川
 柴 恒太郎 岡山
 明治四十一年十月修業
 流網及延繩漁業(六名)
 ×一色 勇 京都
 川崎徳左衛門 石川
 横山林四郎 三重
 齋藤與太郎 山形
 榑 梅太郎 新潟
 鈴木 三郎 千葉
 明治四十二年一月修業

延繩及流網漁業(一名)
兼城 德 沖繩

同年三月修業
鮪及鮪漁業 (七名)
染田 五助 長崎
中世古白吉 三重
山本 重松 愛知
湯淺辰太郎 三重
平松 幸枝 三重
平賀源之助 三重
洲加本三五右衛門 長崎
同年四月修業
延繩及流網漁業(一名)
鈴木 梅吉 千葉
同年八月修業(一名)
×岩重勝次郎 千葉
明治四十三年一月修業
延繩及流網漁業(一名)
石塚 直彦 山形
山下三之助 三重

出口 數平 三重
佐藤 德松 秋田
湯淺 萬吉 三重
宮崎長太郎 秋田
鹿内 力松 青森

(二)製造科
(二百十一名)
明治三十一年一月修業
禮詰專修 (五名)
河野 巖 宮崎
加藤 明二 秋田
鹽井 與八 石川
廣瀬 宗義 鹿兒島
森 義直 京都
明治三十二年八月修業
魚油、魚蠟 (五名)
×田中清之助 三重
山口三之助 千葉
昆 良八 岩手
越瀬 市松 和歌山
佐藤 義厚 茨城
同年十二月修業
禮詰專修 (五名)

中村里次郎 愛知
内田藏次郎 島根
松浦 善市 熊本
松坂豐次郎 富山
菅沼仙之助 福島
明治三十三年二月修業
魚油、魚蠟 (五名)
沃度專修
畑谷丑太郎 北海道
赤平卯十郎 青森
佐藤漁太郎 宮城
宮津 吾次 山口
杉本傳太郎 静岡
同年十二月修業
禮詰專修 (五名)
及川 鼎壽 宮城
村田新五郎 愛知
山田 德松 宮崎
×栗瀬 弘 長崎
吉川 德吉 滋賀
沃度專修 (三名)
田中 富佐 福井
松本龜次郎 高知

木高金之助 千葉
同年十月修業
禮詰專修 (二名)
大黒 誠 高知
齊藤 初治 長崎

同年二月修業
魚油、魚蠟 (四名)
沃度專修
池内林太郎 高知
熊谷伊三郎 福岡
山口 太助 佐賀
森崎 茂樹 静岡
同年十二月修業
禮詰專修 (五名)
村江 保翼 長崎
小松 由平 千葉
宮内 喜一 鹿兒島
鈴木 兼助 愛知
菅原 義藏 宮城
明治三十五年十月修業
節類專修 (五名)
秦 信之助 島根
米田 隆保 青森
熊谷伊三郎 福岡

山本荒太郎 和歌山
山下藤三郎 鹿兒島
同年十二月修業
禮詰專修 (六名)
糸井 藤吉 京都
米田 隆保 青森
中尾千代之助 鹿兒島
山田忠五郎 東京
新井 元吉 和歌山
里見時之助 山口
明治三十六年四月修業
魚油、魚蠟 (四名)
沃度專修
(舊名榮)
米田 隆保 青森
前田隆次郎 愛知
小松 山平 千葉
齋藤 玉治 愛知
同年十一月修業
節類專修 (三名)
市川 忠吉 山形
山岡 則重 高知
安里 積勳 沖繩
同年十二月修業

禮詰專修 (六名)
井上三太郎 三重
花見 七治 北海道
金子 房治 千葉
河合 音治 愛知
田村忠太夫 岩手
黄桂 芬 支那

同年十二月修業
魚油、魚蠟 (五名)
沃度專修
島山 吉雄 宮城
砥板源三郎 福岡
大久保直太郎 高知
古川九滿次 熊本
坂口榮太郎 静岡
明治三十七年十月修業
禮詰專修 (八名)
×濱 壽楠 和歌山
加藤 磯次 富山
八木 佐吉 滋賀
山田 達 愛知
松浦 金平 兵庫
紺谷 平治 石川
相木 嘉一 福井
森 眞 静岡

明治三十八年十月修業
節類專修 (二名)
箱石 米定 岩手
名嘉 幸徳 沖繩

同年十二月修業
禮詰專修 (十名)
堀内 謙藏 岩手
堀部 貫一 大分
小野 末男 福島
大上伊勢吉 兵庫
高橋敬三郎 三重
田河 恒藏 熊本
×高杉 賢藏 秋田
田中寅之助 愛知
仲田文五郎 沖繩
森本喜之助 和歌山

明治三十九年十月修業
節類專修 (六名)
德平 秀郡 沖繩
竹田 信平 島根
國吉 榮洪 沖繩
淺沼 文八 東京
坂下圓次郎 岩手
柴 正式 富山

同年十二月修業
禮詰專修 (十名)
濱口 義正 三重
四川 正次 東京
放生 要松 富山
相馬 柳吉 秋田
梅野 忠政 愛知
岡田 太郎 鹿兒島
矢野 喜藏 新潟
松浦 久雄 三重
小松 義篤 新潟
趙 桐 支那

明治四十一年一月修業
魚油、魚蠟專修 (三名)
芳賀岩治郎 宮城

花坂 傳吉 岩手
小澤 謙三 千葉
冷藏法 (一名)
村上 徳市 廣島

同年十月修業
節類專修 (三名)
岩城 宇平 宮崎
村上倉次郎 北海道
齊藤 八郎 静岡

同年十二月修業
禮詰專修 (七名)
一色 彌太 京都
石川 喜助 北海道
秩父 重宏 青森
大畑 伊八 三重
野村利兵衛 京都
山道 隆 長崎
三浦 大造 愛知

明治四十一年九月修業
節類專修 (四名)
井合 榮俊 新潟
佐野 實 香川

三浦 操 島根
日比谷要造 神奈川
同年十二月修業
禮詰專修 (七名)
伊藤末千代 山口
今藤 一馬 宮城
岩崎 正己 島根
石原 彦三 三重
河野 徳治 神奈川
野川重五郎 岩手
小槻 誠一 滋賀

明治四十二年九月修業
節類專修 (三名)
橋本喜之助 青森
桂 信吉 京都
田所 壽彦 高知

同年十二月修業
禮詰專修 (九名)
今立 昌雄 福井
馬場 一夫 滋賀
島中 敬三 山形
高橋 善三 宮城
栗本 冬助 北海道

卒業者

山本 金吉 三重
 佐脇 哲郎 三重
 吉川 廣助 熊本
 三橋 淳 鳥取
 明治四十三年七月修業
 貝殼彫刻專修 (四名)
 伊笠 小六 東京
 津田 德 高知
 遊佐 孫藏 宮城
 森本 繁尾 高知
 同年十二月修業
 總詰專修 (十二名)
 池山 盛一 三重
 芽賀岩次郎 宮城
 岡崎 常松 愛媛
 渡邊 昭吉 北海道
 加藤 福松 愛媛
 上林 唯治 京都
 加瀬 松吉 茨城
 田中東太郎 北海道
 福士 真三 青森
 酒井 茂吉 高知
 紀谷金之助 北海道
 東 鐵造 大分
 明治四十四年十月修業
 貝殼彫刻專修 (六名)
 池田與志雄 熊本
 德井利左衛門 三重
 渡邊 正勝 福島
 野田 文男 熊本
 三好德太郎 愛媛
 弘末 英男 高知
 大正三年四月修業
 珊瑚彫刻專修 (四名)
 泉 助次郎 宮城
 知場伊太郎 福島
 竹中 尙三 鹿兒島
 江豆 武義 鹿兒島
 大正四年九月修業
 珊瑚及介殼
 彫刻專修 (一名)
 高橋清一郎 島崎
 大正六年三月修業
 珊瑚及介殼
 彫刻專修 (三名)
 有島 好光 鹿兒島
 宮司 登 靜岡
 清水 義八 新潟
 同年十一月修業
 珊瑚及介殼
 彫刻專修 (一名)
 栗田 達道 熊本
 同年十二月修業
 貝殼彫刻專修 (一名)
 南風原英富 沖繩
 泉 摺郎 秋田
 星野 誠一 東京
 田中 泰夫 京都
 田中長一郎 北海道
 中村 義男 福岡
 宗像 敬二 東京
 宗像 健吉 福岡
 上野 務 大分
 山口 保平 神奈川
 藤井 金吾 廣島
 後藤 滿 愛知
 赤沼 山郷 青森
 菅原 誠 宮城
 鈴木宮太郎 三重
 同年十二月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (一名)
 赤井 卯八 福井
 大正七年十月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (二名)
 市川 友治 茨城
 山本 政七 高知
 大正八年四月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (二名)
 多田 館彌 山形
 野口 真美 東京
 同年六月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (二名)
 東 角藏 岐阜
 菅 繁弘 鹿兒島
 大正九年四月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (一名)
 鷹本初太郎 愛媛
 同年七月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (一名)
 二見林太郎 神奈川
 同年十月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (一名)
 市川 正次 栃木
 大正十年五月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (一名)
 安達善次郎 高知
 同年十二月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (二名)
 五十嵐善晴 山形
 大正十一年七月修業
 貝殼珊瑚彫刻專修 (一名)
 仁科 逸郎 千葉
 大正十一年十一月修業
 水産工藝專修 (一名)
 坂入一三男 茨城
 大正十二年四月修業
 水産工藝專修 (二名)
 浦田 武夫 岡山
 及川 善一 巖手
 同年十二月修業
 水産工藝專修 (三名)
 齊藤 學 福井
 寶來 利一 兵庫
 高田 卯一 群馬
 (三) 養殖科 (八名)
 明治四十一年三月修業
 鮭鱒養殖 (三名)

石川廣之助 茨城
 拂川悌之助 秋田
 野村菊次郎 宮城
 大正十三年三月修業
 淡水養魚專修 (五名)
 幸田勇喜雄 長崎
 内田 靜雄 靜岡
 内藤 啓一 愛知
 長内 清吾 青森
 山本次郎八 熊本
 松波虎之助 和歌山
 佐藤 暹 岡山
 笹子 治 千葉
 喜多川良吉 東京
 清水久馬次 兵庫
 山本 四郎 愛知
 志水 清 兵庫
 篠原 直衛 廣島
 森川 萬藏 福井

五 水産教員養成科 (二十五名)

明治三十三年三月卒業 (十五名)
 市原佐太郎 高知
 羽生辨之進 愛媛
 大竹 敬造 北海道
 加藤伊砂吉 靜岡
 片岡久次郎 新潟
 加藤登太郎 山形
 蒲 良輔 福井
 正富 彌藏 岡山
 正林 英雄 長崎
 秋保 知次 京都
 佐々木武治 青森
 宮崎 賢一 長崎
 滿岡 彦三 佐賀
 平山 嘉門 岩手
 關 菊次 秋田
 明治三十六年四月卒業 (十名)
 西原 佐一 愛媛
 長内 清吾 青森
 山本次郎八 熊本
 松波虎之助 和歌山
 佐藤 暹 岡山
 笹子 治 千葉
 喜多川良吉 東京

六 製鹽技術員養成科 (四十三名)

明治三十九年三月卒業 (十名)
 市川 信次 鹿兒島
 濱 清一 栃木
 富田 登吉 埼玉
 東條 高治 新潟
 岡本靜一郎 福岡
 中原 經治 福島
 中村 丈 福岡
 室川 重義 和歌山
 北川九一郎 滋賀
 平林 保義 東京
 尾關 素一 東京
 吉武 幾市 山口
 永井 重藏 兵庫
 黒田藤五郎 愛媛
 黒住 安臣 岡山
 松田 一平 徳島
 三浦 一 岩手
 三輪 清彦 愛知
 明治四十一年三月卒業 (六名)
 橋本昇次郎 栃木
 片山甲太郎 三重
 永山 千春 東京
 安岡 貞雄 高知
 清水新太郎 香川
 清家幹一郎 愛媛
 明治四十三年三月卒業 (十名)
 糸雅 仁一 埼玉
 伊藤 純造 埼玉
 大塚 松次 栃木
 早稻田俊彦 愛知
 谷本 善夫 廣島
 宗 安宅 福島
 那須 文六 香川
 酒井鐵三郎 茨城
 木下 實治 京都
 壬生勇一郎 東京
 明治四十三年三月卒業 (九名)
 稻垣 基一 香川
 羽島 久雄 東京
 大澤 國助 東京
 武田 晴彦 鹿兒島
 谷 悦三郎 徳島
 工藤甚五郎 青森
 五島 彰 茨城
 相場 好作 群馬
 宮宗 料介 廣島

七 特殊技術員養成科 (七十四名)

卒業者

年別	卒業科			合計	遠洋漁業科	研究科	別科(現業科を含む)			合計	教員養成科	製鹽技術員養成科	特殊技術員養成科	短期講習	合計
	漁撈科	製造科	養殖科				網着	罐	魚油						
明治三十年	一三	三四	九	五六						一五				一五	
三十一年	一五	二二	五	四二						一〇				六一	
三十二年	一二	一五	八	三五						一五				五二	
三十三年	一八	一七	三	三五						一四				五一	
三十四年	七	九	三	二〇						一四				三七	
三十五年	一三	一三	三	二九						一一				二七	
三十六年	一三	一三	四	三〇						一七				三三	
三十七年	一七	一七	二	三六						一七				三四	
三十八年	一七	一七	三	三七						一七				三五	
三十九年	一八	一七	二	三五						二〇				六五	

第二 卒業者狀況

一、卒業者一覽表(大正十三年五月調)

本表中×印ハ本所卒業者以外ノモノトス
 本表ノ外本科ニ於テハ漁撈科四名、製造科七名、養殖科三名計十
 四名、別科ニ於テハ罐詰專修二名ノ支那人卒業者アリ

- 大正八年十月卒業
 鱈魚並淡水(二十二名)
 藻類養殖法(二十二名)
 羽生田源作 群馬
 星野信太郎 群馬
 木田 林三 群馬
- 大正二年三月卒業
 鱈魚油採製(十二名)
 法短期講習(十二名)
 伊藤 傳次 青森
 畑中 彦助 愛知
 西尾 磯三郎 東京
 地井 辰蔵 千葉
 吉戸 昌俊 愛知
 田村 音吉 千葉
 村尾福太郎 神奈川
- 大正三年三月卒業
 鱈魚油採製(九名)
 法短期講習(九名)
 畑中 彦助 愛知
 田村 音吉 千葉
 竹田 興八 石川
 田村 寅吉 千葉
 田中 半七 香川
 高瀬 鶴次郎 富山
 安田 政吉 東京
 小杉 徳治 東京
 越中谷定吉 秋田
- 同年八月卒業
 冷水魚養殖(十七名)
 法短期講習(十七名)
 石川 久治 東京
 石川 廣之助 茨城
 池田藤太郎 兵庫
 星野 守治 群馬
 和井内貞時 秋田
 金子傳次郎 岐阜
 高木初太郎 福島
 谷川吉之助 福島
 村井藏三郎 福島
 村上秀治郎 福島
 山崎 良輔 秋田
 菊地 興易 茨城
 北原 定治 福井
 標 賢一 山梨
- 同年十月卒業
 鮎川發動機科(三名)
 土肥 長作 新潟
 小出健太郎 新潟
 山本 通 愛媛
- 大正四年九月卒業
 養殖及漁業基(五名)
 本調査方法(五名)
 田谷 英 石川
 ×村松 鼎 愛知
 昭井 賢三 岩手
 阿部 圭 福島
 赤根金太郎 秋田
- 同年十月卒業
 製造化學(二十名)
 伴 誠一 東京
 島崎 眞哉 高知
- 北川政次郎 神奈川
 河村 兵三 三重
 内田 孝雄 東京
 安井 章一 兵庫
 鈴木 儀八 岩手
 立川 卓逸 新潟
 福井 守一 東京
 内藤三郎 東京
 藍野 一男 千葉
 西村 和雄 東京
 (以下八名罐詰講習)
 濱野 仙吉 京都
 大島 愷二 東京
 大戸 與七 福井
 宮木 周市 山口
 大川 義吉 秋田
 村上 次郎 山口
 久保田覺齋 茨城
 關 虎雄 東京
- 大竹只之助 群馬
 尾崎 清一 群馬
 門倉 連武 群馬
 金子 虎彌 群馬
 高橋 貞治 群馬
- 高橋 貞作 群馬
 黒田定太郎 群馬
 黒澤覚治郎 群馬
 兒玉 誠 山形
 小曾根勲助 群馬
- 阿部藤三郎 群馬
 齊藤 貞造 栃木
 齊藤森三郎 群馬
 佐藤 郁造 群馬
 木村 喜作 群馬
- 君島松之助 栃木
 平出 誠太郎 栃木
 平出 元司 栃木
 森 兵吉 栃木

年	十三年	十二年	十一年	十年	九年	八年	七年	六年	五年	四年	三年	二年	大正元年	四十四年	四十三年	四十二年	四十一年	四十年
計	二六	一七	二三	二七	二一	二三	二〇	二七	一六	三〇	二一	二二	二一	二七	二〇	二一	一七	一八
實業	三二	二六	二三	一七	二三	一七	二〇	一五	一五	一九	一四	二四	二〇	二四	二〇	二一	二四	一六
商會	二二	一五	一一	九	九	一〇	五	一一	七	一四	一三	一一	一七	一一	五	七	七	三
社會	八〇	五八	五七	五三	五三	五〇	四五	五三	三八	六三	四八	五七	五八	六二	四五	四九	四八	三七
水産		三	×一	四	三	一	四	×二	一〇	九	九	一〇	九	五	六	六	三	二
組合		一	二		一		三	七	八	四	一	五	一				一	一
官廳																		
講習所																		
試驗場																		
水産學校																		
其他學校																		
學生																		
在學																		
海外																		
兵役																		
死亡																		
未詳																		
總計	八五	六七	×六一	五八	六〇	七七	五四	×八五	五六	九九	九一	八四	六八	八二	八八	八一	九二	七三

總計 四九四 五〇九 二二六 一、二二九 九八 四二 五五五 一〇七 三四二 八 一 八三八 二七六 三五四 三三 一、八〇九

二、本科卒業者就職状況一覽表 (大正十三年五月調)

科別	種別		計
	實業	官廳	
漁撈科	七六	九二	一八〇
製造科	八二	一三	二九
養殖科	二二	四一	六三
計	一八〇	二九	二一〇
實業	二二	四一	六三
官廳	一三	一七	三〇
計	二二	一七	三九
講習所	一	一	二
試驗場	一	一	二
水産學校	一	一	二
其他學校	一	一	二
學生	一	一	二
在學	一	一	二
海外	一	一	二
兵役	一	一	二
死亡	一	一	二
未詳	一	一	二
總計	二二	一七	三九

三、卒業者道府別表 (大正十三年五月調)

府縣別	科別		計
	漁撈科	製造科	
和歌山	八	五	一三
三重	二	四	六
愛知	一	一	二
靜岡	一	一	二
神奈川	一	一	二
東京	一	一	二
千葉	一	一	二
茨城	一	一	二
計	一〇	一〇	二〇
漁撈科	一〇	一〇	二〇
製造科	一〇	一〇	二〇
計	二〇	二〇	四〇
講習所	一	一	二
試驗場	一	一	二
水産學校	一	一	二
其他學校	一	一	二
學生	一	一	二
在學	一	一	二
海外	一	一	二
兵役	一	一	二
死亡	一	一	二
未詳	一	一	二
總計	二〇	二〇	四〇

卒業者狀況

本表中×印ハ本所卒業者以外ノモノトス
 四名別科ニ於テハ繼續講習修二名ノ支那人卒業者アリ

總計	外 區					海東區北	區 海 南 西				
	朝長岐滋山奈栃群埼					北	德高宮沖鹿熊佐長福				
	鮮野阜賀梨良木馬玉					道	島知崎繩島木賀崎阿				
四九四	三七七二二一一九七					六	四二六一一五三二八六				
五〇九	二三一一三一五三三					〇	一八二四四五三七四				
二二六	一七二一三六三五					一	三一三六六二〇				
一三二	二一四八二二五五					一	一八二八五三三二五				
二九	五七〇四八二二五五					一	一八二八五三三二五				
×九三八	一二二一一一					一	一一一九一二七三				
四二	二一一一一一一					一	一一一一一一				
二七六	一一四一一一一					〇	一三三七〇七一〇六				
二五	一一一一一一一一					一	一一一一一一一一				
四三	一一一一一一一一					一	一一一一一一一一				
七四	一一一一一一一一					三	一一一一一一一一				
二二四	一一一一一一一一					一	一一一一一一一一				
四〇	一二五一一九九三					一	三六三七二八二二八				
×三九	三一四九〇二一三六〇					三	二三八二三五九四三七一				

區 海 內			道 海 北					區
大兵香岡廣愛山大	秋山新石富福京島島	青巖宮福						
阪庫川山島媛口分	田形湯川山井都取根	森手城島						
五〇八四六一〇五	六一九四三六五六六	二八九四						
二五九五四八六九	一七一五五八九二五	二六四八						
三〇一四六二七三	一九四三一六五一二	一三四五						
二五八三六二三七	八三四二九〇九九三	一三七七						
一四二二三一一	×一五一四一一三二	一二二						
二二一一一一	一一二一一一一	一一二						
一五一二二四三三	七七六四四五一六	〇八二四						
一一二一一一一	一一一一一一一一	二一一						
一一三一一一一	一一一一一一一一	一一二						
一一一一一一二二	六一五二四一一一一	一二二五						
一一一一一一一一	一一一一一一一一	一一一						
一八五五五九六五	一四九三六八八二一六	一四二四一						
二六二三四四二	二×四四四一三八〇一三二	一八九三二						

附 錄

一 職員移動 (自大正十二年一月至同十三年九月)

大正十二年一月一日死亡
 大正十二年一月十九日依願免本官
 大正十二年一月三十一日依願免本官
 大正十二年二月十五日任水産講習所教授
 大正十二年三月十三日任水産講習所技手
 大正十二年三月二十四日死亡
 大正十二年三月二十五日動物生理學教授ヲ囑託ス
 大正十二年三月三十一日英語教授ヲ囑託ス
 大正十二年三月三日依願免本官
 大正十二年三月三十一日物理學教授ノ囑託ヲ解ク
 大正十二年四月五日地質學教授ヲ囑託ス
 大正十二年四月二十六日任水産講習所助教

囑託員 淺井勝次郎
 技手 金谷二郎
 屬 原 暉三
 源生一太郎
 山下武雄
 井口在屋
 森 潤三郎
 金山龍重
 神津民一郎
 金光正道
 加藤武夫
 海老名謙一

大正十二年四月日依願免本官
 大正十二年五月三日依願免本官
 大正十二年五月十四日任水産講習所教授
 大正十二年五月十八日任水産講習所屬
 大正十二年五月十八日依願免本官
 大正十二年五月日營繕ニ關スル事務囑託ヲ解ク
 大正十二年五月二十五日任水産講習所助教
 大正十二年五月三十日船用機關取扱ヲ囑託ス
 大正十二年五月三十一日雲鷹丸機關長ノ囑託ヲ解ク
 大正十二年六月二十日死亡
 大正十二年七月十九日任水産講習所教授
 大正十二年十一月二十二日講師囑託ヲ解ク

助教 古川武毅
 教授 井口武英
 囑託員、農商務事務官 石黒武重
 井出重男
 栗田讓一
 佐藤清次郎
 三宅 豐
 梅谷儀一
 古橋余四郎
 奥 建藏
 富樫建造
 西村寅三

大正十二年十一月二十二日海洋調査ニ關スル事項ヲ囑託ス
 大正十二年十一月二十二日海洋調査ニ關スル事項囑託ヲ解ク
 大正十三年一月九日普通動物學及魚病學教授ヲ囑託ス
 大正十三年一月九日普通動物學教授並實驗ヲ囑託ス
 大正十三年一月九日普通動物學授業及實驗並魚病學授業ヲ囑託ス
 大正十三年二月二十二日任水産講習所技手
 大正十三年二月二十二日依願免本官並兼官
 大正十三年二月二十二日任水産講習所屬兼技手
 大正十三年二月二十二日任水産講習所技手
 大正十三年四月十日英文教授ヲ囑託ス
 大正十三年四月二十三日教務ニ關スル事務囑託ヲ解ク
 大正十三年四月二十三日任水産講習所助教兼屬
 大正十三年四月二十三日任水産講習所屬兼技手
 大正十三年四月二十九日兼任水産講習所教授
 大正十三年五月一日文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ズ

海軍大佐 河村達藏
 囑託員 加藤勳次郎
 囑託員 森 下 蕭
 囑託員 森 潤三郎
 岡田彌一郎
 丸田秀夫
 浦津幣太郎
 川 尻 稔
 川村正雄
 川邊喜三郎
 小石安一
 小石安一
 森本敬義
 井出正孝
 給木直辰

大正十三年五月九日たらび蟹ノ生態ニ關スル調査研究ヲ囑託ス
 大正十三年五月十三日任水産講習所助教
 大正十三年七月三十日頭書職務ヲ免シ當分ノ内海洋調査部勤務ヲ命セラル
 大正十三年八月六日特許局技師並農商務技師ニ轉任
 大正十三年八月六日水産講習所長ヲ命ス
 大正十三年九月二日教務課長ヲ命ス
 大正十三年九月二日講習部養殖講習主任兼試驗部養殖試驗主任ヲ命ス
 大正十三年九月二日講習部養殖講習主任並試驗部養殖試驗主任ヲ命ス
 大正十三年九月十二日生徒取締ヲ命ス
 大正十三年九月十三日依願免本官
 大正十三年九月二十二日歸朝
 大正十三年九月二十二日試驗部製造試驗主任ヲ命ス
 大正十三年九月二十六日依願免本官

中澤毅一
 西 堀 朝 祐
 日 比 義 三
 日 比 義 三
 同 無 線 電 信 事 務 取 扱 技 手 船 村 泰
 同 同 事 務 長 中 野 清
 同 一 等 運 轉 士 囑 託 員 葛 西 清 重
 伊 谷 以 知 二 郎
 岡 村 金 太 郎
 岡 村 金 太 郎
 山 中 練 治
 妹 尾 秀 實
 海 老 名 謙 一
 小 石 安 一
 小 野 辰 次 郎
 木 村 金 太 郎
 木 村 金 太 郎
 幸 田 伴 治 郎

附 錄

一一三

一一二

二 學友會

德操ヲ研磋シ體育ノ發達ヲ期センカ爲メ職員生徒相謀リテ學友會ヲ組織シ所長ヲ會長トシ本所監督ノ下ニ開會スルモノニシテ之ニ要スル費用ハ職員並生徒ノ釀金ヲ以テ支辨ス

本會ハ學藝部及運動部ノ二部ニ分チ運動部ヲ更ニ端艇柔道劍道庭球及角力ノ五部トシ學藝部ニ於テハ毎月一回講演會ヲ開キ或ハ知名ノ士ヲ聘シ或ハ本所教官ノ講演ヲ請ヒ以テ生徒ノ德風ヲ發揚センコトヲ期シ又一方ニ於テハ寄宿舎ノ一部ニ圖書室ヲ設ケ各種ノ書冊ヲ蒐集シテ自由ニ閱覽スルノ便ニ供セリ
運動部ニ於テハ各部毎年一回大會ヲ開キテ技術ノ鍊磨身體鍛鍊ノ目的ヲ達セシメンコトヲ期セリ
本會役員左ノ如シ

會長 岡村金太郎
幹事 妹尾秀實

水産講習所學友會規則

第一章 總則

第一條 本會ハ水産講習所學友會ト稱ス
第二條 本會ハ會員ノ親睦ヲ厚フシ精神ノ修養身體ノ鍛鍊ヲ爲スチ目的トス
第三條 本會ハ本所現職職員出身者及生徒ヲ以テ組織ス
第四條 本會ハ其目的ヲ達センカ爲左ノ二部ヲ置ク

同 小川清一
同 鎌田武造
學藝部長 羽原又吉
運動部長 川合角也

一 學藝部

二 運動部
學藝部ヲ分チテ講演部及辯論部ノ二部トシ運動部ヲ分チテ端艇部柔道部、劍道部、庭球部及角力部ノ五部トス

第二章、會 員

第六條 會員ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 通常會員(本所生徒)
- 二 特別會員(本所職員)
- 三 贊助會員(本所出身者及舊職員)

第三章 役 員

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
一 會長 一名本所所長之ニ任ス
二 幹事 三名本所職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス
三 部長 學藝部、運動部各一名 同上
四 理事 三名 同上
五 運動部委員長 五名 同上

但端艇部ニハ副委員長一名ヲ置ク
六 會計掛 二名 同上

七 委員 學藝部四名、運動各部各二名
會計委員各二名生徒互選
但シ端艇部委員ハ六名トス

第八條 會長ハ會務ヲ總理ス

幹事ハ會長ヲ補佐シテ本會ノ會務ヲ掌ル
部長ハ其部ノ事務ヲ掌ル

理事ハ學藝部長ヲ補佐シ其部ノ事務ヲ掌ル
運動部委員長ハ部長ヲ補佐シ各部ノ事務ヲ掌ル

會計掛ハ本會ノ會計事務ヲ掌ル
委員ハ其部長及委員長ノ指揮ヲ承ケ及會計委員ハ會計掛ヲ補佐シ

各事務ヲ處理ス
第九條 委員ノ任期ハ一年トシ毎年四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル

附 錄

委員ノ改選ハ毎年四月之ヲ行フ

第四章 會 議

第十條 會議ヲ分チテ總會役員會及部會トス
第十一條 總會ハ毎年四月一回之ヲ開ク
第十二條 役員會ハ役員ヲ以テ組織シ重要ナル會務ヲ決議ス
第十三條 部會ハ其部ニ關スル事務ヲ決議ス
部會ノ決議ハ會長ノ承認ヲ承ケヘシ
第十四條 必要ノ場合ニ於テハ會長ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ

第五章 會 計

第十五條 通常會員ノ會費ハ一箇年金六圓トシ各學年ノ始ニ之ヲ前納ス
特別會員ノ會費ハ俸給年額三分ノ一トシ毎月之ヲ分納ス
第十六條 通常會員ハ入會金二圓五十錢ヲ納ムルモノトス
第十七條 豫算ハ毎年三月役員會ニ於テ之ヲ決議ス
各部會ニ於テハ毎年三月ニ其部豫算ヲ決議シ會長ニ差出スヘシ
第十八條 會計決算ハ毎年ノ總會ニ之ヲ報告スルモノトス
第十九條 經費ノ剩餘アルトキハ之ヲ基本金トシテ積立テ確實ナル銀行ニ預ケ入ルルモノトス

三 財團法人水産研究獎勵會

本所創立ヨリ十年水産傳習所創立ヨリ二十年ニ相當
スル明治四十年三月廿二日ヲトシ有志者相謀リ水産
研究獎勵會獎勵資金ヲ募集シ翌四十一年六月創立資
金一萬二千四百三十四圓六十七錢四厘ヲ以テ財團法
人ヲ設立シ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ
關スル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補給或ハ
貸與若ハ賞與スルコトトナセリ同財産ハ現時登錄資
産參萬五百圓ニシテ創立以來本所生徒ノ學資補給ヲ
受ケタルモノ十五人此金額七千九十四圓五十錢貸
與ヲ受ケタルモノ二十四人此金額四千三百十八圓ニ
シテ内本年度ニ於テ學資補給ヲ受ケタルモノ二人此
金額六百圓學資貸與ヲ受ケタルモノ三人此金額八百
八十五圓賞與ヲ受ケタルモノ六人此金額六十圓ナリ

寄附行爲

一 目的

第一條 本財團法人ハ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ關ス
ル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補給シ貸與シ若ハ賞與ヲ附
與スルニアリ

二 名稱

第二條 本財團法人ハ財團法人水産研究獎勵會ト稱ス

三 事務所

第三條 本法人ハ事務所ヲ東京市深川區越中島水産講習所内ニ置
ク

四 資産

第四條 牧朴真ハ其募集ニ係ル水産講習所獎勵學資金ノ現在金及有價
證券全部ヲ寄附シ本法人ノ資産トス

第五條 本法人ハ寄附金品ヲ受ケルコトヲ得

第六條 本法人ノ經費ハ其ノ資産ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨ス
但寄附金募集ニ要スル經費ハ資産ヨリ支出スルコトヲ得

第七條 本法人ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日

ニ終ル

第八條 本法人ノ收入事業ノ狀況ハ毎年一回前會計年度ニ屬スル分
ヲ發表スヘシ

第九條 本法人解散スルニ至リタルトキハ理事全員ノ同意ヲ得且評
議員會ノ決議ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ得テ其資産ヲ本財團法
人ノ目的ト同一ナルカ又ハ之ト類似セル他ノ學校團體若クハ學會
ニ寄附シ本法人ノ設立者ノ目的ヲ永遠ニ繼續セシム

五 解散

第十條 本法人ハ法定ノ解散事由發生スルニアラサレハ解散スルコ
トナシ

六 役員

第十一條 本法人ニ理事四名評議員十名ヲ置ク

理事ハ理事長之ヲ囑託ス理事長タル時ハ他ノ理事ノ
合議ニ依リ之ヲ囑託ス本法人設立當時ノ理事及理事長ハ寄附行爲
者ニ於テ第十二條ノ規定ニ依リ之ヲ選定ス

第十二條 理事一名ヲ理事長ニ充ツ

理事長ハ水産講習所長タル者ヲ以テ充ツ其ノ任期ハ水産講習所長
ノ任期ニ從フ

水産講習所長タル者囑託ニ應セサル時ハ理事ノ合議ニ依リ之ヲ定
ム此場合ニ於テハ其任期ハ理事ノ協議ニ依ル

附 錄

評議員ハ理事ノ協議ニ依リ囑託スルモノトス

七 寄附行爲ノ變更

第十三條 本寄附行爲ハ目的ニ關スル規定ヲ除クノ外理事全員ノ同
意ヲ經タル後評議員會ノ決議ヲ經主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ變更
スルコトヲ得

八 附 則

第十四條 本寄附行爲施行ニ關スル細則ハ理事ノ多數決ニヨリ之ヲ
定ム之ヲ變更スル場合亦同シ

四 試驗報告及其他刊行物

明治三十二年以降本所ニ於テ刊行シタル試驗報告其他主ナルモノノ左ノ如シ

一 水産講習所試驗報告

第一卷

第一册(三十二年三月)

浮子材料試驗第一回報告	川合角也
各種鮫肝油採取試驗第一回報告	伊谷以知二
海豚皮革試驗第一回報告	谷中知信
普通製鹽ト洗取製鹽トノ成分比較	小塚本道遠
鯉魚温室及普通孵化試驗	藤田經信
鯉野孵化水質適否試驗	藤田經信
神奈川縣下牡蠣飼育試驗	藤田經信
いたばき蕃殖方法調査報告	藤田經信
多摩川香魚人工孵化試驗第一回報告	藤田經信
龍蝦孵化試驗第一回報告	藤田經信

第二册(三十二年七月)

纖維試驗成績第一回報告	天置絲製造試驗第一回報告	附東京海海水觀測表	龍蝦温室孵化並養試驗第一回報告	わかめ蕃殖準備試驗報告	あさくさのり調査ニ付神奈川、愛知、三重、宮城、岩手縣下出張報告	多摩川香魚人工孵化試驗第二回報告	龍蝦孵化試驗第二回報告	漁網絲試驗第二回報告	ひらめ人工孵化試驗報告	
理學博士 岡村金太郎	理學士 吉岡哲太郎	理學士 藤田經信	理學士 今野實吉助	理學博士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎	理學士 大服石部芳他三助	理學士 大服石部芳他三助	理學士 大服石部芳他三助

第三卷 (三十八年五月)

鯉節製造改良試驗	魚類寒天包藏試驗	煮干製法改良並養造試驗	生牡蠣輸出試驗	獨逸種草鯉及本邦種鯉成長比較試驗	靜岡縣てんぐさ蕃殖試驗
理學博士 岡村金太郎	理學士 伊谷以知二	理學士 岡村金太郎	理學士 岡村金太郎	理學士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎

第四卷 (四十一年一月)

あさくさのり蕃殖試驗報告	てんぐさの構造ヲ論シテ寒天質ノ所在ニ及ブ	本邦産浮游生物ノ一部(伊豆ニ於ケル)攪脚類ニ和英兩文)	日本産絲蠶ニ就テ	多摩川あゆ一尾ノ消化器官ヨリ得タル硅藻ノ一部(和英兩文)
理學博士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎

第五卷

第一册(四十一年六月)	第二册(四十二年三月)	第三册(四十二年三月)	第四册(四十二年三月)	第五册(四十二年三月)
鯉肝油採取試驗報告	漁業用鹽試驗報告第一	貝殼利用試驗	鯉漁場調査	鯉流網漁業試驗
工學士 市野金次郎	理學士 吉岡哲太郎	理學博士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎	理學士 鎌田武造

第六卷

第一册(四十三年三月)	第二册(四十三年三月)	第三册(四十三年四月)
鯉肝油採取試驗報告(第二)	勸察加半島産鮭鱒族魚類調査報告	繭網絲燃方ノ優劣試驗報告第一
理學博士 岡村金太郎	理學博士 岡村金太郎	理學士 岡村金太郎

第七卷

第一册(四十四年一月)
餌料營養養網活洲試驗報告
理學士 柳小次郎

附 録

一一九

一一八

鯉魚游調査第一回報告

英佛兩國ニ於ケル鯉魚ノ分配ニ關スル調査

第二冊(四十四年三月)

秋海苔ノ附着状態ニ就テ

海苔被害調査報告

てんぐさ蕃殖試験第二回報告

露節海州ニコラエウスケ方面水産調査

英國鹽業製錠ニ關スル概略

第三冊(四十四年七月)

佐賀縣沿岸海藻蕃殖法

佐賀縣東松浦郡ふのり養殖試験成績報告

第四冊(四十四年八月)

本邦産沿岸硅藻類一斑(和文及英文)

第五冊(四十四年九月)

鯉節復付研究第一報

第六冊(四十四年十月)

鯉節復付研究第一報

第七冊(四十四年十一月)

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

鯉節復付研究第一報

靜岡縣下てんぐさ蕃殖試験報告第三回第五報

第一冊(大正元年八月)

鯉節製造中微付ニ關スル研究

製造地ノ差異ト鯉節ノ品等成分トノ關係

第二冊(大正元年九月)

漁業鹽試驗

第三冊(大正元年九月)

養蠶改良試驗

第四冊(大正元年十一月)

四十三、四十四年度冬木町養魚場試驗

四十五年度冬木町養魚場試驗

第五冊(大正元年十二月)

鯉魚標架設試驗

第六冊(大正元年十月)

たらば蟹調査

同製造調査

第七冊(大正二年三月)

沃度灰製造改良試驗

第八冊(大正二年三月)

鯉乾燥試驗

第九冊(大正二年三月)

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

鯉乾燥試驗

川合直也

柳直勝

小野辰次

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

岡村金太郎

第九卷

第一冊(大正二年五月)

油漬鯉節用油ノ檢定

第二冊(大正二年八月)

たらばかに鯉節原料肉ノ處理時間ノ長短ノ肉質ニ及ボス影響

たらばかに甲殼肥料ノ化學的成分

重要鯉蟹類調査第一報

第三冊(大正二年十一月)

心太ノ凍凝状態ニ就テ

冷蔵魚肉ノ研究

ヘンダーソン式冷凍試験

肝油分離試験

寒天及原藻ノ凝固度測定ニ關スル研究

第四冊(大正二年十月)

海苔藻立根密試験

海苔附着條件試験

秋季海苔附着盛期試験

海苔肥料試験

海苔肥料試験

海苔肥料試験

冬木町養魚場試驗

第十冊(大正二年三月)

鮭中ノ磷黃化合物中ニ就テ

鮭中ノ「グロコゲン」ニ就テ

鮭中ノ「エキス」ニ就テ

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

鯉節研究第一回以下第三回

第五冊(大正三年二月)

鯉節原料トシテたらばかに

雌雄肉ノ優劣ニ就キテ

鯉節トセル花咲蟹ノ成分

たらばかにノ肉及其ノ

雌雄ニ依ル相異

摺磨機ニ就テ

第六冊(大正三年三月)

細網腐敗ニ關スル試驗

各種細網類ノ腐朽ニ就テ

細網腐敗菌ニ關スル研究

細網腐敗ニ關スル試驗

網糸染色防腐試驗

網皮固形率試驗

第七冊(大正三年三月)

中宮寺湖産鯉寄生性蟲調査

金魚(てんぐさ)ノ研究

第十卷

第一冊(大正三年六月)

鯉節養殖試驗報告第一報

鯉節丸沼大尻沼水温調査

鯉節改良試驗報告第一報

魚種改良試驗報告第一報

岡村金太郎

西村寅三

木村金太郎

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

船野金一

附錄

附錄

附錄

附錄

附錄

附錄

附錄

附錄

附錄

第二冊(大正三年八月)

鯨油製造ニ際シテ得ラルル煮熱汁ノ成分並ニ新クシテ製法セラルル窒素ノ價格及其利用法

鯨油製造試驗報告

鳥賊墨汁利用試驗

海鹽皮糖製試驗報告

製革上石灰灰劑トシテ鯨内臟ノ利用

石灰灰劑トシテ柔魚内臟ノ利用

第三冊(大正三年十二月)

鯨節研究第四回以下第十回

「ヒソチン」ニ就テ

海産物ノ膠漿ニ就テ

鯨節製造法ニ就テ東北五縣出張報告

附介類煮汁報告

第四冊(大正四年三月)

鯨節内容物ニ於ケル熱傳導ノ狀態試驗

鯨節内熱傳導ノ理論

適度ニ充瑣セル鯨節ノ熱ノ傳導狀態ト加熱セル鯨節ノ熱ノ減減スル狀態ト

附飲食物被掩材料ノ性質ト微菌侵害トノ關係

第五冊(大正四年三月)

網ニ對スル水ノ抵抗ノ研究

第一次報告

網ノ染法網糸ノ腐敗網糸ノ材料ニ就テノ研究試驗報告

第三冊(大正五年八月)

柔魚鹽辛ノ成熱並ニ貯藏中ニ於ケル窒素化合物ノ分解及ヒ之ニ對スル食鹽ノ影響ニ就キテ

乾海苔ノ價格及ヒ淺草乾苔ノ品質ト成分ニ就キテ

東京灣ニ於ケル海苔場ノ海水ノ窒素及ヒ其他ノ成分ニ就キテ

魚肉ノ研究

寒天ニ混入セル砂土鑑別ニ就キテ

第六冊(大正四年三月)

養殖魚類利用試驗第一回報告

第一冊(大正四年七月)

布良船延繩漁船設計

ソコロフ式乾燥機試驗

新式卷縮機械及液狀護謨試驗

自記乾燥計

第二冊(大正四年十二月)

駿河灣産蠶調查報告

重要蠶類調查第二報告

瀨戸内海調査

海藻養殖用岩掃除器

第三冊(大正五年二月)

養魚餌料試驗報告

大正二年度冬木町養魚池鯉産卵孵化成績

大正三年度冬木町養魚池水質調査報告

丸沼養魚試驗池水質調査報告

附 録

ツンツ氏魚類呼吸作用實驗器說明書

第四冊(大正五年三月)

寒天原料ノ成分ニ就キテ第一報

鯨ノ肉ノ鑑定ノ標準ノ化學的解釋

鯨ノ肉ノ際得ラルル廢物ニ就キテ

鯨節トセルたらばかに肉ノ黑變ニ於ケル含硫黃物ノ分解ニ就キテ

鯨節トセル鯨肉ノ軟化ニ就キテ第一報

まがきトいたばがキノ比較

鰻魚ノ研究第一報

小蝦類製造調査及ヒ軟化ノ原因及防止策

第四冊(大正五年九月)

鯨油試驗報告

第五冊(大正五年十二月)

淡水飼養魚類ノ白點病調査報告

本邦産鯉ノ「ふいらりあ」病觀察

赤潮ニ就テ

海水中ニ溶解セル酸素瓦斯含量ニ就キテ

伊谷由一

山本

春日信市

伊谷以三

伊谷以三

伊谷以三

星野三郎

星野三郎

星野三郎

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

中澤毅一

赤潮海水中ノ酸素ニ就キテ
海苔肥料試験第二報

水産學士
酒井順三
中野道太郎
東野房郎

第十三卷

第一冊(大正六年十月)

鱈油漬試験報告

理學博士
小野直次
鈴木辰房

第二冊(大正六年十二月)

海苔色素試驗第一報告

理學博士
中野道太郎
東野房郎

第三冊(大正六年十二月)

てんぐさ成長試験

理學博士
岡村金太郎

第四冊(大正七年二月)

鯉肉ノ研究

農學士
松井秀三
山本祥三

鯉節研究(第十一回)

同 (第十二回)

農學士
松井秀三
山本祥三

第五冊(大正七年三月)

蠟詰トセル蝦肉ノ軟化ニ就
キテ(第三報)

農學士
角松井秀三

雄詰蝦肉ノ雌雄ニ於ケル成
分ノ相違

農學士
角松井秀三

魚膠及ビ食用「セラチン」中
ノ無機鹽ニ就キテ

農學士
角松井秀三

腐敗セルあげまきヨリ「ア
トレンシン」ノ分離

農學士
松井秀三

第六冊(大正七年三月)

養鱈試驗報告(第二報)

農學士
角松井秀三

菅沼、丸沼、大尻沼水溫調査
報告(第二報)

子爵
田中阿歌麿

第七冊(大正七年五月)

發動機甲板操縱裝置

工學士
春日信市

第八冊(大正七年十月)

水産講習所高島實驗場蕃殖
保護試驗成績第一次報告

理學博士
岡村金太郎

第九冊(大正八年三月)

「イーストニエウクレイツ
ク」酸ニ就テ

農學士
山川洵

第十冊(大正八年三月)

動物肉蛋白質ニ就テ(第二報)

農學博士
關根秀三

第十一冊(大正八年三月)

魚類ノ脂肪ニ存スル一種ノ
「ピタミン」(脂溶性A)ニ就
テ

農學博士
關根秀三

第十二冊(大正八年三月)

魚類雌雄肉蛋白質ノ相違

農學博士
關根秀三

第十三冊(大正八年三月)

鮭卵ヨリ雜質ニ至ル發育期
間中ニ起ル生物化學的變化
ニ就テ(第一報)

農學博士
關根秀三

第十四冊(大正八年三月)

「イーストニエウクレイツ
ク」酸ニ就テ

農學士
山川洵

第十五冊(大正八年三月)

動物肉蛋白質ニ就テ(第二報)

農學博士
關根秀三

第十六冊(大正八年三月)

魚類雌雄肉蛋白質ノ相違

農學博士
關根秀三

第十七冊(大正八年三月)

鮭卵ヨリ雜質ニ至ル發育期
間中ニ起ル生物化學的變化
ニ就テ(第二報)

農學博士
關根秀三

第十八冊(大正八年三月)

「イーストニエウクレイツ
ク」酸ニ就テ

農學士
山川洵

第十九冊(大正八年三月)

動物肉蛋白質ニ就テ(第二報)

農學博士
關根秀三

第二十冊(大正八年三月)

魚類雌雄肉蛋白質ノ相違

農學博士
關根秀三

第二十一冊(大正八年三月)

鮭卵ヨリ雜質ニ至ル發育期
間中ニ起ル生物化學的變化
ニ就テ(第三報)

農學博士
關根秀三

第二十二冊(大正八年三月)

「イーストニエウクレイツ
ク」酸ニ就テ

農學士
山川洵

第二十三冊(大正八年三月)

動物肉蛋白質ニ就テ(第二報)

農學博士
關根秀三

第二十四冊(大正八年三月)

魚類雌雄肉蛋白質ノ相違

農學博士
關根秀三

第二十五冊(大正八年三月)

鮭卵ヨリ雜質ニ至ル發育期
間中ニ起ル生物化學的變化
ニ就テ(第四報)

農學博士
關根秀三

第二十六冊(大正八年三月)

「イーストニエウクレイツ
ク」酸ニ就テ

農學士
山川洵

第二十七冊(大正八年三月)

動物肉蛋白質ニ就テ(第二報)

農學博士
關根秀三

第二十八冊(大正八年三月)

魚類雌雄肉蛋白質ノ相違

農學博士
關根秀三

第二十九冊(大正八年三月)

鮭卵ヨリ雜質ニ至ル發育期
間中ニ起ル生物化學的變化
ニ就テ(第五報)

農學博士
關根秀三

附 錄

第一冊(大正八年七月)

子蟻害豫防ニ關スル
研究(其一)

農學士
高木村金太郎

第二冊(大正九年三月)

海産動物油ノ性状
附海産動物油ノ發熱力及引火力

農學士
谷村重忠

第三冊(大正九年三月)

水産物ヲ基トスル調味料ノ研究

農學士
小野辰次

第四冊(大正九年三月)

水産講習所蕃殖保護試驗成績第二次報告

農學士
秦野辰次

第五冊(大正九年三月)

鮫ノ成長度ニ就テ

理學博士
岡村金太郎

第六冊(大正九年三月)

壓搾鱈魚ニ就テ

理學博士
岡村金太郎

一二五

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

神谷尚志

一二四

農學士
松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

農學士
角松井秀三

大正十三年十一月十日印刷
大正十三年十一月十一日發行

農商務省水產講習所

印刷者 東京市麴町區上六番町卅一番地
橫尾民藏

印刷所 東京市外東大久保町四百十二番地
成武堂印刷所

終

